

琵琶湖博物館業績目録

第 30 号

2025 年度(令和 7 年度)

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2026 年(令和 8 年)7 月

目 次

収録内容	1
館長	
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko O. 2
上席総括学芸員	
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi 7
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki 10
環境史研究係	
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma 12
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi 15
楊 平	YANG, Ping 19
妹尾 祐介	SENOO, Yusuke 24
大久保 実香	OKUBO, Mika 27
田畑 諒一	TABATA, Ryoichi 31
加藤 秀雄	KATO, Hideo 36
島本 多敬	SHIMAMOTO, Kazuyuki 39
半田 直人	HANDA, Naoto 43
生態系研究係	
梶永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro 46
大槻 達郎	OHTSUKI, Tatsuo 48
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James 51
寺井 章人	TERAI, Akihito 53
濱口 貴仁	HAMAGUCHI, Takahito 55
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito 57
川瀬 成吾	KAWASE, Seigo 60
奥田 岬	OKUDA, Misaki 64
菅原 巧太郎	SUGAWARA, Kotaro 66
佐藤 華音	SATO, Kanon 69
博物館学研究係	
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke 72
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako 78
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi 81
桑原 康一	KUWAHARA, Koichi 87
松岡 由子	MATSUOKA, Yuko 89
中村 久美子	NAKAMURA, Kumiko 92
渡邊 俊洋	WATANABE, Toshihiro 94
今田 舜介	IMADA, Shunsuke 97

会計年度任用職員

細川 眞理子	HOSOKAWA, Mariko	101
山岡 眞澄	YAMAOKA, Masumi	102

名誉館長

高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	103
-------	--------------------	-----

名誉学芸員

中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	105
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	106
用田 政晴	YODA, Masaharu	107
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	108

特別研究員

天野 一葉	AMANO, Hitoha	110
井内 美郎	INOUCHI, Yoshiro	111
池田 勝	IKEDA, Masaru	112
植田 弥生	UEDA, Yayoi	114
上中 央子	UENAKA, Hisako	115
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	116
柏谷 健二	KASHIWAYA, Kenji	117
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	118
小林 亮平	KOBAYASHI, Ryouhei	119
小松原 琢	KOMATSUBARA, Taku	121
新海 拓郎	SHINKAI, Takuro	122
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	123
寺本 憲之	TERAMOTO, Noriyuki	124
戸田 孝	Toda, Takashi	126
根来 健	NEGORO, Takeshi	127
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	129
増田 敬祐	MASUDA, Keisuke	131
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	133
山本 綾美	YAMAMOTO, Ayami	134
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	136
米田 一紀	YONEDA, Kazuki	138

総合研究・共同研究による印刷物	139
-----------------	-----

2025 年度の研究活動をふりかえって	140
---------------------	-----

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および会計年度任用職員、名誉学芸員、特別研究員等の2025年4月から2026年3月までの内容が収録されています。
2. 育児介護休業法に基づく休業等で、報告事項が無い者は掲載していません。
3. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】（査読を受けて掲載された論文）
- 【専門分野の著作】（査読を経ないが、専門性の高い内容の著作）
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表等】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察等への対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動（地域連携を含む）
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【展示活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【企画調整活動】
- 【広報営業活動】
- 【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

- 【館内の人事】
- 【海外渡航】
- 【館外の活動】

館長

館長として2年目を迎えた今年度は、館内では第三次中長期基本計画の中間見直しと開館30周年記念事業の準備、館外では大阪万博開催や滋賀県での国スポ・障スポ開催など、多くの多様な事業や行事を実施しながら、博物館の将来に向けての準備を行う年となった。

第三次中長期基本計画の中間見直しについては、知事からの意見も踏まえ、後半5年間に長期ビジョン策定と施設設備の抜本的な改修の検討を進めていくこととなった。やるべきことは増えたが、琵琶湖博物館の長期的存続に向けて取り組めるようになった点で、大きな進展と言える。副館長をはじめとした館内管理職職員など、多くの方々の尽力により、年度末には無事中間見直しの策定を行うことができた。30周年記念事業については、準備室時代も含め設立当時に琵琶湖博物館に求められていたことや、その後琵琶湖博物館が地域に果たしてきた役割についてあらためて見直し、これからの博物館の方向性を皆で考える機会と位置づけ、開館時に館長、副館長であった川那部浩哉名誉館長と田口宇一郎元副館長、そして名誉学芸員をお呼びし、当館設立の背景と目的、交流、情報、研究、水族の考え方について語っていただく事業セミナーを開催した。また、総合研究の成果発信および博物館ならではの資料と研究の意義を伝えるものとして、琵琶湖の淡水魚類標本から当時の琵琶湖の魚類相や環境を紹介する企画展示と関連国際シンポジウムの準備を進めた。古くは200年前のシーボルトにさかのぼり、海外に持ち帰られた歴史的資料を含め、国内外の琵琶湖の魚類標本を展示する予定である。そのための資料の借用依頼とシンポジウムへの協力依頼のため、1月末にはオランダライデンの国立ナチュラリス生物多様性センター、国立世界(民族学)博物館、シーボルトハウスを訪問し、直接協力依頼を行い、資料借用の覚書締結を行った。

対外的な交流としては、大阪万博の来賓の方々に琵琶湖や博物館の紹介を行う機会を得ることができた。5月1日には、当館と包括協定を締結しているオフリド水生生物研究所がある北マケドニアのナショナル・デーに招待され、以前来館された在日大使の方も含め、北マケドニア関係者の方々と晚餐会で交流を行うことができた。5月14日には、イル・ド・フランス州議長が来県され、知事との昼食会の場で琵琶湖の紹介を行った。

本年度も企業からのご支援や連携が進み、水族企画展示開催やふれあい水槽でのワークショップへのご支援、複数の環境学習会の開催などがあった。また、常設展示更新や水槽再生クラウドファンディング、琵琶湖の希少淡水魚保全のための研究などへのご支援に対し、伊藤忠商事株式会社様に知事から感謝状が贈呈されることになり、本社での贈呈に同席した。企業活動の発信については、生物多様性びわ湖ネットワーク編集の琵琶湖博物館ブックレット「トンボと企業と生物多様性」の発刊に協力し、地域企業の生物多様性保全活動の発信を行うことができた。

2025年度は、前年度と同様多くの方々にご来館いただき、3月15日には年間来館者数が50万人、年度末には526,171人と、前年度の526,918人とほぼ同数の来館者をお迎えすることができた。多数の方々に利用いただけることは大変ありがたいが、お盆の時期や3月8日のナイトミュージアムでの混雑や渋滞など、人が集中することによる課題もみえてきており、今後の対応が必要となっている。

研究においては、総合研究のとりまとめに向けて研究調査報告の準備を進めた。成果発信としては、カワウについての総論の章を依頼されていた「野生動物の保全と管理の事典」が発行された。その他、愛知県美浜町、レイカディア大学、わくわく野鳥博などでカワウに関する講演依頼があり、講演を行った。生態学琵琶湖賞では選考委員をつとめ、6月28日に当館において授賞式と受賞講演を行った。

専門分野における依頼では、県内外のカワウ対策や管理に関する助言のほか、滋賀県のレッドデータブック編さんにおいて担当する鳥類種原稿執筆を行うなど、管理と保全の両面から野生鳥類と人とのよりよい関係の構築に努めた。博物館関係では、千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会の委員として、施設整備計画等に意見を述べた。また、船の科学館の運営については、日本海事科学振興財団の理事として意見を述べた。その他館長として、日本動物園水族館協会の総会や近畿ブロック園館長会議への出席、日本博物館協会の参与・滋賀県博物館協議会の理事として総会や会議への出席を行い、意見を述べるなどした。また今年度は、自然史系博物館長懇談会を当館で開催し、議題のとりまとめや当日の司会進行を行った。

次年度は、30周年記念事業が本格的に始まる。当館の大きな飛躍の年となるよう引き続き努力していきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

亀田佳代子（2025）各論 17. カワウ. In: 「野生生物と社会」学会（編），*野生動物の保全と管理の事典*，朝倉書店，東京都：pp. 443-453.

【一般向けの著作】

亀田佳代子（2025）あいさつ. In: 島本多敬（編）. *第33回企画展示「川を描く、川をつくる-古地図で昔の堤をさぐる-*」，琵琶湖博物館：p. 3.

亀田佳代子（2025）ごあいさつ. In: 琵琶湖博物館（編）*琵琶湖博物館 年報 第29号 2024年度（令和6年度）* 琵琶湖博物館：p. 1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

亀田佳代子（2025年5月30日）ウ類の生態系機能と生態系サービス：琵琶湖博物館ならではの共同研究のススメ. 環境史ゼミ（琵琶湖博物館），琵琶湖博物館，[口頭発表].

亀田佳代子（2025年9月12日）「湖と人間」のよりよい共存を地域の人々とともに考える～琵琶湖博物館の参加と連携の仕組み～. 日本鳥学会 2025 年度大会 自由集会 W05 「第7回標本集会「博物館施設の生き残り戦略－ひいては標本を後世に残すために」，北海学園大学（札幌市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹），研究協力者（2019 年度～2025 年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

一般社団法人日本鳥学会，代議員，2024 年 1 月～2027 年 12 月.

日本鳥学会員近畿地区懇談会，世話人，2000 年 1 月～.

日本生態学会，近畿地区会自然保護専門委員，2008 年 1 月～2027 年 12 月.

日本生態学会，生態学琵琶湖賞選考委員，2025 年 1 月～2025 年 6 月.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10 件.

質問対応，琵琶湖博物館，5 件.

2025 年 11 月 16 日，びわ博子ども若者研究発表交流会，びわ博フェス 2025，琵琶湖博物館，閉会あいさつ.

2025 年 11 月 16 日，フロアトーク，びわ博フェス 2025，琵琶湖博物館.

2025 年 12 月 7 日，淡海こどもエコクラブ絵日記・壁新聞コンクール，琵琶湖博物館，審査委員長.

他の博物館・機関等主催行事

2025 年 5 月 1 日，北マケドニア晩餐会，大阪・関西万博会場内迎賓館（大阪市），日本側招待者.

2025 年 5 月 14 日，琵琶湖の紹介. イル・ド・フランス州議長昼食会，琵琶湖ホテル（滋賀県大津市），滋賀県側参加者・説明者.

2025 年 5 月 25 日，鶴の山におけるカワウと人との関わり，生物多様性の日記念イベント in 美浜～カワウと人とのかかわり～，美浜町総合公園体育館（愛知県），講師.

2025 年 7 月 30 日, ラムサール条約登録湿地としての琵琶湖の価値, しが環境学習担い手育成事業, 滋賀県環境政策課, 滋賀県庁(滋賀県大津市), 講師.

2025 年 8 月 3 日, 鶴呑みにできない琵琶湖の話, 野鳥生活, あべのハルカス近鉄本店(大阪市), 講師.

2025 年 8 月 5 日, Introduction of Lake Biwa, 京都サマープログラム 2025, 滋賀県総合企画部国際課, 琵琶湖博物館, 講師.

2025 年 8 月 21 日, カワウってどんな鳥?, 高島市朽木学区民会議 朽木てんぐクラブ体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2025 年 10 月 14 日, クマとのつきあいかた, ツキノワグマに関する学習会, 金勝小学校, 金勝小学校体育館(滋賀県栗東市), 講師.

2025 年 11 月 27 日, カワウと人との多様なかかわり～琵琶湖と鶴の山の比較からみる歴史と現在のつながり, 滋賀県社会福祉協議会レイカディア大学, レイカディア大学草津キャンパス(滋賀県草津市), 講師.

2025 年 11 月 27 日, カワウと人との多様なかかわり～琵琶湖と鶴の山の比較からみる歴史と現在のつながり, 滋賀県社会福祉協議会レイカディア大学, 彦根商工会議所(滋賀県彦根市), 講師.

2025 年 11 月 14 日, INWEPH (第 20 回国際・水田・水ネットワーク国際会議, 滋賀県耕地課, 琵琶湖博物館, あいさつ.

2025 年 11 月 26 日, JICA 研修「博物館とコミュニティ開発」コース, JICA 国際協力機構, 琵琶湖博物館, 冒頭あいさつ.

2026 年 2 月 3 日, カワウと人の環境史-琵琶湖と鶴の山の比較からみる過去と現在のつながり-, 吹田市人権政策室事務局, 琵琶湖博物館, 講師.

2026 年 2 月 7 日, 「トンボと企業と生物多様性」ブックレット発刊記念セレモニー, 生物多様性びわ湖ネットワーク, 琵琶湖博物館, あいさつ.

2026 年 2 月 14 日, 花の百名山伊吹山草原の多様性回復をめざしてー研究者、市民、行政との連携ー, 関西自然保護機構, 琵琶湖博物館, 閉会のあいさつ.

2026 年 2 月 23 日, 動物園水族館大学シンポジウム「動物園・水族館が拓く未来の保全」, 京都大学野生動物研究センター, 琵琶湖博物館, 閉会あいさつ.

視察対応

2025 年 5 月 15 日, あいさつ, 青森県立郷土館館長, 琵琶湖博物館.

2025 年 7 月 8 日, あいさつ, 国立中央科学館館長 (大韓民国), 琵琶湖博物館.

2025 年 10 月 29 日, あいさつ, 岡山県議会防災・環境対策スポーツ振興委員会, 琵琶湖博物館.

2025 年 12 月 5 日, あいさつ, 独立行政法人水資源機構監事, 琵琶湖博物館.

2025 年 12 月 12 日, あいさつ, モンゴル国立自然史博物館館長 (モンゴル国), 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

びわ湖放送, 白いカラスについて, (2025 年 9 月 18 日取材対応).

2025 年 11 月 6 日発売, 株式会社 KADOKAWA, 「ダ・ヴィンチ 12 月号」あの町の本棚, 推薦書籍紹介(2025 年 9 月 27 日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル「少し視点を変えるだけで散歩が楽しくなる! 学芸員が教える公園の歩き方!」, (2025 年 12 月 10 日撮影).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義「C 展示室川から森へ カワウのすむ森」, 1 回 (4 日).

【企画調整活動】

クラウドファンディングリターン，水族バックヤードツアー，あいさつ，2025年4月2日。
クラウドファンディングリターン，屋外展示DEEP ツアー，あいさつ，2025年4月23日。
琵琶湖博物館第33回企画展示オープン式典，開会挨拶，2025年7月19日，アトリウム。
クラウドファンディングリターン，水族バックヤードツアー，あいさつ，2025年7月22日。
琵琶湖博物館 博物館実習，修了書授与，2025年8月22日，会議室。
クラウドファンディングリターン，水族バックヤードツアー，あいさつ，2025年8月29日。
クラウドファンディングリターン，水族バックヤードツアー，あいさつ，2025年11月9日。
自然史系博物館長懇談会，司会進行，2025年12月18日，琵琶湖博物館。
平和堂財団ふれあい体験室オープン式典，開会挨拶，2026年1月10日，水族展示室。
クラウドファンディングリターン，水族バックヤードツアー，あいさつ，2026年2月28日。
琵琶湖博物館来館者50万人達成，あいさつ，2026年3月15日，アトリウム。
クラウドファンディングリターン，水族飼育員体験，あいさつ，2026年3月17日。
プレミアムナイトミュージアム，あいさつ，2026年3月20日，アトリウム。
クラウドファンディングリターン，水族バックヤードツアー，あいさつ，2026年3月21日。

【広報営業活動】

YouTuber マーシー氏，目録贈呈式，あいさつ・目録贈呈（2025年5月6日）。
株式会社山久、福田金属箔粉株式会社、東レエンジニアリング株式会社，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2025年6月10日）。
株式会社木下カンセー，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2025年7月15日）。
株式会社ダイフク，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2025年9月17日）。
株式会社ブリヂストン，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2025年9月24日）。
株式会社SCREEN ホールディングス，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2025年9月25日）。
株式会社伊藤忠商事，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2025年11月25日）。
日本メンテナンスエンジニアリング株式会社，第一工業製薬株式会社，感謝状贈呈式，あいさつ・感謝状贈呈（2026年3月3日）。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会，委員長。
琵琶湖博物館ブックレット，編集協力。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025年12月23日，令和7年度デジタル人材育成研修（幹部職員対象），オンライン受講。
令和7年度公文書管理制度研修（一般職員向け），資料配信。

【海外渡航】

2026年1月25日～2月1日，王立ナチュラリス生物多様性センター(オランダ王国ライデン市)，資料借用利用に関する覚書締結。

【館外の活動】

京大学生態学研究センター，協力研究員（1997年4月1日～2026年3月31日）。
滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員（2006年8月1日～2027年3月31日）。
農林水産省滋賀森林管理署「伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ」，委員（2006年7月12日～2026年3月31日）。

滋賀県カワウ総合対策協議会，委員（2010年7月21日～2026年3月31日）．
滋賀県カワウ総合対策協議会対策検討部会，委員（2010年7月21日～2026年3月31日）．
関西地域カワウ広域管理計画の推進に関する検討委員会，委員（2014年1月6日～2026年3月31日）．
環境省カワウ保護及び管理に関する検討会，委員（2015年9月1日～2026年3月25日）．
兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，構成員（2016年8月1日～2026年7月31日）．
京都市環境影響評価審査会，委員（2023年6月12日～2027年6月11日）．
千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会，委員（2023年11月10日～2027年3月31日）．
琵琶湖環境研究推進機構，研究推進顧問（2024年4月1日～）．
滋賀県博物館協議会，理事（2024年4月1日～）．
日本博物館協会，参与（2024年4月1日～）．
海と日本プロジェクト in 滋賀実行委員会，代表理事（2025年2月20日～）．
全国内水面漁業共同組合連合会カワウ被害防止対策事業検討委員会，座長（2025年6月11日～2026年3月31日）．
全国内水面漁業共同組合連合会効果的な内水面水産資源被害防止技術開発事業検討委員会【カワウ】，座長（2025年6月11日～2026年3月31日）．
兵庫県カワウ管理協議会科学部会，委員（2025年8月1日～2026年3月31日）．
日本海事科学振興財団，理事（2025年7月18日～2026年6月20日）．
大阪市立自然史博物館長選考委員会，委員（2025年7月9日～2026年3月31日）．
岐阜市「長良川の鵜飼漁の技術」保存活用協議会調査懇談会，構成員（2025年12月18日～2027年12月18日）．

地層から過去の堆積環境の解析や、地層中の火山灰層から、地層の年代決定、水系の変化推定、爆発的火山噴火活動の変遷の検討を中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖が形成されてきた地史を解明する研究に結びついている。また、現在の琵琶湖の堆積物から、過去 1000 年程度の時代における環境変遷の研究についても実施している。

過去の湖があった時代から現在までの数百万年オーダーの変化では、琵琶湖地域を中心とした近畿・東海地域における止水域分布や水系変化の検討を行っており、琵琶湖地域における止水域分布の変化を、古琵琶湖層群～現在の堆積時期全体について議論し、琵琶湖博物館研究調査報告書に掲載された。現在位置での琵琶湖があった時代の数万年オーダーの変化については、琵琶湖北湖の地盤テクニクスと水位変動の関係を、過去の研究者が実施した物理探査記録の収集を行って検討する共同研究を立ち上げ、北湖湖岸の堆積相の検討を行い、その一部は国内の学会発表を行った。また、国際プロジェクトである IODP3 の expedition503 における乗船しない火山灰を専門とする研究者として参加し、国内外の研究者と共に日本海溝付近の堆積物を対象とした研究を行い、乗船レポートを執筆した。人が関係している時代の数千～数百年オーダーの変化については、琵琶湖北湖を対象にした科研費研究プロジェクトに参加し、北湖の千年程度の堆積物採取を行った。

事業では、今年度から事業部長として、事業部全般の調整と推進を行った。第三次中長期基本計画の後半 5 年間の事業計画策定にあたって各担当へ議論の方向性の意見を行った。また、水族展示室における大型水槽破損に伴う水族展示再生についての事業調整などに関わる事業を行った。今年度の業務は大部分の時間をこれらの業務に当てざるを得ない状況であり、専門分野の学芸業務の運営も危うい状況となっている。博物館業務全体の見直しが課題と思われる。

担当しているはしかけグループでは、地域の岩石調査やグループ内の勉強会などのサポートを行った。また、地域の人々が自らの標本を使った展示を行うコーナーでの展示を展示者と協力して行った。毎年、当館の地学関係者が事務局として行っている地域の方々との研究発表会を開催した。

印刷物

【学術論文】

井内美郎・芦田貴史・里口保文・芳賀裕樹・大塚佳祐（2025）モダンアナログ法を応用した琵琶湖愛知川河口沖の過去数万年間の湖水位変動と沈降速度推定法の諸問題. *地球科学*, 79 : 119-127.

Kojima, T., Saito-Kato, M., Hattori, K., Ohtsuka, T. and Satoguchi, Y. (2026) Non-marine diatom biostratigraphy based on evolutionary changes of the Genus *Praestephanos* in the Pliocene lacustrine deposits of the Kameyama Formation, Tokai Group, and its correlation with the Kobiwako Group, Central Japan. *Island Arc*, 35: e70042.

【専門分野の著作】

里口保文（2025）鮮新－更新世における琵琶湖の止水域の変化と水棲生物相に与える影響. *琵琶湖博物館研究調査報告*, 第 38 号 : 4-16.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

里口保文・加三千宣・山田圭太郎・林竜馬・芳賀裕樹（2025 年 8 月 30 日）琵琶湖南湖の泥質堆積物の約 5000 年間の堆積速度. 日本第四紀学会 2025 年大会, 島根大学（島根県松江市）, [ポスター発表].

里口保文（2025 年 8 月 30 日）日本第四紀学会 2025 年大会口頭発表 PM1 座長. 日本第四紀学会 2025 年大会, 島根大学（島根県松江市）, [座長].

里口保文（2025 年 9 月 16 日）琵琶湖湖底段丘の深度. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学（熊本市）, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「既存研究における琵琶湖湖底物理的探査断面データの収集による水位変動記録の解析」
(研究代表者：里口保文)，研究代表者 (2025 年度～2026 年度)。

琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群甲賀層最上部の堆積環境変化」(研究代表者：里口保文)，研究代表者 (2025 年度)。

科学研究費助成事業基盤研究(B)「堆積物 DNA を用いた過去 1000 年にわたる湖沼生態系のレジリエンス評価」(研究代表者：松山大学・槻木玲美)，研究分担者 (2025 年度～2027 年度)。

International Ocean Drilling Programme (IODP3)「Expedition 503: Hadal Trench Tsunamigenic Slip History」(研究代表者：AIST・Ken Ikehara and University of Innsbruck Austria・Michael Strasser)，on-land Scientist (2025 年～2026 年)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本地質学会，代議員（地方区），2022 年 5 月～2026 年 4 月。

日本地質学会近畿支部，幹事長，2016 年 5 月～2026 年 4 月。

日本地質学会，生涯教育委員，2024 年 8 月～2026 年 7 月。

日本第四紀学会，領域 3 領域長，2023 年 8 月 1 日～2025 年 6 月 30 日。

日本第四紀学会，評議員，2025 年 7 月 1 日～2027 年 6 月 30 日。

地質学雑誌（日本地質学会）。査読，2 件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 9 月 2 日～4 日，滋賀県立大学，前期集中講義「地球科学 II」。

2025 年度博物館実習，琵琶湖博物館の事業説明・琵琶湖博物館（2025 年 8 月 18 日）。

【受賞など】

日本第四紀学会学術賞，2025 年 8 月 30 日，第四紀学の主に層序学に関する貢献。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10 件。

インターネットを通じた質問への対応，8 件。

2025 年 9 月 27 日，滋賀県（防災危機管理局・琵琶湖博物館）・彦根地方気象台主催 滋賀県防災気象講演会「過去を学び、現在を知る、そして未来につなぐ滋賀の地域づくり」，企画展示関連講演会，琵琶湖博物館，館内担当者。

2026 年 2 月 7 日，琵琶湖のふるさとで化石観察，クラウドファンディング返礼，三重県伊賀市，総括。
はしかけグループ大津の岩石調査隊，担当学芸員。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 12 月 20 日，講演「伊賀の大地と琵琶湖には深い関係がある」，2025 年度後期忍者・忍術学講座（三重大学伊賀サテライト），ハイトピア伊賀（三重県伊賀市），講演者。

視察等への対応

2025 年 12 月 12 日，琵琶湖博物館地学収蔵庫および展示等活動の視察，名古屋大学博物館研究員およびモンゴル国立自然史博物館館長，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2025 年 5 月 22 日，京都新聞，ふれあい体験室オープンの紹介，（2025 年 5 月 14 日取材対応）。

2025 年 8 月 17 日，NHK「おはよう日本：琵琶湖のカワニナ」，琵琶湖の島のでき方の解説（出演なし），（2025 年 3 月より随時取材対応）。

2025 年 9 月 14 日，岐阜新聞，悠遊ぎふ 9 月「特集 琵琶湖」，古琵琶湖層群・東海層群の解説，（2025 年 8 月 9 日取材対応）。

2026 年 1 月 17 日，NHK「ブラタモリ」，番組制作内容への協力，（2025 年 7 月～12 月取材対応）。

【資料整備活動】**琵琶湖博物館の活動**

鉱物標本，寄贈受け入れ.

【展示活動】**琵琶湖博物館の活動**

A 展示室地域の人びとによる展示「自然がつくったガチャガチャー球場コンクリーション（2025 年 4 月 8 日～2025 年 9 月 30 日），展示者との協議等対応および展示補助.

A 展示室地域の人びとによる展示「現代の石の長者～新川コレクションより～」(2025 年 10 月 1 日～2026 年 3 月 30 日)，展示構成.

A 展示室・企画展示関連地震防災パネル展示（2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日），防災危機管理局 防災対策室 防災企画係の展示担当者対応および展示作業.

第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」（2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日），展示協力.

展示交流員と話そう「琵琶湖が動くって本当？？」，内容相談.

【企画調整活動】

新任職員研修，事業部の業務説明（2025 年 4 月 15 日）.

新任職員研修，A 展示室の説明（2025 年 4 月 17 日）.

総合研究「琵琶湖と集水域の過去 150 年間の環境変遷の解明」では研究代表者、琵琶湖班班長を務めた。個人としては水位・水質・藻採りに関する総説と、明治～大正期の水位低下に伴う湖岸の灌漑方法の変化に関することをそれぞれまとめ、琵琶湖博物館研究調査報告書の原稿として提出した（編集中のため、業績には来年度掲載）。また、南湖の沈水植物のモニタリングを引き続き行い、2025 年度は過去三番目の現存量を記録したことなどを明らかにした。これらの成果は龍谷大学との連携講座、研究セミナー、新聞取材などを通じて還元した。

印刷物

【学術論文】

石川可奈子・井上栄壮・蔡吉・芳賀裕樹（2025）琵琶湖沿岸の自然再生・修復と生態系の現状評価. *用水と排水*, 67: 722-729.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

芳賀裕樹（2025 年 4 月 18 日）南郷洗堰設置に伴う水位低下と湖岸の灌漑様式の変化について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

里口保文・加三千宣・山田圭太郎・林竜馬・芳賀裕樹（2025 年 8 月 30 日）琵琶湖南湖の泥質堆積物の約 5000 年間の堆積速度. 日本第四紀学会 2025 年大会, 島根県松江市, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹）, 研究代表者（2019 年度～ 2027 年度）.

琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」（研究代表者：菅原巧太郎）, 研究分担者（2024 年度～2026 年度）.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 8 月 27 日, 龍谷大学特別講義（琵琶湖博物館共催）, 暮らしとつながる自然(2)琵琶湖の 150 年といま (1) (2), 講義.

2025 年 8 月 29 日, 龍谷大学特別講義（琵琶湖博物館共催）, びわ湖・滋賀学琵琶湖博物館 C 展示室見学・課題学習, 展示解説と課題提示.

2025 年度博物館実習, 講義「琵琶湖博物館の研究活動」, 琵琶湖博物館（2025 年 8 月 18 日）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12 件.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 7 月 26 日, 環境学習会「台所の水はどこに行くの?」, 株式会社環境創研と共催, 琵琶湖博物館, プログラム開発支援.

2025 年 8 月 2 日，環境学習会「感じよう！考えよう！楽しもう！ 目に見えない微生物たちのパワー」，株式会社村田製作所野洲事業所と共催，琵琶湖博物館，プログラム開発支援.

視察等への対応

2025 年 9 月 4 日，施設見学，琵琶湖保全再生推進協議会幹事会，琵琶湖博物館.

2025 年 10 月 20 日，施設見学，令和 7 年度琵琶湖疏水に関する情報交換会(滋賀県・京都市)，琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2025 年 12 月 9 日，京都新聞社，琵琶湖で水草大量繁茂，繁茂状況説明.

2026 年 1 月 12 日，京都新聞社，「使う人が主役」琵琶博 30 年，研究の説明.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「水鳥と水草」，1 回（2 日）.

モーニングレクチャー，講義「内湖とは何か？」，1 回（4 日）.

【企画調整活動】

新任職員研修，「琵琶湖博物館の研究活動について」，2025 年 4 月 15 日，琵琶湖博物館.

新任職員研修，C 展示室の説明，2025 年 4 月 17 日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究部長.

化学物質取扱主任者.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県，琵琶湖環境科学研究推進機構，幹事(2025 年度).

滋賀県環境部琵琶湖保全再生課，魚たちのにぎわいを協働で復活させるプロジェクト会議，参加メンバー.

滋賀県環境部琵琶湖保全再生課，水草対策チーム会議，参加メンバー(2025 年度).

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度は、科学研究費（基盤研究(C)）に関連して、琵琶湖堆積物および日本海堆積物を用いた花粉分析や定量的植生復元手法の開発を目指した花粉生産量に関する研究を継続して実施した。日本海堆積物の花粉分析に関する論文および定量的な植生景観復元モデルの応用に関する論文について国際誌に公表することができた。また本年度は、多賀町におけるアケボノゾウ発掘現場周辺の古環境復元とナウマンゾウの生育環境復元、最終氷期の植生復元に関する研究成果が共著論文として公表された。

さらに、科学研究費（国際共同研究加速基金(海外連携研究)）に関連して、トルコ・アナトリア地域における古環境変遷と燃料材利用や火災史の研究を昨年度から継続して実施した。また、科学研究費（基盤研究(A)）に関連して、日本各地域における遺跡での花粉分析データベースの収集と整理について進めた。滋賀県の遺跡花粉データベースの成果については、日本第四紀学会論文賞を受賞することができた。

琵琶湖博物館総合研究の中では、琵琶湖周辺における過去 150 年間の森林景観の復元を行うことを目的として、琵琶湖堆積物の花粉分析を用いた定量的植生復元に関する研究を進めた。また、琵琶湖博物館共同研究として、ドローン空撮を活用した植生の季節変動モニタリングについて、天然林や人工林、ヨシ群落において定期的にフィールド調査を継続して行った。琵琶湖博物館専門研究では、機械学習による花粉画像の自動同定システムの開発と評価について、産業総合研究所と共同で研究を進めた。これらの研究成果の一部については、琵琶湖博物館研究セミナーや大学講義などをおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、総務課企画・広報営業課の広報担当として、取材対応や資料提供に関する業務に取り組んだ。学会での活動としては、日本花粉学会の編集委員長と第四紀学会評議委員の業務を行った。

印刷物

【学術論文】

- 稲田 晃・西村祥子・金子陽子・上中央子・島村健二・志水里美・松江実千代・林 竜馬（2025）滋賀県彦根市芹川の段丘堆積物の花粉化石群 - 植生変遷および始良 Tn 火山灰の降灰季節とその植生への影響 - . *第四紀研究*, 64: 79 - 97.
- Hayashi, R., Sasaki, N., Takahara, H., Sugita, S. (2025) Testing the REVEALS-based vegetation reconstruction around Lake Biwa, western Japan, using absolute pollen productivity estimates derived from the flower counting method. *The Holocene*, 35: 1272-1282.
- 高橋啓一・大塚泰介・林 竜馬・間島信男（2025）ナウマンゾウ「浜町標本」の付着堆積物試料から得られた珪藻化石および花粉化石について. *化石研究会会誌*, 58: 11-19.
- Hayashi, R., Irino, T. (2025) Terrestrial vegetation and climate patterns during the dark layer depositions in the Japan Sea based on a pollen record from the KR07-12 PC-07 in the last glacial-interglacial cycle. *Progress in Earth and Planetary Science*, 12: 55.
- 富小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子（2025）古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元. *Diatom*, 41: 1-10.

【専門分野の著作】

- 林 竜馬（2025）古琵琶湖層群および琵琶湖堆積物の花粉化石からみる現生植物群の成立変遷過程と東アジアモンスーン・海流変動の影響. In: 高橋啓一, 田畑諒一（編）, *琵琶湖博物館研究調査報告*, 第 38 号, pp. 17-32.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 林 竜馬（2025年4月18日）自動スライドスキャナと人工知能を用いた空中花粉自動計測システムの開発．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 林 竜馬・板木拓也・宮川歩夢・福富友馬・齋藤明美・押川千恵・児塔栄子・岸川禮子（2025年9月27日）自動スライドスキャナと人工知能を用いた空中花粉自動計測システムの実践的応用への試み．日本花粉学会第66回大会，京都府立大学（京都市），[口頭発表]．
- 林 竜馬・佐々木尚子・高原 光・杉田真哉（2025年11月30日）景観復元法を用いた琵琶湖地域の過去150年間の定量的植生復元．第40回日本植生史学会大会，岡山理科大学（岡山市），[口頭発表]．
- 林 竜馬・高野龍也・入野智久・佐竹 渉・多田賢弘・多田隆治・松村公仁（2026年3月8日）カマン・カレホユック遺跡出土炭化材の樹種同定からみた燃料材利用と古植生の変遷．第32回トルコ調査研究会，東京国立博物館（東京都台東区），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「自動スライドスキャナと人工知能を用いた花粉自動計測システムの開発」研究代表者：林 竜馬，研究代表者（2025年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「ド既存研究における琵琶湖湖底物理的探査断面データの収集による水位変動記録の解析」（研究代表者：里口保文），共同研究者（2025年度～2026年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系のモニタリング-植生・河川・土地利用の時空間変動解析-」（研究代表者：奥田 岬），共同研究者（2023年度～2025年度）．
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹），共同研究者（2019年度～2025年度）．
- 科学研究費助成事業（基盤C）「過去50万年の琵琶湖・海洋花粉分析からみる温暖期の森の脆弱性と日本海効果の評価」研究代表者：林 竜馬，研究代表者（2023年度～2026年度）．
- 科学研究費助成事業（国際共同研究加速基金(海外連携研究)）「トルコアナトリア地域の遺跡と湖沼における気候・環境変化と文明との関係」（研究代表者：信州大学・山田 桂），研究分担者（2023～2027年度）．
- 科学研究費助成事業（基盤研究（A））「森から文化財へ：年輪年代学的産地推定を導入した森林開発と木材利用史の実証的解明」（研究代表者：奈良文化財研究所・星野安治），研究分担者，（2025～2028年度）．
- 科学研究費助成事業（基盤研究（C））「火山性湖沼の炭素レザボア年代を指標とした噴火に伴う火山ガス拡散放出の時系列復元」（研究代表者：山梨県富士山科学研究所・山本真也），研究分担者，（2025～2027年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本植生史学会，庶務副幹事，2026年～．
- 日本花粉学会，日本花粉学会会誌 編集委員長，2024年～．
- 日本第四紀学会，評議委員，2023年～．
- 第四紀研究，査読，1件．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2025年5月26日，龍谷大学瀬田キャンパス，里山学「花粉で探る過去の里山環境」．
- 2025年6月16日，龍谷大学深草キャンパス，里山学「花粉で探る過去の里山環境」．
- 2025年8月26日，龍谷大学瀬田キャンパス，びわ湖・滋賀学「琵琶湖の自然と生い立ち 森の歴史といま」．
- 2025年8月29日，琵琶湖博物館，びわ湖・滋賀学「A展示室見学」．
- 2025年8月30日，琵琶湖博物館，びわ湖・滋賀学「まとめと課題レポート」．

【受賞など】

日本第四紀学会論文賞（日本第四紀学会），2025 年 8 月 30 日，滋賀県の遺跡花粉データベースからみる地域・局所スケールの植生変遷史。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11 件。

はしかけグループ「森人」，担当。

2025 年 5 月 10 日，【わくわく探検隊】春の草花でしおりを作ろう！，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2025 年 5 月 15 日，花粉の化石からみる人間と植生の歴史，膳所歴史サークル 5 月例会，膳所市民センター（滋賀県大津市），講師。

2025 年 10 月 30 日，令和 7 年度第 1 回森づくり県民講座 森林を調べる～展示や実習から森のうつりかわりを考える～，びわ湖材流通推進課，琵琶湖博物館，講師。

2026 年 2 月 6 日，森林展示と滋賀県の森林について，滋賀県立伊香高等学校，琵琶湖博物館，講師。

2026 年 3 月 26 日，化石をテーマにした講話と植物観察、押し葉標本づくり，春休み 環境学習会（ダイハツ工業株式会社），琵琶湖博物館，講師。

視察等への対応

2026 年 2 月 19 日，ユニバーサルデザインについて，東北歴史博物館，琵琶湖博物館。

2026 年 3 月 17 日，ユニバーサルミュージアム＋展示室について，神奈川県教育委員会，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

取材対応・記事校正等に関すること，主担当。

資料提供・プレスリリースに関すること，主担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本整備，収蔵庫維持管理，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「樹冠トレイルと屋外展示について」，1 回（4 日）。

福井県年縞博物館連携事業 湖ラボ展 水月年縞 2025（2025 年 10 月 8 日～2026 年 1 月 11 日），担当。

「新生代の大型植物化石」を研究対象とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析を行い、当時の植物相とその変遷、古植生の復元や古環境を明らかにする研究を行っている。特に、原地性の植物化石群集である化石林に基づいた植生の時空間分布を復元することを行う。

今年度から始めた琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖地域における前期中新世後期の動植物相と古環境の解明」（2025～2026 年度、代表者：山川千代美）では、琵琶湖誕生以前に堆積した鮎河層群および同時代に堆積したとされる近隣の綴喜層群から産出した化石群に基づき、琵琶湖周辺地域の約 18-17Ma 前の古環境を明らかにすることを目的としている。琵琶湖博物館の収蔵標本や、新産地による寄贈標本データを加え、化石群の組成を捉え直し、総合的に海域・陸域の古気候・古環境を示す。海域では貝類、海棲哺乳類、魚類、陸域では植物化石（材、大型、花粉）、哺乳類の化石を中心に、今年度は各分野でのサンプリング、標本の確認、クリーニング、同定作業を進めた。また、鮎河層群や綴喜層群の化石産出地点での地質等の情報を共有し、2026 年度には琵琶湖博物館研究報告としてまとめる予定である。

専門研究「滋賀県多賀町四手産アケボノゾウ骨格標本に伴う植物化石からみた古植生」は、多賀町立博物館が行っている古代ゾウ発掘プロジェクトの発掘調査第一次から第十次まで、産出した大型植物化石のデータをまとめ、公表することが目標となる。この古代ゾウ発掘プロジェクトによる約 180 万年前の古植生・古環境の研究は、琵琶湖博物館はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」とともに植物化石資料の同定や整理を進めている。現地による目視の採取データと定量分析による洗出し法による種実化石の検出データも含めての報告となる。また、材化石の樹種同定を行ったところ、ヒノキ科、メタセコイア属、マツ属（二葉）、ハリグワ属を確認することができた。関連して、発掘場所の上位層となる富之尾火山灰層層準から産出している大型植物化石群集の組成も踏まえ、古環境・古気候の考察を行う予定である。

そのほか、山門湿原のボーリングコア試料から得られた大型植物化石群集について、まずは約 5000 年前の復元をまとめ公表した。最終氷期最寒冷期については、現在まとめているところである。また、京都府立大学との共同研究として、福知山市夕陽ヶ丘に分布する中部更新統福知山層の材化石および大型植物化石群集、花粉分析に基づいた古植生の復元を行うため、試料採取等を行った。この酸素同位体ステージ MIS11 層準は、約 41 万年前の中期更新世の間氷期にあたる。琵琶湖地域において湖西の堅田層・伊香立層や琵琶湖湖底のボーリングコアによる堆積物として存在しているが、明らかに MIS11 層準とわかる陸上の地層は現在見つかっておらず、琵琶湖地域との比較を行い、近畿地域における MIS11 層準の間氷期の植生を考察する。これまでの研究の延長として、古琵琶湖層群と同じ時代に堆積した上総層群のうち、昭島市田中町の多摩川河床に分布する加住層から産出した化石林について調査を行い、樹種同定を行なった。その結果の一部が、2026 年 3 月 28 日、むさしの化石塾、東京都立大学地形・地質学研究室とともに東京都の昭島市民図書館にて報告会と展示会が実施された。さらに、東海層群瀬戸陶土層から産出した材化石および堆積環境について、現地調査を行ない、樹種同定を行なった。その成果は愛知県立陶器美術館のリニューアル展示で公開している。

印刷物

【学術論文】

山川千代美（2025）大型植物化石群集からみた山門湿原における約 5,000 年前の古植生復元と環境の変化. 特集：自然共生サイト『奥びわ湖・山門水源の森』の保全活動と課題, *地域自然史と保全*, 47（1）：21－31.

【専門分野の著作】

山川千代美・植田弥生・長澤一雄（2026）山形市谷柏の須川河床から産出した最終氷期最盛期の埋没林樹種. *山形県立博物館研究報告*, 44, 25-30.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

山川千代美・神谷悦子・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト（2025 年 6 月 29 日）滋賀県多賀町四手産の大型植物化石群に基づく古植生復元. 日本古生物学会 2025 年年会発表, 北海道大学(札幌市), [口頭発表].

山川千代美（2025 年 8 月 22 日）鮮新—更新世のメタセコイア属を含む湿地林植生について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 [口頭発表].

山川千代美・福嶋徹・植田弥生・鈴木毅彦（2025 年 11 月 30 日）東京都昭島市田中の多摩川河床の化石林. 第 40 回日本植生史学会岡山大会, 岡山理科大学(岡山市), [ポスター発表].

山川千代美（2026 年 2 月 15 日）鮮新—更新世のメタセコイア属の古植生、古生態の復元. 第 44 回地学研究発表会, キラリエ草津, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県多賀町四手産アケボノゾウ骨格標本に伴う植物化石からみた古植生」（研究代表者：山川千代美）, 研究代表者（2025 年度）.

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖地域における前期中新世後期の動植物相と古環境の解明」（研究代表者：山川千代美）, 研究代表者（2025～2026 年度）.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

北海道大学博物館学博士課程, ミュージアムショップに関する研究対応, 2026 年 1 月 15 日.

【学会等々の役職・運営、論文の査読など】

化石研究会運営委員（2025 年 5 月 31 日～）.

第 43 回化石研究会総会・学術大会（2025 年 5 月 31 日～6 月 1 日）滋賀県立琵琶湖博物館、共催、担当補佐.

地学研究発表会 運営企画（2025 年 11 月 1 日特別講演会）（2026 年 2 月 15 日第 44 回）.

『植生史研究』（日本植生史学会）, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 13 件.

はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」担当.

2026 年 2 月 7 日, クラウドファンディング【第 2 弾】返礼「琵琶湖のふるさとで化石をさがす」(三重県伊賀市), 対応.

他の博物館・機関等の主催行事(地域連携を含む)

2026 年 3 月 28 日, 第 2 回多摩の化石「可視化展」に関連した基調講演会「昭島地域の約 200 万年前の化石林」東急財団「多摩川の美しい未来づくり助成」福島徹・鈴木毅彦, 瑞穂町郷土資料館, 講演者.

視察等への対応

2025 年 9 月 13 日, (公益財団) おかやま環境ネットワーク・おかやまの豊かな自然と暮らしを考える会, 琵琶湖博物館の建設準備に関することの説明, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2026 年 3 月 30 日, 中日新聞『湖研究・地域連携 今後も 30 周年を迎える県立琵琶湖博物館』琵琶湖博物館 30 周年記念に関すること (3 月 18 日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

古琵琶湖層群産化石標本, 受け入れ対応・標本整備推進・研究利用対応.

故田中芳男氏標本, 受け入れ対応.

文化庁イノベート・ミュージアム事業: 橋本忠太郎さく葉標本デジタル画像データ作成, 昆虫標本(膳所高等学校・海浜植物分布調査)撮影委託業務対応.

他の博物館・機関等の活動

愛知県陶器美術館, 植物材化石標本同定作業.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

新任研修: A 展示室「変わる気候とメタセコイアの森」レクチャー, 2025 年 4 月 17 日.

A 展示室: 変わる気候と森コーナー, 植物化石標本管理.

モーニングレクチャー, 講義「変わる気候とメタセコイアの森」, 1 回(4 日).

他の博物館・機関の活動

愛知県陶器美術館, 2026 年 1 月オープン, リニューアル展示「化石と自然の移り変わり」コーナー: パネル解説文, 化石写真提供.

瑞穂町郷土資料館, 2026 年 3 月 15 日~29 日, 第 2 回「多摩地域の化石—可視化展」2026 年 3 月 15 日~29 日, 主催: むさしの化石塾, 東京都立大学地形・地質学研究室.

【企画調整活動】

30 周年記念事業, 主担当. 全体計画準備推進

事業セミナー計画実施 2025 年 10 月 17 日, 11 月 21 日, 12 月 19 日, 2026 年 1 月 23 日, 2 月 20 日, 3 月 20 日

企画展示「博物館はタイムマシン」準備推進, ナチュラリス生物多様性センター(オランダ)標本借用対応

企画展示関連国際シンポジウム計画推進

30周年記念誌計画準備 2025年11月26日川那部名誉館長X田口初代副館長対談実施

30周年記念式典計画準備

30周年記念ロゴマーク制作，成安造形大学連携事業 2026年1月10日

ナイトミュージアム・ナイトプレミアムツアー計画準備（委託作業）2026年3月8日,20日実施

令和7年度来館50万人達成記念セレモニー 2026年3月15日実施 くす玉作成，式典司会.

びわ博フェス「私とびわ博ヒストリーー思い出とメッセージでつなぐ“みんなで作る展示”ー」，展示担当(2025年11月16日，17日).

企業連携，第33回琵琶湖博物館企画展示・水族企画展示実施広告・集積車ラッピングおよび水族企画展示後援対応，株式会社木下カンセー.

企業連携，水族ふれあい体験ワークショップ助成対応，公益財団法人平和堂財団.

企業連携，新名神サービスエリア田上？「琵琶湖展示」対応，Nexco 西日本.

企業連携・訪問等 2件.

You Tube 動画作成対応：マイクロドローン撮影対応.

【広報営業活動】

資料提供 2件.

【研究部関連事業】

季刊『湖国と文化』連載「琵琶湖センスオブワンダー」全体企画調整.

琵琶湖博物館ブックレット 担当，サンライズ出版との調整および販売広報促進対応.

科研費内部監査対応，2025年10月29日.

薬品棚卸し対，2025年9月24日， 2026年3月17日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

守山市埋蔵文化財審議員（2023年4月～）.

西日本自然史系博物館ネットワーク，理事（2020年2月～）.

西日本自然史系博物館ネットワーク 標本救済ネット，ケースワーカー（2020年2月～）.

文化庁イノベート・ミュージアム事業推進担当（2025年6月～2026年2月）.

事業部と研究部における主要な活動は次のとおりである。

事業部では、環境学習・交流係長として、第三次中長期基本計画の事業目標3の見直しや係全体の事業の総括や推進に努めた。「みんなで学びあう博物館へ」を軸に、地域・学校・研究機関・団体・市民を結ぶ協働事業を戦略的に推進した。参加型から協働型への転換を促し、博物館と関わりの継続と発展を重視した交流サービス事業の機能の強化に取り組んだ。「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習事業においては、連続講座（3回）のほか、地域課題の解決に向けたプログラムを企画し、ワークショップなどを開催した。特に単発事業の実施にとまらず、地域や多様な主体などとの関わりの発展を重視した仕組みづくりにも注力し、「みんなで学び合う」場へと一段階進化させた。その結果、多様な主体的な参画提案が増え、地域理解の深化と主体性の醸成への意識変化がみられ、多様な主体間の新たなつながりの場の創出に寄与した。また、今年も多くの方々や地域団体、機関などの支援や尽力により、大型交流イベントであるびわ博フェス、子どもエコクラブ発表会等の総括推進のほか、はしかけや地域、環境団体、自治会などとの連携により、交流サービス事業を順調に対応や推進することができた。本年度は事業部環境学習・交流係としての基盤を固めるとともに、事業目標3をより具体化・深化した一年であった。

研究部においては、研究発信・研究セミナーの担当として、運営、発信、推進を行った。皆様のおかげで館外からも多くの方々ご参加をいただいた。琵琶湖地域を中心とした研究調査においては、水をめぐる環境保全や地域づくりの在り方に関する研究を行ったほか、水辺調査、里山研究や赤野井湾プロジェクト共同研究や調査を進めた。琵琶湖における研究調査について、国際会議などで意見交換や議論を行ったことは、今後の国際的研究を進める一助となった。これまでの研究成果として、学術論文や研究会などにて発表を行った。また、地域との連携事業・研究や組織運営のありかたについて、地域に根付いた行事やシンポジウム等に参画することを通じて有意義な意見交換を行うことができた。今年度も引き続き、施策関連の環境審議会、景観審議会、こども環境活動の推進委員会の委員として対応した。

次年度は、この蓄積をもとにより発展的に事業や研究推進や組織運営、地域などに貢献できるように進めていきたいと考えている。

印刷物

【専門分野の著作】

楊 平 (2026) 環境問題の社会学解析—生活環境主義的立場. In: *環境社会学*, 中国社会科学文献出版社, 第2期:60 - 74.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

楊 平 (2025年5月10日) 減災につながる水環境の利活用—琵琶湖の湖辺地域の漁撈活動を事例に—, 2025年第1回【**相関災害科研**】全体研究会, 岡山理科大学岡山キャンパス(岡山市), オンライン, [口頭発表].

楊 平 (2025年5月11日) 地域共同管理. HUHAU 大学共同研究会, オンライン, [口頭発表].

楊 平 (2025年7月19日) 水郷地域の水環境をめぐる地域づくり. TAIHU 郷村環境研究会, オンライン, [口頭発表].

WeiZhu, Ping Yang, ほか (2025年7月24日) Analysis of the reasons for the Improvement of Water Quality in Taihu Lake: Water quality, cyanobacteria and phosphorus flux. 第20回世界湖沼会議 (2025), オーストラリア・ブリスベン, [口頭発表].

楊 平 (2025年9月4日) 琵琶湖の水保全と政策. HUHAU 大学生生活環境と自然保全関連の研究会, オンライン, [口頭発表].

楊 平 (2025年12月4日) 水環境と地域づくり. 環境と発展に関する国際会議 (CHINA) 水環境社会のテーマセッション, オンライン, [口頭発表].

楊 平（2025 年 12 月 14 日）水と地域社会ー「楽しめる・つながる・活かせる」暮らしの知恵ー。シンポジウム「水と山に寄り添う暮らしー琵琶湖の源流、走井の歩みとこれからー」，栗東歴史民俗博物館（滋賀県栗東市），[口頭発表]。

楊 平（2025 年 12 月 19 日）関係性価値の視点からみた水環境管理と生活組織の再機能化。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，「口頭発表」。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「自然資源の利用と管理」（研究代表者：楊 平），研究代表者（2025 年度）。

国際研究「湖沼環境の保全及び実践」（総括：水資源研究センター），共同研究者（2025 年度）。

龍谷大学共同研究「環境意識の多様性調査班（琵琶湖沿岸域）赤野井湾班」（2025 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Water Resources Protection，査読，3 件。

日中社会学会，査読，1 件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導】

2025 年度，天理大学 4 回生，琵琶湖地域調査，相談対応（社会学）。

2025 年度，龍谷大学 4 回生，環境活動と地域組織の調査，相談対応（2 回）（社会学）。

2025 年度，滋賀県立大学 3 回生，水環境の研究調査，相談対応（3 回），（社会学）。

2025 年度，博物館実習，対応（2025 年 8 月 22 日）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

環境学習・交流係全体の運営，業務，各事業の総括。

深く学ぶ力に基づく琵琶湖学習支援、連携等の総括。

質問コーナー及び質問，環境学習関連の相談，啓発等の対応，16 件。

水環境保全や地域づくり等の問い合わせ、調査等に関する対応，10 件。

地域連携，はしかけ調査活動の支援，調査などの対応，13 件。

はしかけグループ「水と暮らし研究会」，担当学芸員。

地域活動や水環境保全活動（高島市、近江八幡市他）関連の相談，啓発等，9 回。

2025 年度 交流イベント系事業への対応、主担当として開催：4 件。

2025 年 4 月 5 日，はしかけ調査対応、環境学習関連の啓発、説明，対応。

2025 年 4 月 16 日，国際会議に向けた琵琶湖学習，琵琶湖博物館，展示概説，対応。

2025 年 5 月 1 日，はしかけ調査，滋賀県耕地課，琵琶湖博物館，展示説明，対応。

2025 年 5 月 3 日，水族ふれあい体験対応，C 展示解説，巡回，対応。

2025 年 5 月 4 日，水辺環境の利活用に関する調査，対応。

2025 年 5 月 7 日，FR 水辺調査，はしかけ活動，対応。

2025 年 5 月 8 日，生涯学習，展示解説，交流事業の説明，啓発。

2025 年 5 月 17 日，フィールドレポーター調査，コメント，対応。

2025 年 5 月 27 日，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，琵琶湖博物館，地域連携関連の協議，対応。

2025 年 5 月 28 日，琵琶湖の水政策の歴史，講演会参加，地域連携関連の相談，打ち合わせ。

2025 年 5 月 29 日，琵琶湖学習関連の相談，環境政策関連の協議，コメント。

2025 年 6 月 7 日，琵琶湖学習・環境学習活動に関連する啓発，彦根市，解説。

2025 年 6 月 10 日，草津市老上中学校学生，水辺調査関連の相談，対応。

2025 年 6 月 12 日，内湖の水辺調査・環境活動に関する相談，対応。

2025年6月15日、びわ博フェスとも意見交換会、挨拶、対応。
 2025年6月17日、湧き水調査に関する調査、対応、展示解説。
 2025年6月28日、フィールドレポーター水辺調査、対応。
 2025年7月1日、びわ博フェスとも意見交換会、挨拶、対応。
 2025年7月3日、カバタ調査関連、相談、対応。
 2025年7月5日、フィールドレポーター水辺調査、コメント、対応。
 2025年7月13日、琵琶湖学習、環境活動に関する啓発、センター事業の説明、対応。
 2025年7月20日、環境学習イベント、対応。
 2025年7月29日、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、対応。
 2025年10月7日、企業の環境活動、啓発、ダイハツ工業株式会社、対応。
 2025年10月11日、イベント、琵琶湖博物館、参加者挨拶、対応。
 2025年10月12日、新規はしかけグループ活動、琵琶湖博物館、相談、対応。
 2025年10月13日、環境学習関連のイベント、琵琶湖博物館、対応。
 2025年10月14日、栗東市金勝小学校、社協、挨拶、協議、対応。
 2025年11月1日、フィールドレポーター水辺調査、琵琶湖博物館、コメント、対応。
 2025年11月8日、フィールドレポーター水辺調査、データ集計、琵琶湖博物館、対応。
 2025年11月9日、水辺の匠、環境学習関連のイベント、アクア琵琶(滋賀県大津市)、環境啓発、対応。
 2025年11月15日・16日、びわ博フェス2025、琵琶湖博物館、総括、対応。
 2025年11月16日、フロアトーク、びわ博フェス2025、琵琶湖博物館、展示解説、対応。
 2025年12月7日、淡海こどもエコクラブ交流会、開会挨拶、閉会挨拶、琵琶湖博物館、対応。
 2025年12月21日、連続講座「地域の魅力再発見」(第1回)、琵琶湖博物館、主担当。
 2025年12月24日、環境学習関連、意見交換、京エコロジーセンター(京都市)、意見交換。
 2026年1月18日、フィールドレポーター水辺調査、琵琶湖博物館、情報収集、データ集計、対応。
 2026年1月25日、連続講座「地域の魅力再発見」(第2回)、琵琶湖博物館、主担当。
 2026年1月28日、里山体験事業の推進、打ち合わせ、大篠原自治会、意見交換、対応。
 2026年2月12日、吹田市人権啓発推進協議会、琵琶湖博物館、講義。
 2026年3月12日、栗東市走井自治会、琵琶湖博物館、意見交換、対応。
 2026年3月15日、連続講座「地域の魅力再発見」(第3回)、琵琶湖博物館、主担当。
 2026年3月21日、環境学習センターイベント「実践と研究をつなぐ琵琶湖学習」、琵琶湖博物館、主担当。

他の博物館・機関等の主催行事

2025年6月9日、環境学習推進事業、大津市、審議。
 2025年6月11日、琵琶湖保全再生部会、大津市、対応。
 2025年6月13日、INWEPF(国際水田・水環境ネットワーク)関連、滋賀県耕地課、草津市、対応。
 2025年6月14日、同志社大学学生クラブ活動、琵琶湖博物館、対応。
 2025年6月26日、栗東市観光協会、シンポジウム関連、琵琶湖博物館、相談、対応。
 2025年7月4日、茨城県環境政策課、琵琶湖博物館、相談、挨拶、意見交換、対応。
 2025年7月7日、大阪国際大学、クラブ活動、琵琶湖博物館、インタビュー調査、対応。
 2025年7月10日、県立国際情報高等学校、水調査研究課題、琵琶湖博物館、相談、啓発、コメント、対応。
 2025年8月1日、環境学習推進事業、滋賀県環境政策課、琵琶湖博物館、相談、協議、対応。
 2025年8月4日、滋賀県環境学習推進事業、プロポーザル、大津市、対応。
 2025年8月20日、INWEPF(国際水田・水環境ネットワーク)関連、琵琶湖博物館、意見交換、対応。
 2025年9月2日、草津市こども環境会議実行委員会、草津市、意見交換、対応。
 2025年9月8日、環境学習推進審議会、大津市、意見交換、対応。
 2025年10月14日、ツキノワグマに関する学習会(金勝小学校)、金勝小学校(滋賀県栗東市)、対応。
 2025年10月18日、地球環境研究セミナー、京都市、参加、意見交換。
 2025年10月20日、環境学習推進審議会(滋賀県環境政策課)、大津市、意見交換、対応。

2025 年 10 月 31 日，環境フォーラム，草津市クリーンセンター，意見交換。
2025 年 11 月 6 日，滋賀県総合教育センター，琵琶湖博物館，研修活動相談，対応。
2025 年 11 月 7 日，環境学習センター事業、霞ヶ浦研究グループ，琵琶湖博物館，説明，啓発，対応。
2025 年 11 月 14 日，INWEPF（国際水田・水環境ネットワーク）国際会議，滋賀県耕地課，琵琶湖博物館，展示解説，市民活動の紹介，対応。
2025 年 11 月 18 日，高槻市立自然博物館，琵琶湖博物館，市民活動や連携事業関連，紹介，解説，対応。
2025 年 11 月 29 日，大阪自然史博物館友の会会員，琵琶湖博物館，環境学習センター事業の紹介，意見交換。
2025 年 12 月 1 日，竜王町地域学校協働，琵琶湖博物館，相談，対応。
2025 年 12 月 13 日，国際ロータリー第 2650 地区クラブ環境活動，琵琶湖博物館，啓発，意見交換対応。
2025 年 12 月 18 日，環境学習活動，琵琶湖博物館，環境学習センター事業、啓発，意見交換，コメント，対応。
2025 年 12 月 22 日，近江八幡市環境活動推進事業，近江八幡市，意見交換，対応。
2025 年 12 月 24 日，公益財団法人京都市環境保全活動推進協会，京都市，交流事業解説，意見交換，対応。
2026 年 1 月 11 日，栗東市環境経済部，地域活動連携，栗東市，相談，対応。
2026 年 3 月 7 日，草津市環境政策，環境フォーラム，草津市，意見交換，対応。

視察等への対応

2025 年 5 月 15 日，環境学習関連の意見交換，視察対応，草津市環境政策課，琵琶湖博物館。
2025 年 8 月 27 日，研究関連の意見交換，南京湖沼研究所，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

環境学習センターイベント「実践と研究をつなぐ琵琶湖学習」について，(2026 年 3 月 21 日取材対応)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル，びわこのちからチャンネル，中国語の確認，対応。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料受け入れに関する問い合わせ，対応，2 件。
社会科学研究室，不具合の修繕，対応。
交流ゾーン，不具合の修繕，対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2025 年度，C 展示室，「農村の暮らし」の維持管理，点検，清掃等，担当。
2025 年度，常設展示 C 展示室 農村展示，点検，管理。
2025 年度，展示物，展示室対応，5 件。
2025 年度，モーニングレクチャー，水環境の利活用と地域社会の活性化，1 回(4 日)。

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

新任職員研修，対応，セミナー室(2025 年 4 月 15 日)。
新任職員研修，展示解説，C 展示室 (2025 年 4 月 17 日)。
C 展示室，琵琶湖博物館，展示解説，対応(2025 年 7 月 26 日)。
博物館協議会，琵琶湖博物館，対応(2025 年 10 月 3 日)。
博物館協議会，琵琶湖博物館，対応(2026 年 2 月 10 日)。
琵琶湖博物館ナイトミュージアム，琵琶湖博物館，展示室対応(2026 年 3 月 8 日)。

【広報営業活動】

「地域の魅力再発見（連続講座）開催」，掲示板資料提供，3 件．

【研究部関連事業】

セミナーによる情報発信，研究セミナー，主担当，司会，運営．

研究交流の推進に関すること，担当．

博物館連携，地域活動，環境保全関連のサポート，2025 年度（8 回）．

館内の人事・館外活動等に関すること**【館内の人事】**

2025 年度，環境学習・交流係，選考，案内，対応．

2025 年 12 月，子どもエコクラブ絵日記・壁新聞コンクール審査，審査員．

2025 年度，衛生委員会，対応．

【館外の活動】

近江八幡市環境審議会，委員（2025 年度）．

大津市景観審議会，委員（2025 年度）．

近江八幡市総合計画審議会，委員（2025 年 6 月 13 日～）

草津市こども環境会議実行委員会，委員（2025 年度）．

滋賀県史編纂委員会環境部会，委員（2025 年度）．

原始・古代の人びとの暮らし、文化を解明するため、琵琶湖周辺地域を中心とした視点とアジア視点でみたつぎの3つのテーマで研究をすすめた。

1. 土器製作・調理の実験考古学的研究

守山市教育委員会および滋賀県立陶芸の森の研究者と連携し、市民参加型の連続講座を通じて弥生土器の製作と使用に関する実験考古学的研究を継続的に進めている。2025年度は、東南アジアでの民族調査から得た知見を反映させ、堅杵を用いた胎土作りの実証を試みた。協力関係にある陶芸家との意見交換により、堅杵の利用は土器製作において極めて効率的であることが確認された。弥生時代の木製品として出土する堅杵の一部は、従来想定されていた用途に加え、土器づくりの道具として機能していた可能性が強く示唆された。

今後は使用痕分析を通じて、その用途の差異を実証的に特定することが課題である。また、復元した弥生鍋による調理実験も継続し、今回は講座参加者が製作した多様な形態の土器を用いた。複数個体による同時実験は初の試みであったが、弥生時代の炊飯技法である「側面加熱を伴う湯取り法」において、器の形態や成形精度が調理時間や仕上がりにどのような影響を及ぼすかについて、有意なデータを蓄積することができた。

2. 東南アジアにおける「米の文化」調査

伝統的な稲作を中心とした生活構造の解明を目的として、フィリピン・ルソン島カリंगा州の山間部に位置するギナアン村を中心に現地調査および聞き取り調査を実施した。自給自足の伝統的様式を保持するカリंगा族の集落において、穂摘みによる収穫体系や、米倉とフィールドハウスの構造、臼杵を用いた脱穀工程の詳細な記録を行った。さらに、調理観察によって、側面加熱を伴う湯取り法のメカニズムとその実践によって土器に残される使用痕跡を精査したほか、イネわらを用いた伝統的な野焼きによる土器製作技法についても貴重な知見を得た。

本調査で得られた多角的なデータは、弥生文化との共通性が極めて高く、当時の生活像を具体的かつ動的に復元するための重要な比較資料となるものである。

3. 西アジア・フェニキア研究の推進

広島大学で開催された国際シンポジウム「レバノンのUNESCO世界遺産ティール アルバスサイトの発掘調査2025年度中間報告討論会」に出席し、最新の調査成果を報告した。本討論会では、南西崖面における堆積状況と出土土器の分析、構造壁から出土したランプの検討、および大型墓のデジタル復元に関する計3件の研究発表を行った。

これらの発表を通じて、出土遺物の詳細な編年的検討から当該大型墓の築造年代を紀元前1世紀から紀元後1世紀の間と特定するとともに、壁画のデジタル分析や構造調査の結果を統合し、度重なる改築を経る前の「創建当時の復元案」を論理的に提示した。これらの成果は、大型墓の変遷を辿るための基礎情報として不可欠であり、フェニキア文化の伝統が息づくレバント地域の編年体系構築に大きく寄与するものである。

兼務する業務では、情報セキュリティおよび情報システムの基盤整備・運用、ウェブサイトの管理運営に従事した。「琵琶湖博物館情報システム」および滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの安定的な運用に日々努めるとともに、今年度は計画的な端末機器の更新および廃棄作業を完遂した。また、博物館公式ウェブサイトの各コンテンツについて適宜更新作業を行い、情報発信の最適化と情報管理の徹底を図った。

印刷物

【学術論文】

妹尾裕介（2026）古代の西日本における小鍋炊飯の役割．物質文化（物質文化研究会），105：pp. 87-102.

【一般向けの著作】

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし③7近畿の米蔵、近江．京都新聞滋賀版，4月11日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし③8滋賀県の田んぼの移り変わり．京都新聞滋賀版，4月25日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし③9田んぼと水利．京都新聞滋賀版，5月9日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④0大嘗祭と斎田．京都新聞滋賀版，5月23日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④1おこめの品種と歴史．京都新聞滋賀版，6月13日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④2近代以降の品種改良．京都新聞滋賀版，6月27日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④3おこめと日本酒．京都新聞滋賀版，7月11日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④4ふなずし．京都新聞滋賀版，7月25日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④5イネの開花．京都新聞滋賀版，8月8日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④6牛とおこめづくり．京都新聞滋賀版，8月22日（朝刊）．

妹尾裕介（2025）おこめと私たち びわ博のまなざし④7穂摘みと根刈り．京都新聞滋賀版，9月12日（朝刊）．

妹尾裕介 (2025) おこめと私たち びわ博のまなざし④おこめがつなぐ過去と未来. 京都新聞滋賀版, 9月26日 (朝刊).

妹尾裕介 (2025) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎①湖底に眠る歴史の声. 京都新聞滋賀版, 10月10日 (朝刊).

妹尾裕介 (2025) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎②湖底遺跡の特徴. 京都新聞滋賀版, 10月24日 (朝刊).

妹尾裕介 (2025) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎③陸地化調査. 京都新聞滋賀版, 11月14日 (朝刊).

妹尾裕介 (2025) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎④ROV調査. 京都新聞滋賀版, 11月28日 (朝刊).

妹尾裕介 (2025) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑤大規模な淡水貝塚. 京都新聞滋賀版, 12月12日 (朝刊).

妹尾裕介 (2025) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑥縄文のタイムカプセル. 京都新聞滋賀版, 12月26日 (朝刊).

妹尾裕介 (2026) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑦弥生時代の始まりと水辺の暮らし. 京都新聞滋賀版, 1月9日 (朝刊).

妹尾裕介 (2026) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑧弥生時代の墓制と階層社会. 京都新聞滋賀版, 1月23日 (朝刊).

妹尾裕介 (2026) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑨木器の宝箱. 京都新聞滋賀版, 2月13日 (朝刊).

妹尾裕介 (2026) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑩丸木舟. 京都新聞滋賀版, 2月27日 (朝刊).

妹尾裕介 (2026) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑪日本の水中考古学の原点. 京都新聞滋賀版, 3月13日 (朝刊).

妹尾裕介 (2026) 湖底遺跡を巡る 琵琶湖に眠る謎⑫遺跡成因の諸説. 京都新聞滋賀版, 3月27日 (朝刊).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

妹尾裕介 (2025年5月25日) 古代小鍋の使い方と、小鍋による湯取り法炊飯が残存する理由. 日本考古学協会第91回総会, 筑波大学 (茨城県つくば市), [ポスター発表].

妹尾裕介 (2026年2月28日) 南西崖面における発掘調査成果: 堆積状況と出土土器. レバノンのUNESCO世界遺産ティール アルバスサイトの発掘調査 2025年度中間報告討論会 (科学研究費助成事業 (基盤B)「レバノン南部の都市ティールにおけるアルバスサイトの発掘調査」), 広島大学 (広島県東広島市), [口頭発表].

妹尾裕介 (2026年2月28日) 構造壁から出土したランプについて. レバノンのUNESCO世界遺産ティール アルバスサイトの発掘調査 2025年度中間報告討論会 (科学研究費助成事業 (基盤B)「レバノン南部の都市ティールにおけるアルバスサイトの発掘調査」), 広島大学 (広島県東広島市), [口頭発表].

妹尾裕介 (2026年2月28日) 大型墓のデジタル復元 南壁画の復元を中心に. レバノンのUNESCO世界遺産ティール アルバスサイトの発掘調査 2025年度中間報告討論会 (科学研究費助成事業 (基盤B)「レバノン南部の都市ティールにおけるアルバスサイトの発掘調査」), 広島大学 (広島県東広島市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺地域の産出粘土の砂粒および水分量の分析と土器製作実験」(研究代表者: 妹尾裕介), 研究代表者 (2025年度).

科学研究費助成事業 (基盤B)「レバノン南部の都市ティールにおけるアルバスサイトの発掘調査」(研究代表者: 広島大学・前野弘志), 研究分担者 (2023年度-2025年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年4月1日から9月31日, 滋賀県立大学大学院生, 講義「日本考古学B」.

2025年7月6日, 関西大学, 博物館見学実習.

2025年度博物館実習, 運営, 企画・広報営業課「移動博物館キットを組み立てよう」, 資料活用係「資料整理実習」・琵琶湖博物館 (2025年8月18日~22日).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12件.

インターネットを通じた質問への対応, 5件.

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2025年8月30日・8月31日・2026年2月7日, 土器づくりおよび調理実験, 弥生人養成講座「弥生土器づくり」(守山市教育委員会), 下之郷史跡公園 (滋賀県守山市), 講師.

視察等への対応

2025 年 5 月 15 日，リニューアルに向けた博物館調査，青森県立郷土館，琵琶湖博物館。

2025 年 7 月 2 日，研修「調査・研究及び啓発の体制、施設設備や運営方法など」，長岡京市埋蔵文化財センター，琵琶湖博物館。

2025 年 7 月 15 日，施設案内（研究棟、収蔵庫），山形県，琵琶湖博物館。

2026 年 1 月 24 日，環境省受託事業「インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力業務」に係る訪日研修，公益財団法人国際湖沼環境委員会，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

情報セキュリティ，担当。

情報システムの基盤整備と運用，担当。

ウェブサイトの管理運営，担当。

エントランスデジタルサイネージ管理，担当。

音声ガイドのシステム管理，担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料の整備および収蔵庫の維持管理，担当。

考古資料貸出，2 件。

考古収蔵庫特別観覧対応，6 件。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）事業における 3D コンテンツの制作と公開，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

B 展示室，維持管理，担当。

第 24 回学芸員のこだわり展示「やよいのつぼ」（2025 年 7 月 29 日～11 月 16 日），担当。

モーニングレクチャー，講義「考古展示について」，1 回（4 日）。

展示交流員と話そう，おもしろい土偶の顔、かお、カオ，内容指導。

他の博物館・機関の活動

滋賀県立安土城考古博物館，第 71 回企画展「近江一道が織りなす物語—」（2026 年 2 月 14 日～4 月 5 日），展示解説協力。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2025 年 6 月 4 日～6 月 16 日，フィリピン・ルソン島，カリंगा族の民族考古学的調査，科研費。

2025 年 9 月 18 日～9 月 23 日，インドネシア・ジャワ島，民族、文化に関する博物館資料調査，科研費。

【館外の活動】

京都大学総合博物館，研究協力者（2015 年 10 月～）。

近畿弥生の会，滋賀県世話人（2017 年 12 月～）。

2025 年度の主要な活動は以下の通りである。

(1) びわ博フェス 2025 の企画・運営

今年度より環境学習・交流係へ異動となり、びわ博フェス 2025 の主担当となった。環境学習・交流係のメンバーと共に、11 月 15 日 16 日の開催に向けた準備や当日の運営等に取り組んだ。

昨年度に開始した「フェスとも」の取り組みを発展させ、「フェスとも出展部」「フェスとも運営部」の募集を行い、「フェスとも」の皆様とともにつくるフェスを目指した。

出展部については、計 51 団体（「はしかけ」グループ 18、フィールドレポーター1、大学 2、企業 8、博物館等 3 地方自治体 1、その他 18）が出展し、ワークショップ（のべ 29 件）、展示室における展示交流（のべ 19 件）、ステージ発表（のべ 19 件）、ポスター発表（34 件）を実施した。

運営部については、「びわ博にかかわる人をもっと知りたい」「スタッフ側でフェスにかかわりたい、フェスをよりよくしたい」と考える個人の方にご応募いただくものとし、4 人にご参加いただいた。実際に取り組む内容については事務局と相談のうえ決めることとし、もじあつめの景品となるびわ博カードのデザイン・制作、「もじあつめ」チェックポイントと回答用紙のデザイン、マップ・案内看板のデザイン、チラシの制作等について、事務局と協働で取り組んだ。デザインの得意なメンバーに参画・ご協力いただいたことで、フェスのイメージ作り、会場の空間作りや、わかりやすい配布物、もじあつめや展示物と連動した景品といった面を充実させることができた。

また、今年度は、びわ博フェスの一環としてホールにて「びわ博子ども若者研究発表交流会」を開催し、琵琶湖流域をフィールドに調査・研究を進める子ども・若者が、自身の研究成果を発表するとともに、他の学生、研究者等と意見交換、交流を深める場とした。小学生から高校生まで 9 件の発表があり、生き物好きの学生同士や学芸員との交流の場となったと好評だった。

びわ博フェスやフェス同士の活動については、「友の会サミット 2025 博物館コミュニティの未来を考える」と「西日本自然史系博物館ネットワーク 総会企画シンポジウム「地域と交わる博物館」」でその取り組みを紹介した。市民参加や地域との連携に関して、他館の事例を学びつつ今後のありかたを検討するとともに、博物館学的な視点からびわ博フェスを考える機会となった。

(2) 山村集落の地域資源管理とその継承に関する調査研究

長浜市余呉町の離村後の集落とその資源利用に関して、集落の元住民らを対象とした聞き取り調査を行った。2016 年に丹生ダムの建設中止が決定し、その後、いわゆる残存山林も滋賀県の行政財産として管理されることを背景に、県自然環境保全課の行政官や、琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県立大学の研究者らと課題や問題意識を共有し、連携しながら調査を進めた。研究は途上であるが、その経過を「離村 30 年後の森のあり方ー建設中止後の丹生ダム建設事業予定地の現在ー」として、2025 年度春季コモンズ研究会で報告した。

高島市朽木古屋の六斎念仏踊りについて、踊り手の一人として参与観察を実施しつつ、多様な主体が関わる形での地域資源の継承について調査研究を行った。2025 年 11 月 27 日には、朽木西小学校、朽木の知恵と技発見プロジェクト事務局、古屋六斎念仏踊保存会の協力のもと武田力氏を講師として朽木西小学校の児童や教員らを対象とした六斎念仏踊りの稽古を実施した。こうした活動をもとに、地域資源の現代的な継承について、「誰が」「どこで」継承するのかといった視点から検討し、「地域の伝統芸能をだれがどこで継承するかー朽木古屋の六斎念仏踊りを小学校とつなぐ実践からー」として琵琶湖博物館研究セミナーで報告した。また、野生生物における域内保全・域外保全の概念を援用し「地域の文化資源の域内保全・域外保全」として、「2025 年度第 7 回動物園水族館大学シンポジウム 動物園水族館が拓く未来の保全ー生息域内外をつなぐ新たな挑戦」において異なる分野の研究者らと意見交換を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

大久保実香（2025）関西・東海地区研究会開催報告．日本村落研究学会研究通信（日本村落研究学会），No. 273：8-9.

大久保実香（2026）僕たち、孫ターン．やまだらけ(NPO 法人日本上流文化圏研究所)，108:1-4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

大久保実香（2025 年 11 月 30 日）フェスでつながるコミュニティー滋賀県立琵琶湖博物館における「フェスとも」ー．友の会サミット 2025 博物館コミュニティの未来を考える（大阪市立自然史博物館・大阪市立自然

史博物館友の会・認定非営利活動法人大阪自然史センター), 大阪市立自然史博物館(大阪府), [口頭発表].

大久保実香(2026年2月16日)交流の場をつくる一滋賀県立琵琶湖博物館「びわ博フェス」の事例一. 西日本自然史系博物館ネットワーク総会企画シンポジウム「地域と交わる博物館」, オンライン, [口頭発表].

大久保実香(2026年2月20日)地域の伝統芸能をだれがどこで継承するかー朽木古屋の六斎念仏踊りを小学校とつなぐ実践から一. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

大久保実香(2026年2月22日、2月23日)地域の文化資源の域内保全・域外保全. 2025年度第7回動物園水族館大学シンポジウム 動物園水族館が拓く未来の保全ー生息域内外をつなぐ新たな挑戦(京都大学野生動物研究センター), 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

大久保実香・木村道徳・上田洋平・小西優斗・北川裕樹(2026年3月11日)離村30年後の森のあり方ー建設中止後の丹生ダム建設事業予定地の現在一. 2025年度春季コモンズ研究会 in 西日本「過少利用・離村が進む状況でのコモンズと入会権ー現場からの論点提示一」, 同志社大学今出川キャンパス(京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業科研費若手研究(B)「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」(研究代表者: 大久保実香), 研究代表者(2019年度~2025年度).

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖地域の環境変化をめぐるライフストーリー」(研究代表者: 大久保実香), 研究代表者(2025年度).

総合地球環境学研究所実践FS「儀礼と正負の関係価値から考える人間・文化・自然の連環と共創」(研究代表者: 横浜国立大学・中臺亮介), 研究参画者(2025年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

滋賀の食事文化研究会, 副会長, 2023年4月~.

全国トキノキ学ネットワーク, 理事, 2024年6月~.

総合地球環境学研究所, 共同研究員, 2025年5月~2026年3月.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年7月30日, 佛教大学通信教育課程 博物館実習II「地域博物館と地域との関係」, 琵琶湖博物館, 講師.

2026年2月4日, 北海道大学大学院文学研究院大学院生, ミュージアムショップに関する情報提供.

2026年2月26日, 成安造形大学 琵琶湖の民俗史「食から考える滋賀」「ローカルな魅力を私たちがどう受け継ぐか/活用するか」, 琵琶湖博物館, 講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2025年7月13日, 田んぼ体験教室「昆虫採集」, 運営(中川優氏・金尾滋史氏ほか環境学習・交流係員らと共同).

2025年9月7日, 田んぼ体験教室「稲刈りハサ掛け(1)」, 運営(中川優氏・太尾田康生氏ほか環境学習・交流係員らと共同).

2025年10月11日, 田んぼ体験教室「稲刈りハサ掛け(2)」, 運営(中川優氏・太尾田康生氏ほか環境学習・交流係員らと共同).

2025年10月12日, はしかけ登録講座, 運営(太尾田康生氏・金尾滋史氏らと共同).

2025年11月15日, 11月16日, びわ博フェス2025, 主担当(企画・運営等).

2025年12月14日, 田んぼ体験教室「しめ縄づくり」, 運営(中川優氏・太尾田康生氏ほか環境学習・交流係員らと共同).

2026年2月8日, 田んぼ体験教室「わら細工」, 運営(中川優氏・太尾田康生氏ほか環境学習・交流係員らと共同).

質問コーナー・フロアトーク, 8件.

インターネットを通じた質問への対応, 7件.

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」, 担当.

はしかけグループ「暮らしをつづる会」, 担当.

フィールドレポーター「漬物調査」, 調査実施に向けた相談.

2025 年 6 月 15 日, 6 月 28 日, 7 月 1 日, びわ博フェス 2025 開催に向けた「フェスともミーティング」, 琵琶湖博物館会議室, 企画・運営 (びわ博フェスにおける募集内容の説明および出展希望者との相談).

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2025 年 7 月 8 日, 「琵琶湖周辺の地域社会の変化」, 講演 (河内長野市自然環境保護協議会エコライフかわちながの), 琵琶湖博物館, 講師.

2025 年 7 月 17 日, 「人の暮らしと琵琶湖環境の関わり」, 滋賀県と (株) イトーキの高度外国人材の獲得・定着に向けた相互連携に関する覚書に基づくハノイ工科大学の学生を対象としたインターンシッププログラム (滋賀県商工観光労働部労働雇用政策課), 琵琶湖博物館, 講師.

2025 年 12 月 14 日, 「近江の伝統野菜サミット in 日野」, 近江の伝統野菜のブース展示への協力.

2026 年 3 月 5 日, セミナー「自然の価値を考える」(総合地球環境学研究所実践 FS「儀礼と正負の関係価値から考える人間・文化・自然の連環と共創」), 琵琶湖博物館, 企画・運営.

メディアへの協力

2025 年 11 月 14 日, NHK 大津放送局「おうみ発 630: おうみ週末ナビ」, びわ博フェス 2025 について, (2025 年 11 月 6 日取材対応).

2025 年 11 月 14 日, 京都新聞滋賀版「まちかど」, びわ博フェス 2025 について, (2025 年 11 月 12 日取材対応).

2025 年 11 月 16 日, 京都新聞「琵琶湖のプランクトンにはどんな種類がいる? 滋賀県内の博物館で「フェス」」, (2025 年 11 月 14 日および 2025 年 11 月 15 日取材対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル「布はどう作られる? 植物から糸、布ができるまでを解説【はしかけ活動】」, 企画・撮影・制作協力 (辻川智代氏他はしかけ「近江はたおり探検隊」メンバーと共同).

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル「展示から読み解く昭和 39 年の農村の暮らし【琵琶湖博物館】」, 企画・撮影・制作協力.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫, 主担当 (温湿度管理, 定期清掃, 防虫トラップ調査, 収蔵庫担当者会議への出席等).

びわ湖会議関連資料の整理, 研究協力員 (浦山重雄氏, 市木繁和氏, 明石達郎氏) による整理活動への協力.

環境資料 (近江の伝統野菜レプリカ), 貸し出し (日野町農林課「近江の伝統野菜サミット in 日野」における展示).

資料受け入れに関する問い合わせ, 対応, 3 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C 展示室「私たちの暮らし」, 担当 (点検, 清掃等).

滋賀県立琵琶湖博物館 30 周年記念ギャラリー展示「民俗学者 橋本鉄男がみた近江ー滋賀民俗研究のいしずえー」, 副担当.

モーニングレクチャー, 講義「おみくじ展示のねらい」, 1 回 (4 日)

【企画調整活動】

新任職員研修, C 展示室「私たちの暮らし」の解説 (2025 年 4 月 17 日).

30 周年記念文集「私とびわ博(仮)」, 企画・作品募集.

びわ博フェス内「私とびわ博ヒストリーー思い出とメッセージでつなぐ“みんなで作る展示”ー」, 企画 (山川千代美氏, 金尾滋史氏, 芦谷美奈子氏, 中村久美子氏, 出口武洋氏, 河崎直人氏らと共同), (2025 年 11 月 15 日, 11 月 16 日, 水族企画展示室).

【広報営業活動】

「びわ博フェス 2025 を開催します」, 資料提供, 2025 年 11 月 7 日.

【研究部関連事業】

研究協力員の受入（浦山重雄氏、市木繁和氏、明石達郎氏），2025 年 8 月 1 日～2026 年 3 月 31 日．
シンポジウム「花の百名山伊吹山草原の多様性回復をめざしてー研究者，市民，行政との連携ー」（主催：関西自然保護機構，共催：琵琶湖博物館），企画運営協力，2026 年 2 月 14 日，琵琶湖博物館ホール．

分子遺伝解析を用いて、琵琶湖の魚類の起源、歴史、進化に関する研究を進めている。本年度も、琵琶湖の魚類の進化史の推定や希少淡水魚の保全遺伝解析を実行し、その内の一部を日本魚類学会年会にて口頭発表したり、共著者として論文発表をしたりした。発表論文の中には、琵琶湖固有種のビワマスを新種記載した論文も含まれている。今年度の日本魚類学会では、コイ科の淡水魚で広域分布種で幅広い環境に生息しているウグイの縮約的ゲノミクスデータを用いた進化史の解明をテーマに口頭発表を実施した。また、他にも、京都大学の渡辺勝敏教授をはじめとした多くの研究者と共同研究を複数行っている。韓国国立洛東江生物資源館のキム・サンギ研究員とも複数の淡水魚類の進化史研究で共同研究の体制を敷いている。さらに、2024 年度に藤岡康弘特別研究員、川瀬成吾主任学芸員と編集、出版した「琵琶湖の魚類図鑑」が増刷された。一方で、2022 年度末に発生したビワコオオナマズ水槽破損事故に伴う水族展示関連の業務や日本動物園水族館協会での委員や外部委員として依頼を受けて対応している希少淡水魚の保全に関する業務が非常に多く、研究事業を中心に進めることが困難な状態でもあった。

博物館事業に関しては、資料活用係にて、図書資料の担当、水族飼育管理業務の担当を担った。水族に関しては、2023 年度から務めている水族の総括を務めることとなった。水族飼育に関わる維持管理（施設・設備の修繕手配、予算管理、水族資料収集、水族展示の運営）といった内容については引き続き担当を努めた。希少淡水魚の保護増殖事業について、全体総括の副担当、担当種の管理・運営を行った。希少淡水魚は、伊藤忠商事との協同研究事業であり、水族展示室前身の琵琶湖文化館時代から 40 年にわたって飼育されてきたアユモドキ、環境省および公益社団法人・日本動物園水族館協会が共同事業として生息域外保全を行っているタンゴスジシマドジョウ、いなべ市の繁殖放流事業の委託を受けて飼育しているネコギギと、繁殖・保護増殖事業の非常に重要な種に位置付けられている 3 種の主担当を中心に各種の担当をしている。その中で、水族飼育員と協力し、アユモドキについては 7 年ぶりに繁殖に成功することができた 2024 年に引き続き、繁殖に成功した。また、2024 年度は繁殖させることができなかったタンゴスジシマドジョウも初めて飼育下第一世代の繁殖に成功し、飼育下第二世代を得ることができた。2025 年度も、これらの通常業務に加えて、2022 年度末に破損したオオナマズ水槽およびコアユ水槽の再開工事の対応、また 2022 年度末に同じく破損し、2024 年度末に完成したふれあい体験室の水槽（旧ふれあい水槽。現保護増殖センターサテライト水槽）の再開作業を行った。オオナマズ水槽とコアユ水槽は 2025 年度末に工事を完了し、2026 年度初頭に展示を再開する予定である

印刷物

【学術論文】

- Takada, Y., Morosawa, T., Asano, M., Tabata, R., Kubota, H., & Watanabe, K. (2026) The genetic population structure and diversity of the endangered bittering *Pseudorhodeus tanago* revealed by SNP markers. *Ichthyological Research*, 73(1): 120-133.
- Fujioka, Y., Kuwahara, M., Tabata, R., Fuke, Y., & Nakabo, T. (2025) The Biwa salmon, a new species of *Oncorhynchus* (Salmonidae) endemic to Lake Biwa, Japan. *Ichthyological Research*, 1-13.
- Tai, J. H., Yu, T. H., Wang, F. Y., Terai, Y., Ryoichi, T., Huang, S. P., Wang, T. Y., & Wang, H. Y. (2025). Chromosome-Level Genome Assembly of the Japanese Zacco platypus for Comparative Genomics. *Scientific Data*, 13(149).
- Onuki, K., R. Tabata, T. Mishina, M. Nishida and K. Watanabe. In press. Genome-wide analysis successfully resolves population structure shaped by recent divergence in the endangered bagrid catfish *Pseudobagrus ichikawai*. *Ecology and Evolution*, 16: e73263. <https://doi.org/10.1002/ece3.73263>.

【専門分野の著作】

- 田畑諒一, 渡辺勝敏 (2025) 核ゲノム分析がもたらした琵琶湖産魚類の進化史に関する新たな考察. In: 高橋啓一, 田畑諒一 (編), *琵琶湖博物館研究調査報告*, 第 38 号, pp. 76-88.

【一般向けの著作】

- 田畑諒一 (2025) ミュージアムにおける進化研究最前線「多くの生き物の進化の場となった『古代湖・琵琶湖』の博物館」. *日本進化学会ニュース*, Vol. 26 No. 2.
- 田畑諒一 (2025) 日曜日に知る よみがえれ!! 日本の淡水魚「アユモドキ①」. *産経新聞*, 11 月 9 日.

田畑諒一（2025）日曜日に知る よみがえれ！！日本の淡水魚「アユモドキ②」．産経新聞，12月7日．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 田畑諒一（2025年8月23日）古代湖・琵琶湖の魚類の起源と歴史．市民公開講座「DNAからみたアジアの動物の進化・多様性・歴史」，日本進化学会第27回大会滋賀大会，長浜バイオ大学（滋賀県長浜市），[口頭発表]．
- 田畑諒一・三内悠吾・日比野友亮（2025年11月22日）MIG-seqを用いたウグイの分子系統地理解析に基づく進化的重要単位の把握．2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学（東京都港区），[口頭発表]．
- 三内悠吾・田畑諒一・渡辺勝敏（2025年11月22日）オオガタスジシマドジョウ移入集団の由来と河川への急速な生態適応の可能性．2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学（東京都港区），[口頭発表]．
- 池内鏡子・三内悠吾・井戸啓太・伊藤僚祐・田畑諒一・武島弘彦・田原大輔・渡辺勝敏（2025年11月22日、23日）琵琶湖に生息するウツセミカジカの遺伝的集団構造と深場適応．2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学（東京都港区），[ポスター発表]．
- 大貫溪介・橋口真実・田畑諒一・渡辺勝敏（2025年11月22日、23日）自然分布重複域におけるアブラハヤとタカハヤの種間交雑．2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学（東京都港区），[ポスター発表]．
- 片山優太・井戸啓太・大貫溪介・田畑諒一・伊藤僚祐・渡辺勝敏（2025年11月22日、23日）絶滅危惧種ヒナモロコにおける外来近縁種との交雑がもたらした遺伝的影響．2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学（東京都港区），[ポスター発表]．
- 田畑諒一（2025年11月26日）滋賀県立琵琶湖博物館・ふれあい体験室のリニューアル．日本動物園水族館協会第35回動物園水族館設備会議，アトア（神戸市），[口頭発表]．
- 今北大介・田畑諒一（2025年11月26日）博物館開館以来の長時間停電発生事例～対処法構築の提案～．日本動物園水族館協会第35回動物園水族館設備会議，アトア（神戸市），[口頭発表]．
- 田畑諒一（2026年1月27日）口頭発表での司会・進行およびベストプレゼンテーション賞の選考．日本動物園水族館協会第70回水族館技術者研究会，葛西臨海水族園（東京都江戸川区），[座長、審査員]．
- 三内悠吾・高田喜光・中島淳・三品達平・田畑諒一・斉藤憲治・渡辺勝敏（2026年3月13日）核ゲノム SNP 情報に基づくシマドジョウ属絶滅危惧種の保全遺伝学的評価．日本生態学会第73回全国大会，京都大学（京都市），[ポスター発表]．
- 池内鏡子・三内悠吾・井戸啓太・伊藤僚祐・田畑諒一・武島弘彦・田原大輔・渡辺勝敏（2026年3月13日）両側回遊魚ウツセミカジカの湖沼陸封集団の進化的起源と適応．日本生態学会第73回全国大会，京都大学（京都市），[ポスター発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「スジシマドジョウ類における繁殖条件の探索」（研究代表者：田畑諒一），研究代表者（2025年度）．
- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹），共同研究者（2019年度～2025年度）．
- 科学研究費助成事業（国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B））「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」（研究代表者：早稲田大学・細将貴），分担者（2020年度～2025年度）．
- 科学研究費助成事業（基盤C）「博物館における分類学の再考と再構－生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦－」（研究代表者：川瀬成吾），分担者（2023年度～2025年度）．
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 実践プロジェクト予備研究（実践FS）「儀礼と正負の関係価値から考える人間・文化・自然の連環と共創」（研究代表者：横浜国立大学・中臺亮介），共同研究者（2025年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会，2026年度年会実行委員会，大会実行委員長，2025年4月～2026年11月．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2024年，京都大学大学院理学研究科修士課程学生，シマドジョウ類におけるDNA分析．
- 2024年，京都大学大学院理学研究科修士課程学生，ウツセミカジカにおけるDNA分析．
- 2024年，京都大学大学院理学研究科修士課程学生，ヒナモロコにおけるDNA分析．

2024 年，京都大学大学院理学研究科修士課程学生，ミヤコタナゴ・ヨシノボリ類における DNA 分析.

2024 年，京都大学大学院理学研究科博士課程学生，アユモドキにおける DNA 分析.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10 件.

クエリの質問対応，魚類に関する質問への対応，10 件.

はしかけグループ「うおの会」，主担当，特別採捕許可の申請，館内イベントでの連絡調整.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 4 月～2026 年 3 月，「アユモドキは見つかるか～琵琶湖水系の生物相と生物多様性について～」への助言，滋賀県立八幡工業高等学校環境化学科および科学研究部生徒，滋賀県立八幡工業高等学校.

2025 年 8 月 23 日，日本進化学会第 27 回大会における講師，日本進化学会，長浜バイオ大学.

2026 年 1 月 31 日，「日本産淡水魚がもつ歴史およびタニガワナマズについて」講演，アクアトーキングレビュー，大阪市中央公会堂.

2026 年 3 月 19 日，「琵琶湖固有種の魚の進化と起源」について講義，山梨県立日川高校，琵琶湖博物館.

視察等への対応

2025 年 7 月 29 日，展示物の視察，環境省沖縄奄美自然環境事務所，水族棟.

2025 年 10 月 10 日，タンゴスジシマドジョウの飼育状況の視察，一般財団法人 自然環境研究センター，水族棟.

2026 年 2 月 10 日，展示室や研究施設・設備の視察，長野県諏訪湖環境研究センター，水族棟・研究棟.

メディアへの協力

テレビ・ラジオ番組

6 月 30 日，MBS 毎日放送「よんちゃんTV 5 時ニュース：ビワマス 琵琶湖固有の新種として学名」，インタビュー出演

7 月 1 日，びわ湖放送「ニュース：びわ湖固有の新種として「ビワマス」に世界共通の学名」，インタビュー出演

7 月 26 日，びわ湖放送「滋賀経済 NOW：当館関連工事」，出演・インタビュー対応

8 月 19 日，NHK 大阪「NHKニュース おはよう日本（ニュース）：「ビワマス」に新たに学名」

新聞・機関紙

4 月 6 日，京都新聞「ぐぐっと京都 種の保存へ 繁殖に挑戦 絶滅危惧種の淡水魚「タンゴスジシマドジョウ」，情報提供・確認対応

4 月 23 日，中日新聞「希少な魚 もっと身近に 琵琶湖博物館 ふれあい体験室再開」，取材対応

4 月 27 日，朝日新聞「希少種の稚魚、近くで見えてね ふれあい体験室再開 琵琶湖博物館 / 滋賀県」，取材対応

5 月 1 日，読売新聞「魚ふれあい もっと楽しんで 琵琶湖 体験室再開 タッチプールなど改修＝滋賀」，取材対応

6 月 30 日，京都新聞「琵琶湖ビワマス 実は新種だった 近縁アマゴと違い解明 100 年ぶり新たな学名」，取材対応

7 月 2 日，中日新聞「ビワマスに初の学名 琵琶湖や京大研究 新種記載 19 日から基準の標本展示」，取材対応

7 月 7 日，産経新聞，「琵琶湖の宝石」ビワマスに初学名 100 年越しの標本ミス修正 保全期待」，取材対応

7 月 13 日，朝日新聞「ビワマス、新種の学名 オンコリンカス・ビワエンシス / 滋賀県」，取材対応

7 月 17 日，毎日新聞「ビワマス：オンコリンカス・ビワエンシス ビワマス 固有新種認定」，取材対応

7月23日，共同通信「琵琶湖のビワマス 100 年ぶり学名」，取材対応

7月23日，びわこ大津経済新聞「新種登録のビワマス標本を琵琶湖博物館で展示 ホロタイプの展示は最初で最後」，取材対応

7月29日，読売新聞「ビワマス 待望の新学名 琵琶博など 研究17年「固有種」お墨付き＝滋賀」，取材対応

11月9日，産経新聞「アユモドキってどんな魚？」，原稿執筆

12月7日，産経新聞「よみがえれ!!日本の淡水魚 アユモドキの繁殖と保全」，原稿執筆

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル，びわこのちからチャンネル「35 年も名前がなかったビワマスに学名がつくまでの裏側全部話します！【琵琶湖博物館】」，出演.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

図書資料，担当.

水族資料収集，担当.

水族設備維持管理，担当.

水族飼育管理予算，担当.

水族保護増殖事業，担当.

魚類標本，担当.

他の博物館・機関等の活動

他の博物館・機関等への水族資料の提供.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

大人のディスカバリー魚類コーナー，担当.

A 展示室魚類コーナー，担当.

水族展示室展示維持管理，担当.

水族展示室水族展示室再生事業，担当.

モーニングレクチャー，講義「新オオナマズ・コアユ水槽」，1 回（4 日）.

展示交流員と話そう，アユのことについて.

展示交流員と話そう，湖魚料理のことについて.

【研究部関連事業】

コンプレッサー室維持管理，担当.

韓国洛東江川生物資源館との交流，担当.

バイカル博物館との交流，担当.

調査船維持管理，担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

クラウドファンディング返礼ツアー，返礼品の対応.

【館外の活動】

環境省，淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会（2024 年 4 月～）.

環境省および日本動物園水族館協会，生物多様性保全の推進に関する基本協定（タンゴスジシマドジョウ担当園館）（2024 年 4 月～）.

三重県教育委員会，天然記念物ネコギギ保護調査員（2024 年 9 月～）.

日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，副類別調整者（2024 年 1 月～）.

日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，種別管理者（ネコギギ）（2019 年 4 月～）．

日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，種別管理者（アユモドキ）（2024 年 4 月～）．

日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会，調査種担当（タンゴスジシマドジョウ）（2024 年 4 月～）．

環境省，レッドデータブックリスト検討委員（ホンモロコ，スゴモロコ，ニゴロブナ，ゲンゴロウブナ，イサザ，ビワマス）（2024 年 9 月～）．

琵琶湖および他の湖沼周辺で営まれる人びとの暮らしと、これに関わる物質文化の比較研究を進めている。また琵琶湖産アユ資源の全国的な流通と利用に関わる環境民俗学的な調査を行い、その成果の一部を日本民俗学会における学会発表と分担執筆を行った書籍で公表した。資料活用係では資料の受入れ、貸出等に関わる業務とくん蒸業務を担当し、昨年度に引き続き DX 事業の一環として進めている「びわはく GIS」のデータ整備とコンテンツ作成を推進した。これに加えてギャラリー展示の主担当と企画展示の副担当を務め、琵琶湖博物館資料目録 20 号を編集、刊行した。

【研究活動】

(1) 科研費・基盤研究 C「ダム上流域の放流アユと人の関係をめぐる環境民俗学的研究」

令和 7 年度は新たに採択された科研費・基盤研究の初年度であり、学会発表とフィールドワークを行った。フィールドワークは滋賀県、福井県、岐阜県、静岡県で実施し、琵琶湖産アユ種苗の放流に関わる多くのデータを収集することができた。このうち岐阜県・富山県の神通川水系における宮川、高原川のダム上流域における調査成果は日本民俗学会で発表し、本研究の期間中に論文化する予定である。

(2) 共同研究「滋賀県における民俗学の展開と有形・無形民俗文化財の現状に関する研究」

令和 6 年度に開始した本研究については年 3 回の研究会を実施し、特に滋賀県を代表する民俗学者の橋本鉄男旧蔵資料に関する調査・研究を推進した。その成果として『琵琶湖博物館資料目録 20 号 橋本鉄男旧蔵資料』を刊行し、写真はデジタル化した上で博物館の収蔵資料データベースに登録した。この目録と写真データを活用する形で令和 8 年 3 月にギャラリー展示を開催し、滋賀県における民俗学の展開と今後の博物館活動を見据えた情報を幅広く発信した。

(3) 地球研・実践 FS「儀礼と正負の関係価値から考える人間・文化・自然の連環と共創」

令和 7 年度から参加した総合地球環境学研究所の実践 FS では若手の生態学者、宗教学者、心理学者たちと共同研究を行い、民俗的な信仰や信念が自然環境の保全にどのようなかたちで関係するのか検証する議論に参加した。本研究は令和 7 年度をもって終了となるが、その取りまとめと今後の方針に関するディスカッションを令和 8 年 3 月に琵琶湖博物館で行い、今後も継続して調査・研究を実施していくことが参加者の間で確認された。

【事業活動】

資料活用係では資料の受け入れと活用に関する業務を担当し、定期的に資料情報の共有を館内で行った。またくん蒸の主担当者として CO2 燻蒸を 4 回、エキヒューム燻蒸を 1 回、アルプ燻蒸を 1 回行った。令和 7 年度は燻蒸ガスのエキヒューム S が販売中止となり、この薬剤による燻蒸を行うことができる最終年度となったため、今後は代替品のアルプによる燻蒸への移行が進むことになる。アルプ燻蒸については当館で初めての取り組みとなったが、業者と調整により滞りなく新薬剤による燻蒸を行うことができた。また「びわはく GIS」におけるインターフェース改修と新規データの追加業務を行い、研究用 GIS の開発など大幅なアップデートを行うことができた。

展示についてもギャラリー展示の主担当、企画展示の副担当を務め、当館所蔵の民俗学関連資料の紹介を行い、多くの来館者、研究者に当館の民俗資料が持つ価値とポテンシャルを広く周知することができた。

印刷物

【専門分野の著作】

Kato, H (2025) Global Folklore Studies: The Rainbow Bridge and Hell's Ginseng. *Fabula* 66(1-2):25-36.

加藤秀雄 (2025) 文献に記された民俗について—民俗研究におけるテキスト遺産活用のために—. In: Edoardo Gerlini・河野貴美子(編), *近現代日本を生きるテキスト遺産: モノ×営為×世界 (アジア遊学)*. 勉誠社, 東京, pp. 110-122.

加藤秀雄 (2026) 環境の民俗学—これまでとこれからの人と自然の関係を問う—. In: 塚原伸治・後藤知美・辻本侑生・山川志典(編), *3STEP シリーズ 民俗学*. 昭和堂, 京都, pp. 95-109.

米田実・加藤秀雄(編) (2026) *琵琶湖博物館資料目録 20 号 橋本鉄男旧蔵資料—滋賀民俗研究の先覚者とその足跡—*. 滋賀県立琵琶湖博物館, 146 pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

加藤秀雄・山本充孝（2025年4月18日）湖産アユをめぐる科学知と民俗知—生活世界における「数えること」と「経験」の関係性。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]
加藤秀雄（2025年6月28日）民俗学における近世随筆の影響とその活用。第7回近世随筆研究会。JR博多シティ会議室(福岡市)，[口頭発表]。
加藤秀雄（2025年11月2日）ダム上流域の人とアユの関係を考える—神通川水系における漁業組合の取り組み。日本民俗学会第77回年会，アマホーム PLAZA（奄美市市民交流センター）（鹿児島県奄美市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤研究C）「ダム上流域の放流アユと人の関係をめぐる環境民俗学的研究」（研究代表者：加藤秀雄），研究代表者（2025～2028年度）。
琵琶湖博物館専門研究「湖沼に関する民俗知の基礎的研究」（研究代表者：加藤秀雄），研究代表者（2025年度）。
琵琶湖博物館共同研究「滋賀県における民俗学の展開と有形・無形民俗文化財の現状に関する研究」（研究代表者：加藤秀雄），研究代表者（2024年度～2027年度）。
琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹），共同研究者（2019年度～2025年度）。
総合地球環境学研究所実践FS「儀礼と正負の関係価値から考える人間・文化・自然の連環と共創」（研究代表者：横浜国立大学・中臺亮介），共同研究者（2025年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

現代民俗学会，編集委員（2024年5月～）。
現代民俗学，査読，3件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年6月14日，京都文教大学，博物館資料保存論。
2025年6月21日，桃山学院大学，見学実習。
2025年9月26日・12月16日，滋賀県立大学大学院環境科学研究科大学院生，修士論文指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12回。
クエリを通じた質問への対応，15件。

視察等への対応

2025年11月27日，視察対応，独立行政法人 国際協力機構，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2026年4月6日，ZTV コミュニティチャンネル 11ch「おうみ！かわら版（滋賀）」，ギャラリー展示の内容に関する取材協力（出演なし），（2026年3月22日取材対応）。
2026年4月予定，びわ湖大津経済新聞，ギャラリー展示の内容に関する取材協力，（2026年3月24日取材対応）。
2026年5月号，『Meets Regional』（京阪神エルマガジン社），「学芸員・加藤さんの1日に密着」取材協力，（2026年3月4日取材対応）。
2026年春号（Vol. 155），『滋賀の文化情報誌 DUET』（サンライズ出版），ギャラリー展示の内容に絡めた鼎談に参加，（2026年3月3日取材対応）。
2026年5月号（2026年3月31日時点での予定），月刊 石材（石文社），県指定文化財「北比良の石屋用具」とB展示室の関連展示についての取材協力，（2026年3月29日取材対応）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備，収蔵庫維持管理，担当。
資料の寄贈等受入れに関すること，担当。
資料の貸出等活用に関すること，担当。

収蔵環境改善活動の推進に関すること, 担当.
くん蒸に関すること, 担当.
GIS データの整備とコンテンツ作成に関すること, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

滋賀県立琵琶湖博物館 30 周年記念ギャラリー展示「橋本鉄男がみた近江ー滋賀民俗研究のいしずえ」(2026 年 3 月 17 日～5 月 24 日), 担当.
トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 32 回学芸員のこだわり展示「柳田國男から滋賀への便り」(2026 年 1 月 24 日～3 月 15 日), 担当.
モーニングレクチャー, 展示解説, 1 回(4 日).

【研究部関連事業】

科研費以外の外部資金に関すること, 担当.
琵琶湖博物館特別研究員 (新海拓郎・辻川智代・増田敬祐), 受入担当.
琵琶湖博物館研究協力員 (市川秀之・大塚活美・米田実), 受入担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

大津市教育委員会, 和邇祭調査員 (2024 年 5 月～).
山中湖村史編纂委員会, 山中湖村史編纂調査員 (2021 年 4 月～).
2025 年度滋賀県博物館協議会委員, 広報委員会 副幹事(2025 年度).

【研究について】

(1) 歴史的治水施設の実態・機能の復原および治水施設の管理に用いられた絵図・地図の研究

琵琶湖博物館総合研究・専門研究、科学研究費研究課題の一環で、琵琶湖集水域および淀川流域において洪水と土砂の流出・堆積に対応するための施設（堤防、水制、河畔林）の存在と機能について、絵図・地図や文書などから復原・検討した。湖東平野を流れる愛知川の「猿尾」について、河川沿岸の土地の起伏を LiDAR で測量し古地図と重ね合わせて特定する手法を論文で公表した。この猿尾に関する外部研究者との共同研究では、各メンバーの専門分野・関心に沿って、測量で得られた治水施設や地形の点群データを学校・博物館での学習教材へ応用する試み、洪水シミュレーションによる水害防止効果の定量的検討、古地図・地形図を用いた治水施設の復原といった課題を展開し、それぞれが筆頭著者となって学会発表した。これらの成果に、過年度までに蓄積された比良山地東麓地域、瀬田丘陵・田上山地、湖北の草野川・天野川流域の絵図・地図に関する研究実績を加え、第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」（会期：2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日）で一般に成果を公表した。

(2) 江戸時代を中心とした日本の地図史の研究

科学研究費研究課題および依頼業務の一環で、奈良県御所市内に所在する元禄 14 年（1701 年）作製の地形模型「金剛山土絵図」や、近世刊行都市図の包括的な調査をおこない、成果が公表された。これまで進めてきた地形模型研究、刊行都市図研究を踏まえた研究上の課題・論点を提示することができた。

【博物館事業に関する業務について】

A. 展示係

上記の企画展示の計画、パネル・キャプション作成、展示室の設営と運営、関連イベントの実施を担当した。この企画展示に関連して、会期前後の企画展示室・企画展示準備室の防虫防黴・温湿度管理・照明機器の調整等の管理をおこなった。

B. 歴史資料担当

歴史資料 1,219 点を収蔵資料データベースに登録した。登録された資料の情報は、次年度以降 web 上で公開する予定である。

印刷物

【学術論文】

Ogura, T., Shimamoto, K., Mizuno, T., Katayama, D., Yamauchi, H., Hattanji, T. (2025) Identification of traditional flood control facilities concealed in the riparian forest: a case study of the Echi River, central Japan. *Progress in Earth and Planetary Science (Japan Geoscience Union)*, 12(41): 1–13.

【専門分野の著作】

島本多敬（2026）名柄中村家所蔵土絵図（金剛山土絵図）．令和 7 年度奈良県内古文書所在確認調査報告書(奈良県地域創造部文化財課)，pp. 228–230.

【一般向けの著作】

滋賀県立琵琶湖博物館（島本多敬編著）（2025）琵琶湖博物館第 33 回企画展示 川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—，滋賀県立琵琶湖博物館，104 pp.

島本多敬（2025）湖国のミュージアム 10 月企画展 担当学芸員が教える見どころ案内 企画展示「川を描く、川をつくる」—古地図で昔の堤をさぐる—．滋賀民報，2025 年 10 月 12 日．

島本多敬（2025）近世刊行都市図．In: 歴史地理学会(編)，歴史地理学事典，丸善出版，東京，pp. 434–435.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

山内啓之・小倉拓郎・島本多敬・水野敏明（2025 年 9 月 20・21 日）滋賀県愛知川流域の猿尾を対象に試作した VR 教材の利点と課題．日本地理学会 2025 年秋季学術大会，弘前大学文京町キャンパス（青森県弘前市），[ポスター発表]．

水野敏明・小倉拓郎・島本多敬・山内啓之・八反地 剛・濱口貴仁・小林亜美・角川咲江・片山大輔・小林勇介
(2025 年 11 月 7 日～9 日) 19 世紀の河畔林の水制工「猿尾」による洪水減災効果—滋賀県愛知川扇状地を事例として—。日本リスク学会第 38 回年次大会，大阪大学吹田キャンパス（大阪府吹田市），[ポスター発表]。

小倉拓郎・島本多敬・水野敏明・山内啓之・八反地 剛・濱口貴仁・片山大輔（2025 年 11 月 2 日）伝統的治水施設の復元に資する学際的調査手法の比較—滋賀県愛知川・猿尾の事例—。日本地形学連合 2025 年秋季学術大会，東京理科大学葛飾キャンパス（東京都葛飾区），[ポスター発表]。

島本多敬・小倉拓郎・水野敏明・山内啓之・八反地 剛・濱口貴仁・小林亜美・角川咲江・片山大輔・小林勇介
(2025 年 11 月 16 日) 19 世紀の愛知川中下流域における土堤・石積堤の種類と治水上の役割—明治初期の村絵図による検討—。2025 年人文地理学会大会，同志社女子大学今出川キャンパス（京都市），[口頭発表]。

島本多敬・小倉拓郎・水野敏明・山内啓之・八反地 剛・濱口貴仁・小林亜美・角川咲江・片山大輔・小林勇介
(2026 年 1 月 16 日) 愛知川につくられた猿尾について—明治初期の村絵図による名称・形態・分布の検討—。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「近世・近代の土砂移動対応史に関する資料論」（研究代表者：島本多敬），研究代表者（2025 年度）。

琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系の季節変動モニタリング—植生・河川・土地利用の時空間変動解析—」（研究代表者：奥田 岬），研究分担者（2023～2025 年度）。

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹），研究分担者（2019～2025 年度）。

日本学術振興会科学研究費研究課題（若手研究）「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」（研究代表者：島本多敬），研究代表者（2021～2025 年度）。

一般財団法人河川情報センター研究助成「Eco-DRR デジタルデータベースを利用した水害伝通知の教育普及」（研究代表者：兵庫教育大学・小倉拓郎），共同研究者（2023 年 10 月～2025 年 10 月）。

日本学術振興会科学研究費研究課題（若手研究）「19 世紀街道沿い村落の社会構造に関する基礎的研究」（研究代表者：公益財団法人三井文庫・松浦智博），研究協力者（2024～2026 年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 7 月～2026 年 2 月，関西大学大学院理工学研究科修士課程大学院生，治水史に関する研究への助言。

2025 年度博物館実習，講義「企画展示について」，実習「SNS で企画展示ひとこと発信」，琵琶湖博物館（2025 年 8 月 20 日）。

2025 年 8 月 30 日，龍谷大学集中講義「びわ湖・滋賀学」，B 展示室見学・課題学習，企画展示見学・課題学習。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，6 件。

インターネットを通じた質問への回答，6 件。

2025 年 7 月 26 日，7 月 27 日，愛知川に眠る猿尾を VR でさぐろう！in 琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，企画運営・講師（小倉拓郎氏・山内啓之氏・水野敏明氏と共同）。

2025 年 10 月 12 日，愛知川に眠る猿尾を VR でさぐろう！in 河辺いきものの森，河辺いきものの森（滋賀県東近江市），企画運営・講師（小倉拓郎氏・山内啓之氏・水野敏明氏と共同）。

2025 年 10 月 18 日，環境・ほっと・カフェ「蛇籠ってなに？知って、作って、考える」，琵琶湖博物館，講師。

2025 年 10 月 25 日，愛知川に眠る猿尾を VR でさぐろう！in 近江商人郷土館（一般財団法人近江商人郷土館との共催），近江商人郷土館（滋賀県東近江市），企画運営・講師（小倉拓郎氏・山内啓之氏と共同）。

2025 年 11 月 1 日・8 日・15 日・22 日，企画展示ギャラリートーク「地図で読み解く治水の歴史」，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 8 月 2 日，講演「古地図で昔の堤をさぐる—琵琶湖博物館の企画展示から考える防災—」，第 101 回防災カフェ（滋賀県防災危機管理局主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年8月8日，講演「古地図で昔の堤をさぐる一天井川編一」，滋賀県立湖南農業高校校外授業（湖南農業高校主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年9月6日，ワークショップ「研究者と一緒に！ 愛知川サルオのVR体験」，山内啓之氏・水野敏明氏と共同で体験協力。

2025年9月17日，講演「琵琶湖博物館の活動と企画展示」，愛知淑徳大学「博物館見学実習」（愛知淑徳大学主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年10月11日，講演「猿尾って何？～研究者たちがご案内します～」(愛知川Eco-DRRプロジェクト[小倉拓郎・島本多敬・水野敏明・山内啓之]による共同)，河辺いきものの森(滋賀県東近江市)，講師。

2025年10月29日，企画展示の解説「古地図を知る、古地図から川の歴史を知る」，レイカディア大学選択講座（レイカディア大学主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年10月30日，企画展示の解説「古地図を知る、古地図から川の歴史を知る」，兵庫教育大学学外実習（兵庫教育大学小倉ゼミ主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年11月8日，企画展示の解説「地図で読み解く治水の歴史」，佛教大学歴史学部学外実習（佛教大学歴史学部塚本・堀ゼミ主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年11月14日，発表者へのコメント・質問回答，第105回防災カフェ（滋賀県防災危機管理局主催），滋賀県危機管理センター（滋賀県大津市），ファシリテーター。

2025年11月19日，企画展示の解説「地図で読み解く治水の歴史」，南比良老人クラブ高砂会研修（南比良老人クラブ高砂会主催），琵琶湖博物館，講師。

2025年11月23日，講演「川を描いた江戸・明治期の地図を読む」，日本地図学会2025年度例会(日本地図学会主催)，琵琶湖博物館，講演。

2026年1月21日，講演「古地図から湖南地域の土地の歴史を読む」，滋賀県土地家屋調査士会湖南支部研修会（滋賀県土地家屋調査士会湖南支部主催），キラリエ草津（滋賀県草津市），講師。

2026年1月31日，講演「古地図で読む治水の歴史」，講演会「くさつ・歴史発見塾」（草津市立草津宿街道交流館主催），草津宿街道交流館（滋賀県草津市），講演。

メディアへの協力

2025年7月11日，京都新聞（滋賀版），「明治以前の伝統的治水設備 「猿尾」痕跡 愛知川で発見」コメント・情報提供。

2025年7月25日，びわ湖大津経済新聞，「琵琶湖博物館で川の古地図展示 古地図から防災の歴史を読み解く」コメント・情報提供。

2025年7月30日，読売新聞（滋賀版），「治水の歴史 映す古地図 琵琶博 堤防整備など取り組み紹介」情報提供。

2025年7月31日，産経新聞（滋賀版），「古地図から防災考えて 水害や河川工事 資料展示」コメント・情報提供。

2025年8月15日，京都新聞（滋賀版），「古地図から河川・治水探る—琵琶湖博物館で企画展示—」情報提供。

2025年9月19日，毎日新聞（滋賀版），「古地図で学ぶ、水との共生 琵琶博・特別展 県内各地の保管物展示」コメント・情報提供。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル，びわこのちからチャンネル「【地図から土地の歴史を知る！】江戸・明治期の古地図で、川と森の景観の変化を調査！」(2025年11月10日公開)，出演，情報提供。

琵琶湖博物館公式YouTubeチャンネル，びわこのちからチャンネル「地図から埋もれた猿尾をさぐる」(2026年3月25日公開)，動画データ提供，テロップ原稿執筆，関係者への協力依頼。

他の博物館・機関等の活動

滋賀県流域政策局，webサイト「水害情報発信—水害の記録と記憶—」への企画展示「琵琶湖博物館第33回企画展示 川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」展示に関する情報掲載に対する情報提供等の協力。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

歴史資料分野，主担当。

特別収蔵庫管理，主担当。

一時保管庫管理，副担当。

歴史資料特別観覧対応, 14 件.

他の博物館・機関等の活動

2025 年 9 月 16 日, 奈良県御所市内に所在する近世地形模型の調査 (奈良県地域創造部文化財課からの依頼, 同課および御所市文化財課と共同で実施).

2025 年 10 月 3 日, 滋賀県高島市内某家の建築および資料調査 (高島市の文化財関係職員と共同で実施).

2026 年 1 月 27 日・2 月 16 日, 滋賀県流域政策局流域治水政策室による水害履歴調査 (地域住民を対象とした聞き取り) への協力, 調査補助.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリールーム維持管理, 副担当.

エントランス、アトリウム、企画展示室 (企画展示準備室を含む) 管理, 副担当.

常設展示の運営管理, 副担当.

令和 7 年度企画展示に関すること, 主担当.

アトリウム展示等の計画・実施の管理, 主担当.

常設展示, B 展示室維持管理, 湖ゾーン担当.

第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」(2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日) 主担当.

B 展示室館蔵品紹介コーナー, 統括.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 29 回学芸員のこだわり展示「企画展示「川を描く、川をつくる」キックオフ企画「近江国絵図のナゾ」」(2025 年 6 月 17 日～7 月 27 日), 主担当.

トピック展示 (B 展示室館蔵品紹介コーナー), 第 31 回学芸員のこだわり展示「琵琶湖真景図でさがそう—栗太郡編—」(2025 年 11 月 18 日～2026 年 1 月 18 日), 主担当.

モーニングレクチャー, 企画展示の解説, 1 回 (4 日)

他の博物館・機関の活動

東近江市近江商人博物館・中路融人記念館, 近江商人博物館企画展「猿尾 自然と生きる先人の知恵」(2025 年 7 月 26 日～10 月 13 日), 展示協力, 広報活動への協力.

【企画調整活動】

新任職員研修, B 展示室湖ゾーン・館蔵品紹介コーナーの説明 (2025 年 4 月 17 日).

第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」オープニングセレモニー, 展示主担当者による説明, 来賓への案内.

【広報営業活動】

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ文化プログラムへの登録, 第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」に関する情報の掲載・修正担当.

【研究部関連事業】

新琵琶湖学セミナー, 副担当.

研究備品の維持管理, 副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2026 年 3 月 13 日～22 日, 台湾・高雄市, 楠梓仙溪流域を対象とした災害対応および日本統治時代の河川堤防の築造・維持管理に関する調査, 科研費.

【館外の活動】

舞鶴市史編さん委員会文化遺産部会 (絵図・地図グループ) 臨時委員 (2025 年 2 月～).

立命館大学歴史都市防災研究所, 客員協力研究員 (2020 年 4 月 1 日～).

古琵琶湖層群をはじめとした、国内における新生代後半の陸生哺乳類化石相を明らかにすること、およびそれらとアフリカ・ユーラシアの化石動物相との関連性について研究を進めている。本年度は下記の研究活動を行った。

・琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館所蔵の足跡化石の分類学」

琵琶湖博物館には県内外で発見された数百点もの足跡化石およびそのレプリカが収蔵されている。しかしそれらのほとんどは収蔵庫に保管されたままである。こうした足跡化石はその産状が綿密に報告されている一方で、足跡の分類学はほとんど行われていない。足跡化石は特定の特徴に基づいて分類され、生物と同様、学名がつけられている。これを生痕タクソンという。生痕タクソンが決定すれば、その形態的特徴を基準として、海外の同じもしくは類似の生痕タクソンと比較が可能となり、足跡化石の地理的なつながりが検討できる。本年度はサイ類化石の調査を優先し、それらのうち三重県伊賀市で発見された鮮新世のサイ類足跡化石4点を検討した。足跡形態と先行研究および現生種の足跡との比較から、当該の足跡化石は三趾型の足跡生痕タクソン *Rhinoceripeda* 属と同定した。これはサイ類の足跡とされており、鮮新世の記録としてはタンザニアに次いで2例目であることが分かった。既存の *Rhinoceripeda* 属と比べて、第三趾が長いこと、第二、四趾が著しく内外に向くこと、および蹄痕が食い込む点で異なり、これはぬかるみに踏み込んだ際のスマトラサイの足跡と一致した。おそらく当時の湖畔の泥質な場所を歩いたと予想される。

・日本のサイ科化石の分類学的再検討および日本への移動時期の検討

国内の陸生哺乳類化石に関する分類および日本への移動時期については、ゾウ類以外ではいまだに検討の余地があるため、そのうちサイ科化石について調査した。本年度は第四紀サイ科の分類および系統関係の化学的手法による探索を目指し、国内3か所の化石標本を対象として古代タンパク質抽出作業を行った。現在までのところ分析の段階であるが、この手法による系統推定の有効性が見込まれる。また、兵庫県香住地域のサイ科化石の分類を検討し日本古生物学会で公表した。

・日本国内の新生代動物相の解明に向けた分類学的再検討

古琵琶湖層群から産出した食肉類、およびウシ科化石の分類学的検討を進めた。食肉類化石はカワウソ亜科と同定でき、これは日本の鮮新世食肉類化石として3例目、古琵琶湖層群からは初の肉食性哺乳類化石である。その特徴は現代型のカワウソの臼歯形態に類似しているながら、そのサイズは現生種よりも大型であることが分かった。

・東～東南アジアにおける古類人猿およびヒトを取り巻く生態系の解明

科研費研究課題として、タイ・ミャンマーの化石類人猿、およびモンゴルの旧石器時代の人類の生息年代および当時の古息環境を検討するための基礎データとして、それらに随伴する哺乳類化石を調査している。今年度は、ミャンマーおよびタイで調査している奇蹄目化石の分類検討として、その比較のためにアメリカ自然史博物館で標本調査を行った。この結果を踏まえて論文を投稿した。またモンゴルの旧石器時代の動物化石とその化石産地の情報収集に努めた。

事業活動としては、本年度から展示係に配属となった。おもに展示交流員の業務に関することを担当した。具体的には展示交流員の業務に係る要望や問題点などに対する対応、および予算案作成である。加えて展示室空間の案内作成や、ディスカバリールームの運営に携わった。資料活用については館外から依頼のあった地学標本および動物標本の観察および借用に対応した。このほか博物館地方衛生委員会、博物館図書委員、および滋賀県博物館協議会研修委員会にそれぞれ今年度から参加した。

印刷物

【学術論文】

Naoto Handa, Yuichiro Nishioka, Soichiro Kusaka, Jaroorn Duangkrayom, Wilailuck Naksri, Pratueng Jintasakul, Yutaka Kunimatsu (in press) The Late Miocene Rhinocerotidae from the Phra Phut sandpit in northeastern Thailand: implication for biostratigraphy and paleobiogeography. *Palaeobiodiversity and Palaeoenvironments*.

【一般向けの著作】

半田直人（2026）第175回例会普及講演会・化石友の会イベント開催報告. *化石*, 119号: 30.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

半田直人（2025年5月31日）日本の鮮新世－更新世サイ科化石の概要：「ゾウのきた道」を追いかけて. 化石研究会第43回（通算第160回）総会・学術大会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

半田直人・西岡佑一郎（2025年6月29日）古琵琶湖層群堅田層（中期更新世）から産出したウシ科化石の分類学的再検討。日本古生物学会 2025 年年会，北海道大学（札幌市），[口頭発表]。
半田直人，田中公教，池田忠広（2025年12月7日）兵庫県北部香美町から産出した前期中新世サイ科化石。日本古生物学会第 175 回例会，SS プラザせんだい（鹿児島県薩摩川内市），[口頭発表]。
半田直人，岡村喜明（2026年2月22日）古琵琶湖層群上野層（鮮新世）から産出したサイ類足跡化石の産出意義（予察）。日本地質学会西日本支部令和 7 年度総会・第 176 回例会，岡山理科大学（岡山市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖博物館所蔵の足跡化石の分類学」（研究代表者：半田直人），研究代表者（2025 年度）。
科学研究費助成事業（基盤 B）「モンゴルにおける最初期ホモサピエンスの適応的・行動的多様性の形成」（研究代表者：東京都立大学・出穂雅実），研究分担者（2022 年度～2025 年度）。
科学研究費助成事業（国際共同研究加速金（国際共同研究強化 B））「森林減少に伴う脊椎動物高次分類群の多様性共変動パターンの解明」（研究代表者：京都大学・富谷 進），研究分担者（2022 年 10 月～2027 年 3 月）。
科学研究費助成事業（基盤 B）「アフリカから東ユーラシアへの類人猿・旧世界ザルの拡散と古環境」（研究代表者：龍谷大学・國松 豊），研究分担者（2024 年度～2027 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本古生物学会，化石友の会幹事，2025 年 6 月～2027 年 6 月。
Proceedings of the Royal Society B, Historical Biology, Journal of Mammalian Evolution, Paläontologische Zeitschrift, Journal of Paleobiogeography, Paleontological Research, 化石，査読，8 件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年度博物館実習，展示係担当実習，琵琶湖博物館（2025 年 8 月 19 日）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12 件。
はしかけ「ほねほねくらぶ」，担当，23 件。
2025 年 11 月 16 日，びわ博フェス，交流会・出席。
メールによる質問対応，4 件。

視察等への対応

2025 年 8 月 27 日，博物館概要説明および常設展示の案内，瑞浪市化石博物館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

発行日未定，旅する図鑑シリーズ生き物大図鑑（「恐竜・古代生物編」）（朝日新聞社出版），展示の情報提供，（3 月 10 日対応）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本の整備および収蔵庫の維持管理に関すること，主担当。
3D コンテンツの制作と公開に関すること，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員に関すること，主担当。
ウェブ等を用いた情報発信に関すること，副担当。
ディスカバリールームに関すること，副担当。
A 展示室，維持・管理。
モーニングレクチャー，講義「古琵琶湖層群のウシ化石」，1 回（4 日）。
展示交流員と話そう，足跡化石。

【企画調整活動】

新任職員研修，行事運営と調整，琵琶湖博物館（2025 年 4 月 15・17 日）。

【研究部関連事業】

研究倫理研修，主担当，2025 年 11 月 27 日，琵琶湖博物館。

放射線装置の取扱，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること**【館内の人事】**

2025 年度地方衛生委員会，委員。

2025 年度図書委員。

【海外渡航】

2025 年 12 月 4 日～12 月 19 日，アメリカ・ニューヨーク市，科学研究費助成事業（基盤 B）「アフリカから東ユーラシアへの類人猿・旧世界ザルの拡散と古環境」および科学研究費助成事業（国際共同研究加速金（国際共同研究強化 B））「森林減少に伴う脊椎動物高次分類群の多様性共変動パターンの解明」に関わる哺乳類化石の標本調査。

【館外の活動】

滋賀県博物館協議会，研修委員会委員（2025 年度）。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

研究面では、今年度の野外調査は4月から8月にかけて滋賀県内、九州の河口干潟を含む水辺などで野外調査を行った。これらの地域に固有な種（未記載を含む）を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製を行っている。また、外部研究資金の獲得については、公益財団法人自然保護助成基金の第36期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成(研究代表者)に採択された。今回採択された研究課題は「津屋崎干潟に生息する絶滅が危惧されるヒガタアシナガバエの保全に向けた分類と生態に関する基礎研究」である。

事業面では、C展示室のこれからの琵琶湖の研究タジラムを第10期に更新した。このほかにC展示室「これからの琵琶湖」コーナーの『みんなで作るフィールド情報』の展示をリニューアルした。フィールドレポーターの調査の案内や調査結果を展示し、手軽に更新性を高めることに成功した。

印刷物

【専門分野の著作】

榊永一宏（2025）クラウドファンディングとSNSで広がる琵琶湖博物館の魅力. *博物館研究*, 60(4): 20-23.

【一般向けの著作】

榊永一宏（2025）琵琶湖 センスオブワンダー 湖と人とが織りなす歴史と今一求愛のリズム、ホテルの光に宿る方言. *湖国と文化*, 192(7): 60-61.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

榊永一宏(2026年1月16日) 日本産アシナガバエ科 *Hypocharassus* 属のユニークな産卵生態と幼生期の解明. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

榊永一宏(2026年1月24日) 第2回 あなたはなぜ進学を? ~経験者に学ぶ、進路の選び方~. 進化学若手の会 主催オンラインセミナー, オンライン, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究」(研究代表者: 榊永一宏), 研究代表者(2025年度).

公益財団法人 自然保護助成基金, 第36期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成「津屋崎干潟に生息する絶滅が危惧されるヒガタアシナガバエの保全に向けた分類と生態に関する基礎研究」(研究代表者: 榊永一宏), 研究代表者(2025年10月1日~2026年9月30日).

公益財団法人 自然保護助成基金, 第36期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成「外来鳥類サンジャクの管理計画のための基礎調査」外来鳥類研究会(研究代表者: 天野一葉), 共同研究者(2025年10月1日~2026年9月30日).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

International Congresses of Dipterology, Members of the Council, 2014年8月~.

2026年日本昆虫学会大会運営委員, 2025年10月~.

Fauna Ryukyuan, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12 件.

クエリーの質問対応, 昆虫に関する質問への回答.

2025 年 11 月 15 日, びわはくフェス「学芸員と展示室でつながろう」昆虫の色と形の不思議, 実施.
はしかけ 淡海スケッチの会, 担当.

他の博物館・機関等主催行事

2025 年 5 月 30 日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」(栗東市教育委員会生涯学習課), コミュニティセンター葉山 (滋賀県栗東市), 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース維持管理.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

液浸収蔵庫維持管理, 主担当.

日本産の昆虫の収集・整理 (液浸, 乾燥とも), 500 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C 展示室「これからの琵琶湖」コーナー『みんなで作るフィールド情報』, 展示のリニューアル, 2025 年 9 月 3 日.

C 展示室「これからの琵琶湖」コーナー『研究スタジアム』, 展示更新と維持管理.

C 展示室「これからの琵琶湖」コーナー『オピニオンボード』, 集計と維持管理.

E 展示室「おとなのディスカバリー」, 維持管理.

研究最前線, 更新. 1 回.

モーニングレクチャー, 講師, 1 回(4 日).

【企画調整活動】

新任職員研修, C 展示室これからの琵琶湖, 講師(2025 年 4 月 17 日).

新任職員研修, おとなのディスカバリー, 講師(2025 年 4 月 17 日).

自然共生サイトへの取組みの現地視察, アドバイザー, 株式会社木下カンセー, (2025 年 7 月 1 日, びわこ文化公園(滋賀県大津市)).

おとなのディスカバリーの視察対応, (公財) 東京動物園協会 葛西臨海水族園 新水族園準備室(2025 年 9 月 27 日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

生物多様性しが戦略推進会議連絡員, 2025 年度.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員(2003 年 4 月～).

鹿児島昆虫相調査会, 専門委員(2022 年 11 月～).

今年度は、琵琶湖生態系に属する甲虫の生態学的研究を進めた。また、フィールドデータから、淡水環境に生育する海浜植物における葉の形態変異は遺伝的要因ではなく、環境要因によって決まる可能性を示した(専門著作として出版)。さらに、湖岸に定着した海浜植物の来歴と湖岸環境への適応的な応答について琵琶湖博物館研究調査報告第38号に報告した。

事業部では、主に資料活用係の係長として、IPM (Integrated Pest Management: 総合的病害虫管理) の更新や収蔵庫環境の改善に努めた。また、3年前から推進しているDX事業の全体調整・管理・更新を遂行し、今年度はWebGISに昆虫観察データを追加した。以下に今年進めてきた研究・事業について簡潔に記す。

生態学的研究

「湖岸に生息するスナゴミムシダマシ属におけるニッチ分化の検証」【申請専門研究】

本研究では、湖岸に生息するスナゴミダマシ属のニッチ分化を検証するために、フィールドデータと飼育実験により各種の生息地選好性を把握し、湖岸の個体群動態を明示することで、棲み分け・繁殖行動の季節分け等の分化を明らかにすることも目的とした。フィールドと環境調査から、砂粒はスナゴミの生息に影響を与えるが、砂の粒径だけでなく、植生や枯れ葉等の条件も生息に重要そうであることが分かった。本研究では、ニッチ分化を検証するところまではいかなかったが、スナゴミが生息するのに必要な要素を知ることができた。

「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリング」【共同研究】

2025年度は10月、2月の2回ドローン空撮を行った。2021年から2025年の5年間分のドローン空撮画像から作成したオルソ画像から、希少種ハマゴウの面積を測定し、除草活動を行った保全区や新しい生育エリアでの植生の拡大を把握し、除草活動を行っているエリアでは、行っていないエリアよりもハマゴウの面積拡大率が大きいことを把握し、除草活動が希少種の保全に効果的であることを示した。また、これまでのオルソ画像を解析することで、面積の計測可能な時期は、ハマゴウが展葉する6月から10月頃であること、6月から10月にかけては大きな面積的な拡大は見られないことも確認できた。

【事業部】

資料活用係の統括

今年度も収蔵庫の扉の修繕や、収蔵庫環境の安定化を推進した。特に、これまで使用していた燻蒸ガスから新規のガス「アルプ」へ変更し、今後継続できる予算を獲得できるようにした。また、ルミノメーターを用いたカビの検査方法の準備を進めた。年末に文化財害虫に増加が目立ったため、来年度にむけて収蔵庫の二重壁の清掃ができるように準備を進めた。図書に関しては、新たにレファレンスデータベース事業に参加する後押しし、博物館の資料活用を促進するチャンネルを増やした。

DX事業の統括

今年度は、デジタルミュージアム事業とWeb-GIS事業の進捗管理と本事業のロードマップの更新を行った。両事業ともにホームページを更新しただけでなく、様々な分野のデジタル資料を追加公開できた。また、ユーザーフレンドリーな表示への更新や簡便な検索システムを導入することで、多くのユーザーに活用してもらえるように工夫をした。

植物収蔵庫担当

海外から寄贈されたコケ標本の手続きをマニュアル化し、海外との標本のやり取りを活性化させた。

はしかけ担当

今年度もはしかけの緑のくすり箱の主担当として活動を補助するだけでなく、おとなのディスカバリーの植物セクションへの展示など、博物館の展示交流にも貢献した。また、はしかけ「海浜植物まもりたい」の主担当として新海浜の保全活動に邁進した。昨年度に植生面積を拡大した絶滅危惧種だが、これまでになく種子を残すことができた。今年度は昨年度採集した種子を保全区周辺に植えたのだが、生育が芳しくなく、今後検討が必要である。

イノベートミュージアム事業

これまでに湖岸で収集した昆虫の標本をドイツ箱単位で撮影した。これらは、今後の企画展示やWebGISの調査データとして活用することになる。

印刷物

【専門分野の著作】

大槻達郎 (2025) 淡水環境に生育する海浜植物における葉の形態変異について. *滋賀県植物研究会会報*, 第 18 号: 22-23.

大槻達郎 (2025) 湖岸に定着した海浜植物の来歴と湖岸環境への適応的な応答について. *琵琶湖博物館研究調査報告*, 第 38 号: 56-67.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

原田 英美子, 高橋 順之, 西田 謙二, 黒沢 高秀, 大槻 達郎 (2025 年 9 月 20 日) 堀與曾市標本集に見る明治の伊吹山の植物相. 日本植物学会第 89 回大会, 福岡国際会議場(福岡市), [口頭発表].

大槻達郎 (2025 年 10 月 17 日) 琵琶湖の砂浜に生息する地表徘徊性昆虫の分散様式-水流分散を示す数々の証拠-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

大槻達郎, 武田 滋 (2026 年 3 月 10 日) 琵琶湖の砂浜に生息する地表徘徊性昆虫の分散様式-水流分散を示す数々の証拠-. 第 73 回日本生態学会大会 (ESJ73), オンライン, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「湖岸に生息するスナゴミムシダマシ属におけるニッチ分化の検証」(研究代表者: 大槻達郎), 研究代表者 (2025 年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 芳賀裕樹), 研究分担者 (2019 年度~2025 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

滋賀県植物研究会, 庶務, 2019 年 12 月 1 日~.

日本植物分類学会, NL 幹事, 2023 年 1 月 1 日~.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 4 月 15 日, 滋賀県立大学 4 回生, 卒業研究の対応 (卒業論文に関する助言).

2026 年 1 月 12 日-20 日, 滋賀県立大学 4 回生, 卒業研究の対応 (分子データの解析).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12 回.

クエリ, 回答, 7 件.

はしかけ運営「緑のくすり箱」・「海浜植物守りたい」, 担当.

はしかけ運営「森人」・「植物観察の会」, 副担当.

はしかけグループ「海浜植物守りたい」, 希少種の保全方法の助言, 6 件.

2025 年 5 月 13 日・11 月 12 日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう, 琵琶湖博物館, 運営 (はしかけ緑のくすり箱と共同), 副担当, 2 件.

2025 年 12 月 13 日, 葉っぱのランタンをつくろう!, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等の主催行事

2025 年 11 月 8 日, 講義「佐波江浜の植物多様性」, 海浜植物「ハマゴウ」の保全 ((独) 水資源機構・琵琶湖開発総合管理所・佐波江地区自治会), 佐波江公民館 (滋賀県近江八幡市), 講師.

2025 年 11 月 27 日, 講義「Aiming to become a museum that can utilize a variety of materials」, 国立民族学博物館, 琵琶湖博物館, 講師.

2026 年 2 月 14 日, シンポジウム「伊吹山の植物の魅力-花畑・薬草・信長の薬草園伝説?」, 花の百名山伊吹山草原の多様性回復をめざして-研究者、市民、行政との連携-(関西自然保護機構), 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2025 年 12 月 3 日，滋賀京都新聞「紙の資料「食べる」外来種の害虫 ニュウハクシミか、館内で発見」，電話取材，（2025 年 12 月 2 日取材対応）．
2025 年 12 月 3 日，読売新聞滋賀版「古文書食べる虫？県内に」，電話取材，（2025 年 12 月 2 日取材対応）．
2025 年 12 月 5 日，毎日新聞，「紙を食べる外来種の害虫 滋賀・琵琶湖博物館で発見 紙資料の天敵」，電話取材，（2025 年 12 月 5 日取材対応）．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

DX のウェブコンテンツの管理運営，2025 年度．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

デジタルミュージアム関連システムの基盤整備，2025 年度．
植物標本整備，収蔵庫維持管理，担当．
植物収蔵庫清掃，10 回．
大掃除（C 展示室），実施．
防虫トラップ調査，2 回．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C 展示室，いきものコレクション「植物分野」の維持管理，主担当．
おとなのディスカバリー展示入れ替え，植物細密画 4 件、植物写真パネル 9 件、植物写真（モニター）4、ハンズオン 4 件、季節の植物 2 件．
ディスカバリールーム「におってみよう・さわってみよう」，副担当．
おとなのディスカバリー「植物分野」．主担当．
モーニングレクチャー，講義「琵琶湖岸の生態系を維持する植物-昆虫の生物間相互作用」，1 回（4 日）．

【研究部関連事業】

油日湿原の植物保全活動に関する助言と技術的サポート，2025 年 5 月 9 日，琵琶湖博物館．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員（2021 年 12 月 1 日～）．
高島市環境審議会，委員（2024 年 6 月 1 日～）．
令和 7 年度第 1 回高島市環境審議会，（2025 年 9 月 18 日）．
佐波江浜（近江八幡市）の保全活動，（2025 年 11 月 8 日）．
滋賀県ヨシ群落保全審議会，（2025 年 12 月 12 日）．
令和 7 年度第 2 回高島市環境審議会，（2026 年 3 月 13 日）．

東アジア非海洋性カイミジンコ類データベースをオープンアクセスデータベースである Neotoma 古生態学データベースに一括アップロードしました。合計 1254 件のデータセットをアップロードし、確認しました。これには 2177 件の記録と 226 種の生物が含まれています。日本、韓国、中国、モンゴル、ロシア極東からの公開データは現在無料でダウンロードできます。オンラインアプリ Neotoma Explorer を使用すると、非海洋性カイミジンコ類の分布図を作成できます。さらに最近公開された記録を Neotoma にアップロードしています。その他のプロジェクトには、日本における侵入性カイミジンコ類の新記録の論文、神奈川県からのカイミジンコ類の新記録の論文、中国雲南省の *Stenocypris* 属に関する原稿の作成、滋賀県北部の山門湿原のカイミジンコ類に関するフィールドワーク、同定、原稿の作成、東アジア非海洋性カイミジンコ類データベースの拡張などがあります。私は引き続き Zootaxa の編集者を務めています。

印刷物

【学術論文】

Ham, S., Smith, R. J. & Nakata, K. (2025) First record of the invasive entocytherid ostracod *Ankylocythere sinuosa* on the North American red swamp crayfish *Procambarus clarkii* in western Japan. *Crustacean Research*, 54: 103–112. https://doi.org/10.18353/crustacea.54.0_103.

小沢広和・Smith, R. J. ・中村 晴 ・中井静子 (2025) 神奈川県藤沢市の日本大学生物資源科学部構内水田における 淡水生貝形虫 (甲殻亜門・貝形虫綱・ポドコピーダ目) の産出記録. *生物資源科学*, 34 : 5-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中井静子・Smith Robin James・中尾有利子・西田澄子・小沢広和 (2025 年 9 月 10 日) 家庭のアクアリウムに侵入する外来無脊椎動物. 2025 年度日本ベントス学会・プランクトン学会合同大会, 長崎大学(長崎市), [ポスター発表].

Seongnam Ham, Robin James Smith, Kazuyoshi Nakata (2025 年 10 月 2 日) First record of the invasive entocytherid ostracod *Ankylocythere sinuosa* on the North American red swamp crayfish *Procambarus clarkii* in western Japan. TCS & IAA Asian Regional Meeting 2025, Hokkaido University (Sapporo).

スミス ロビン (2025 年 11 月 21 日) オンラインデータベースと分類データ. 東アジア淡水産カイミジンコデータベースの最新情報とその活用例. 研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中井静子・Robin J Smith・中尾有利子・西田澄子・小沢広和 (2026 年 3 月 14–15 日) 家庭のアクアリウム・ビオトープに侵入する外来種. 第 73 回日本生態学会大会, 京都大学(京都市), [ポスター発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zootaxa の編集者, (通年).

査読, 6 件.

琵琶湖博物館学芸員の書いた英文 (論文等) の英文添削, 数件.

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 12 件.

視察等への対応

2025 年 08 月 23 日, 講義, 研修員.

2025 年 08 月 28 日, 講義, 研修員.

2025 年 11 月 28 日, 講義, 見学案内、研修員.

2025 年 11 月 26 日, 見学案内, 研修員.

2026 年 03 月 10 日, 講義, 研修員.

2026 年 03 月 26 日, 講義, 見学案内, 教授.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの情報更新, 多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

マイクロアクアリウムの展示コーナー, 管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 1回(4日).

2026 年企画展示の準備.

今年度、水産試験場から琵琶湖博物館への異動となった。研究面では琵琶湖の魚類を支える餌環境を明らかにすることで、水産資源の持続的な利用に寄与することを目的として調査・研究に従事した。事業面では、展示係および水族担当として展示の維持管理に従事し、来館者が当館を通じて琵琶湖やその生態系への関心が深められるよう努めた。

【研究】魚の「食べ物」から考える生態系の安定と保全について

琵琶湖を代表する赤野井湾は、かつて多くの魚類で賑わう水域であったが、湖岸開発によるヨシ帯の消失や外来魚の増加などにより魚類が激減した。近年は再生プロジェクトなどの取り組みにより、ホンモロコなど一部の水産対象魚種では資源回復の兆しが見られている。一方で、ホンモロコでは餌不足に起因する小型化・痩せが問題となっており、資源動態や再生産への影響が懸念されていることから、餌料に関する知見の重要性が高まっている。

これまで餌料分析には胃内容物分析が広く用いられてきたが、消化されやすい餌料の同定や定量評価が難しく、直近の摂食状況のみを反映するスナップショット的な手法であるため、実際に同化された餌料を評価できないという課題がある。そこで、安定同位体比質量分析や脂肪酸分析といった手法を併用することで、各魚種の食性を明らかにする。

本研究の開始初年度にあたる今年度は、魚類および餌料生物である動物プランクトンのサンプリングを中心に実施した。あわせて、これらの安定同位体比および脂肪酸の測定を進めている。次年度もこれらの調査を継続するとともに、解析を実施する予定である。本研究の成果が、琵琶湖の豊かな生態系を未来へと継承し、持続可能な水産業に資することを期待する。

【事業】

展示係として予算の管理および備品の管理に従事した。また 2026 年企画展の副担当として、助成金の確保や一部の展示資料の調達において主担当を補佐した。水族展示の担当としては共同で水族展示の維持管理に従事し、特に水族資料管理に係る法令手続きや、魚類防疫士としての知識を活かした魚類疾病の予防管理に尽力した。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

寺井章人（2025 年 11 月 8 日）琵琶湖の在来魚を支えるエサの解明に向けて、10 周年記念シンポジウム（公益財団法人中辻創智社）、京都タワーホテル（京都市）、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「赤野井湾における在来魚の生息状況について」（研究代表者：寺井章人）、研究代表者（2025 年度）。

公益財団法人 中辻創智社 2025 年度研究費助成 「琵琶湖魚類生態系をささえる動物プランクトンの被食動態の調査」（研究代表者：寺井章人）、研究代表者（2025 年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 8 月 5 日、近畿大学、「水産増殖学実習」、講義。

2025 年 8 月 28 日、龍谷大学、「びわ湖・滋賀学（自然と暮らしの歴史（1）琵琶湖の漁業のいまと環境政策）」、講義。

2025 年 8 月 29 日、龍谷大学、「びわ湖・滋賀学（水族展示室見学）」、講義。

2025 年 9 月 10 日、近畿大学、「水産生物学実習」、講義。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク、9 回。

クエリを通じた質問への対応、9 件。

2025 年 11 月 16 日、びわ博フェス「びわ博子ども若者研究発表交流会」、コメンテーター。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 7 月 27 日，地域連携「しってる？いきもののつながり、まもろう！いきもののつながり」（滋賀県湖北農業農村事務所田園振興課），滋賀県米原市深谷下溜，講師。

2025 年 11 月 9 日，地域連携「びわ湖と魚」（大津中央ロータリークラブ），琵琶湖博物館，講師。

2025 年 11 月 13 日，地域連携「ようこそ！琵琶湖博物館へ探ろう湖と人の関係史」（大阪 ECO 動物海洋専門学校），琵琶湖博物館，講師。

2025 年 11 月 29 日，地域連携「琵琶湖と湖魚と人」（自治労滋賀県職員労働組合），琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2026 年 6 月号（2026 年 3 月 31 日時点での予定），『サライ』（小学館），琵琶湖の魚類とその利用（水産の話を中心に）および水族展示室の案内，（2026 年 3 月 3 日取材対応）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類等疾病管理と水質維持，主担当。

水族資料管理に係る法令・条例等の手続き，主担当，27 件。

水族会議の開催に関すること，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示活動に係る予算管理，主担当。

エントランス、アトリウム、企画展示室の使用に関する調整および備品管理，主担当。

2026 年度企画展示，副担当。

水族トピック展示，とある飼育員の飼育日誌～ビワマス赤ちゃんが泳ぎ出すまで～（2026 年 1 月 10 日～2026 年 3 月 8 日），ビワマス孵化仔魚から稚魚までを生体展示。

モーニングレクチャー，ホンモロコについて，1 回（4 日）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

産経新聞「よみがえれ日本の淡水魚」掲載記事，とりまとめ・添削。

研究活動としては、(1)多自然川づくりに関する検討、および(2)河川維持管理をテーマに研究を進めた。

(1) 近年、大雨及び短時間降雨の発生頻度が増加しており、中小河川での洪水氾濫が頻発しているため、河川整備や浚渫等の事前防災対策が加速的に進められている。一方で、生態系への配慮が不十分な工事現場が散見される。本来、川には瀬や淵があり草の生えた土手の水際があり、物理的にも多様な環境が自然に形成されているが、河川整備や浚渫等により河川地形や河床が単調化してしまった場合、自然の営力のみによって、瀬淵や水際を形成するには長い年月を要する。しかし、水制工という比較的簡単な河川工法により、瀬淵の形成を促すことは可能である。水制工は、水制工付近の流下速度に変化が生じさせる。水制工の根本付近は流下速度が遅くなり、先端付近は流下速度が速くなる。この速度の変化が生じることにより、根本付近では土砂が堆積し、先端付近では土砂が侵食される。これにより単調化してしまった河川でも、比較的短い時間で瀬淵を形成させ、河床環境の多様化をもたらす生物の多様性・生物量の増加が期待できる。そこで、水制工による河川環境再生による効果について、河川の流れ・河床変動シミュレーション iRIC (International River Interface Cooperative) ソフトウェアによる二次元河床変動水理計算 (Nays2DH) を用いて可視化した。実河川において浚渫工事により単調化してしまった河川や滞筋が固定化されたことにより河床洗堀が生じた河川に対し、水制工を設置した際の土砂の移動について、河床変動シミュレーションを行った。事前準備としてシミュレーションの精度を上げるためにドローンによる点群測量を行った。シミュレーションでは設置しない場合に比べて改善傾向が見られ、長期的には環境の回復が見込まれることが予想された。このことから実際に水制工設置の工事を行うことができた。他の河川でもシミュレーションによる検証を行っていき、河川の自然再生事例を増やしていく。

(2) 琵琶湖のアユの産卵環境・生息環境は、好適な礫径・藻類種繁茂が必要であることが言われている。琵琶湖に流入する河川では、河川横断構造物や様々な要因による流況変化等に伴う土砂移動の阻害により、森—川—湖における土砂のつながりが損なわれ、河床の粗粒化や固化等を生じ、これに伴う魚類等の生息・産卵環境への悪影響が懸念されている。そこで、過年度の検討成果から、土砂移動が阻害され、土砂が動きにくくなった愛知川中流域の砂州において、出水という自然の営力によって砂州の河床下層に堆積した細粒土砂を下流に供給し、砂州を適切な粒度分布とするため、河床の表層と下層を混合する河床耕耘 (うん) の試験施工を過年度に行い、その効果の把握のためのモニタリング調査を実施してきた。しかし、効果が限定的であったところから、永源寺ダムによりせき止められた土砂を浚渫し、ダムの下流へ運搬・設置させたものを、洪水によるフラッシュで下流へ流下させる置き土の検討を行ってきた。しかし、ダム管理者と河川管理者が異なるため、合意形成が図れない状態であった。ダム管理者としては、ダム内に堆積する土砂の処理に困っており、置き土により下流へ土砂を流下させたいと考えていた。しかし、河川管理者としては、大雨の際に河道内の河積が減少し洪水の恐れがあると考え、置き土に対し否定的であった。また、滋賀県では初めての試みであり、根拠もない状態で許可が下りず、ダム管理者による置き土工事は実施できない状態であった。そこで、上記の河川シミュレーションソフト (iRIC) を用いて、置き土による河川の影響を算出し、河川管理者に治水上問題がないことをシミュレーションで提示することで、合意形成を図ることができた。そして、R6 年度に 400m³ の置き土工事を施工することができた。少ない土量であったが、置き土周辺では、土砂により石に付着した古い苔が洗い流され、きれいな苔が確認できた。R7 年度には 600m³ の置き土を実施することができ、砂によるフィルタリング効果で置き土付近では水質の改善にもつながっていた。徐々にではあるが愛知川上流での環境改善を進めることができた。

河川維持管理業務では、地元要望への対応、境界確認、河川巡視点検など、アナログ的な業務が多く残っており、業務効率化と品質向上が課題となっている。特に河川巡視においては、1 職員あたりの担当延長が膨大であること、2 名体制での現地対応が必要なこと、異常がない場合は記録が残らないことが課題として挙げられる。そこで、これらを「河道全体把握」「データ活用」「作業効率」の 3 点に整理し、これらの課題に対し、ドローンを用いた解決策を検討した。既存の 360° 映像作成ソフトでは、さまざまな制限があったため、生成 AI を活用した独自 Web アプリを開発した。効果検証の結果、河道全体把握については、従来の車上目視では確認できなかった竹木繁茂箇所や滞筋・土砂堆積状況を俯瞰的に把握できるようになった。データ活用面では、異常がない場合でも記録が残るため、出水前後の比較や経年変化の追跡が可能となった。作業効率については、従来と比較すると効果は限定的で

あったが、視認困難箇所や複断面区間ではさらなる向上が見込まれる。総じて、本システムは河川巡視および地元要望等の現場確認に十分活用できると判断した。

事業活動では、常設展示維持管理業務委託を監督した。また、屋外展示維持管理業務委託を監督し、樹木剪定、伐木、除草等を行った。事前調整や安全管理等を適切に行い、無事に完了することができた。さらに、C展示室「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナーの展示更新を行った。具体的には、今年度の淡海の川づくりフォーラム受賞者のポスター更新やコーナーの解説動画などの展示を行った。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

橋本康平・濱口貴仁（2025年9月11日）発注業務のオートメーション化の検証。近畿地方整備局研究発表会，国土交通省近畿地方整備局，大手前合同庁舎(大阪市)，[口頭発表]。

濱口貴仁（2025年9月19日）河川におけるDXの推進。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

濱口貴仁（2025年12月19日）河川版ストリートビューの構築・維持管理業務の効率化の提案。土木技術研究発表会，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「多自然川づくりに関する検討，グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」（研究代表者：濱口貴仁），研究代表者（2025年度）。

琵琶湖博物館専門研究「流域治水時代における忘却の彼方にある水害の痕跡・伝説の再構築」（2025年度）。

琵琶湖環境研究推進機構「ネイチャーポジティブ社会に資する流域の森や川のグリーンインフラに関する研究」流域環境研究，（研究代表者：琵琶湖環境科学研究センター 水野敏明），研究分担者，2025年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年8月27日，龍谷大学，琵琶湖・滋賀学（暮らしとつながる自然（1）森・川のいまと環境政策）。

2025年9月30日，桐原東小学校，水辺の学校事業（河川の環境について）。

2025年12月16日，希望ヶ丘小学校，水辺の学校事業（河川の環境について）。

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，6件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「滋賀県の河川」，1回（3日）。

常設展示維持管理委託，主担当。

屋外展示維持管理委託，主担当。

第33回企画展示，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025年度，滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境係 主査を兼務。

琵琶湖、およびその集水域における微小生物、主に動物に関して、その生態や分布に関する展示、研究を行っている。本年度においては、琵琶湖博物館の生態観察池の池干し後の微小生物相調査、ならびに大阪大学の待兼山の生物相調査に協力し、豊中キャンパス内3か所の池に関して、そこから得られる微小生物相の調査を実施した。

専門研究では「琵琶湖集水域および人工池におけるイタチムシ類の調査」というタイトルで研究を行った。

共同研究では「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」の共同研究者として、生体観察池の微小生物相の調査を実施し、月ごとの微小生物相の変動を記録した。

また、前年度までに副代表として行っていた共同研究「琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築」内で実施していた、琵琶湖博物館ウェブページ上での微小生物に関するコラム「ミクロの世界へ」と京都新聞で連載した「ミクロの世界から」の書籍化が完了し、発行された。

試験研究機関担当として、試験研究機関連絡会議への参加、成果発表としての科学の祭典への参加、本会議への参加を行った。

博物館業務ではマイクロアクアリウムの運営を行った。季節に応じた展示生物の変更、および夏季のマミズクラゲ展示のほか、飼育状態のノロの展示を行った。マミズクラゲを採集している池での発生は短期間に留まり、本年度においても、当館で発生した個体の展示にとどまった。しかし、これは館内でのマミズクラゲの発生が徐々にできるようになってきており、飼育員の協力の元、本来マミズクラゲを見ることができない冬季におけるマミズクラゲ展示を行うことができた。

地域連携担当として、博物館への講義、講演依頼の調整、実施補助を行った。

フィールドレポーター担当として、フィールドレポーターと共に活動を実施した。2025年度タンポポ調査の結果の公開、2025年度フィールドレポーター調査「水辺の魅力調査」の実施、2026年度調査の準備の実施、2025年度びわ博フェスのワークショップへの参加を行った。

労働者代表として、琵琶湖博物館における地方衛生委員会への参加を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

鈴木隆仁 (2025) *Gastrotricha 腹毛動物門 In: 仲村康秀・山崎博史・田中隼人 (編), カラー図解 水の中の小さな美しい生き物たちー小型ベントス・プランクトン百科ー*. 朝倉書店, 東京, pp. 186-189.

【一般向けの著作】

渡辺圭一郎・根来 健・鈴木隆仁・大塚泰介 (2025) *琵琶湖博物館マイクロアクアリウムからーミクロの世界によるこそー. 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (編)*, 京都新聞出版センター, 京都, 140 pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

鈴木隆仁 (2025年9月19日) 生態観察池の池干しによるプランクトン相の変化. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木隆仁 (2025年12月21日) 第16回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館, ハイブリッド開催, [運営補助] (大塚泰介・金尾滋史と共同).

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖集水域および人工池におけるイタチムシ類の調査」(研究代表者: 鈴木隆仁), 研究代表者 (2025年度).

琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」(研究代表者: 菅原巧太朗), 共同研究者 (2024年度~2026年度).

大阪大学 SSI プロジェクト「大学と地域の生物多様性保全の実現」(研究代表者: 大阪大学理学部・古屋秀隆、吉岡聡司), 微小生物担当 (2020年度~2025年度).

科学研究費助成事業（基盤 C）「淡水棲マミズクラゲがもつ3つの謎（性決定、芽体形成、生物伝播）の解明に迫る」（研究代表者：奈良県立医科大学・小林千余子），マミズクラゲネットワーク確立担当（2022年度～2025年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年6月5日，大垣市立上石津学園，講義。
2025年7月17日，彦根東高校，プランクトン実習。
2025年7月29日，県内中学校，自然調査ゼミナール。
2025年8月22日，博物館実習，フィールドレポーター，地域連携担当。
2026年3月22日，刀根山高校，プランクトン実習。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件（ただしフロアトーク1回中止）。
はしかけグループ「田んぼの生きもの調査グループ」，担当。
はしかけグループ「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」，副担当。
フィールドレポーター活動補助，担当。
クラウドファンディング返礼「微小生物学芸員体験」2件。
2025年8月30日，湖探検，観察会，副担当。
2025年9月27日，プランクトンでビンゴ，観察会，担当。
2025年11月15日，SCREENホールディングスプランクトンワークショップ（びわ博フェス），観察会，担当。
2025年12月14日，ダイハツプランクトン観察会，観察会，担当。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025年6月10日，講義「琵琶湖のプランクトンの状況について」，村田製作所，琵琶湖博物館，講師。
2025年6月22日，観察会「いきもの観察会」，高島農業農村振興事務所田園振興課，高島市マキノ町知内地先，講師。
2025年7月26日，観察会「すすめ！びわっこ探検隊 夏季プログラム」，淡海環境保全財団，琵琶湖博物館，講師（金尾滋史と共同）。
2025年7月27日，講義「微生物について」，草津市まちづくり協働部，琵琶湖博物館，講師。
2025年10月4日，実習「琵琶湖のプランクトン」，NPO法人自然と緑 第27期自然大学，琵琶湖博物館，講師，（大塚泰介と共同）。
2025年10月8日，講義「ナゾの生物プランクトン」，網膜色素変性症協会，琵琶湖博物館，講師。
2025年10月21日，観察会「プランクトン観察」，貝塚市立自然遊学館，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2025年5月2日，NHK 大津，おうみ発 630 内「しが生き物図鑑（イタチムシ）」，（4月23日撮影）。
2025年5月16日，NHK 大津，おうみ発 630 内「しが生き物図鑑（ビワオオウズムシ）」，（4月23日撮影）（田畑諒一と共同）。
2025年11月14日，NHK 大津，おうみ発 630 内「しが生き物図鑑（ノロ）」，（10月7日撮影）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル，びわこのちからチャンネル「【写真好きな学芸員が伝授】琵琶湖博物館のフォトスポットを綺麗に撮影する方法とは？」，（2026年2月27日公開）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

甲殻類標本（ウチダザリガニ）登録，受入担当，1件。
寄生虫標本登録，受入担当，1件。
無脊椎標本群登録，受入担当，1件。

【展示活動】**琵琶湖博物館の活動**

マイクロアクアリウム・マイクロバー，ノロ展示，2025 年 5 月 11 日～2026 年 2 月 23 日．

マイクロアクアリウム・マイクロバー，マミズクラゲ，2025 年 6 月 18 日～2026 年 1 月 14 日・2026 年 3 月 13 日～
継続中．

モーニングレクチャー，講義「プランクトンネット講座」，1 回（4 日）．

【研究部関連事業】

危険物等の管理，主担当．

館内の人事・館外活動等に関すること**【海外渡航】**

2026 年 1 月 25 日～2 月 1 日，オランダ/ライデン/ナチュラリス生物多様性センター，国立民族学博物館，シーボ
ルトハウス，企画展示に伴う標本類の貸し出し交渉および、収蔵標本の調査．

【館外の活動】

大阪大学大学院理学研究科，招へい研究員（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）．

淡水魚という視点から、まだ多く眠っている琵琶湖の魅力を発掘し、その魅力を発信することを目指して、コイ科を中心とした淡水魚類の系統分類に関する研究を行っている。また、持続可能な琵琶湖やその利用の実現のために、魚類多様性の保全に関する研究にも取り組んでいる。琵琶湖は淡水魚進化の場であり、人との関係性も深い東アジアの中でも特筆すべき場所である。それをメインに研究する機関として、琵琶湖博物館が東アジアの淡水魚研究の拠点となるよう事業を展開する。

<研究>

（１）コイ科魚類の系統分類学的研究

今年度は、オランダ・ライデンにあるナチュラリス生物多様性センターとアメリカ・サンフランシスコのカリフォルニア科学アカデミー、ニューヨークにあるアメリカ自然史博物館、韓国の国立中央科学館、国立内水面水産試験場で標本調査を実施することができた。ナチュラリス生物多様性センターでは、ドジョウ、アユなど、カリフォルニア科学アカデミーやアメリカ自然史博物館ではカゼトゲタナゴ類、ツチフキや古い琵琶湖産標本、韓国国立中央科学館では韓国の淡水魚学の父ともいえる崔基哲博士のコレクション、韓国国立内水面水産試験場では内田恵太郎コレクションなどを精査できた。タナゴ亜科やカマツカ亜科の重要なタイプ標本を多数、写真撮影、観察や計測・計数を実施することができた。

（２）標本に基づく過去の魚類相調査

魚のにぎわい復活に向けた保全目標や再生に向けた戦略を立てるための基礎情報を、標本調査で積み上げる必要がある。今年度も、昨年度に引き続き、大正時代前後に収集された東京大学総合研究博物館に所蔵されている田中茂穂コレクション、国立科学博物館に所蔵されている中村守純コレクション、当館に所蔵されている長田芳和研究室コレクションなどの魚類標本調査などを実施した。長田コレクションは、淀川のサンプルを中心に整理を行った。

<博物館事業>

博物館事業では、魚類標本の整備、展示係としてディスカバリールーム、次年度企画展示準備などの業務、水族担当として水族の対応、魚類の保護増殖に関することなどを実施した。魚類標本整備の主担当者として、魚類標本作製、標本受入、外部研究者の標本借用・調査対応などを行った。展示係では、ディスカバリールーム担当として、ディスカバリールームの運営などに取り組んだ。次年度企画展示の準備として、展示計画、国内外の博物館や研究機関との資料借用の交渉や手続き、図録の執筆、展示物作成などを実施した。また、実際にライデン博物館に行き、資料借用の交渉等も実施した。水族については、市民団体や地元自治会と協力してイチモンジタナゴの復元放流を実施したり、元の生息地である平安神宮の調査や補強放流など、野生復帰や保全に係る取り組みを実施した。企業連携では、株式会社 叶 匠壽庵とのイチモンジタナゴ保全活動などを実施した。

印刷物

【学術論文】

伊藤 玄・川瀬成吾・和田英敏・藍澤正宏（2025）田中茂穂コレクションから発見された絶滅地域・長崎県産のオヤニラミ標本. *Ichthy*, 54: 22-26.

Ito, G., J. Kitamura, S. Kawase, M. Asamil, Y. Goto, H. Yamanaka (2026) Development of a lineage-specific environmental DNA assay to differentiate intraspecific lineages of the endangered freshwater fish, *Acheilognathus cyanostigma* (Cyprinidae: Acheilognathinae). *Conservation Genetics Resources*, 18: 6.

【専門分野の著作】

川瀬成吾・大植伸之（2026）琵琶湖における国内外来種シロウオの初確認. *淡海生物*, 7: 19-20.

【一般向けの著作】

細谷和海・内山りゅう・藤田朝彦・川瀬成吾・井藤大樹（2025）*日本の淡水魚 第4版*. 山と溪谷社, 東京, 583 pp.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 川瀬成吾 (2025) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち オオクチバス 獐猛な特定外来生物. 産経新聞滋賀県版, 2025 年 5 月 18 日.
- 川瀬成吾 (2025) 日曜日に知る琵琶湖の魚たち シマヒレヨシノボリ〜. 産経新聞滋賀県版, 2025 年 7 月 13 日.
- 川瀬成吾 (2025) 日曜日に知るよみがえれ!! 日本の淡水魚 保護増殖センターでの取り組み. 産経新聞滋賀県版, 2025 年 8 月 10 日.
- 川瀬成吾 (2025) 日曜日に知るよみがえれ!! 日本の淡水魚 イタセンパラ. 産経新聞滋賀県版, 2025 年 9 月 14 日.
- 川瀬成吾 (2025) 日曜日に知るよみがえれ!! 日本の淡水魚 イタセンパラの飼育繁殖. 産経新聞滋賀県版, 2025 年 10 月 12 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- Kawase, S. (2025 年 6 月 20 日) Conservation taxonomy of Japanese freshwater fishes. 2025 年度韓国魚類学会, 国立中央科学館 (韓国大田), [招待講演].
- Kawase, S. (2025 年 9 月) Alien fishes in Lake Biwa. 韓国国立内水面水産試験場セミナー, 韓国国立内水面水産試験場 (韓国 Geumsan), [招待講演].
- 川瀬成吾 (2025 年 10 月 4 日・5 日) 企画運営・司会進行. 第 81 回魚類自然史研究会, 大阪工業大学大宮キャンパス (大阪市旭区), [運営・司会].
- 細谷和海・藤田朝彦・川瀬成吾 (2025 年 10 月 5 日) 『朝鮮魚類史』と韓国に残る内田恵太郎 collection. 第 81 回魚類自然史研究会, 大阪工業大学大宮キャンパス (大阪市旭区), [口頭発表].
- 川瀬成吾 (2025 年 10 月 17 日) 西洋の博物館から過去の琵琶湖にタイムスリップ〜江戸・明治の琵琶湖の魚類相〜フランス編. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中野 光・伊藤 玄・平嶋健太郎・川瀬成吾 (2025 年 11 月 22 日) 福井県教育博から発見された五十嵐 清コレクション: 福井県を中心とした 1948-1971 年の淡水魚類標本. 2025 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学 (東京都港区), [ポスター発表].
- 米田一紀・川瀬成吾 (2025 年 11 月 22 日). 天然域に産み付けられたホンモロコ卵および孵化仔魚の干出耐性. 2025 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学 (東京都港区), [ポスター発表].
- 中江雅典・川瀬成吾・長谷川 功・向井貴彦 (2025 年 11 月 23 日) 生息域外保全での継代飼育ウシモツゴで確認された側線系の変異. 2025 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学 (東京都港区), [口頭発表].
- 藤田朝彦・川瀬成吾 (2025 年 11 月 23 日) ファウナヤポニカで記載された日本産ドジョウの分類学的再検討. 2025 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学 (東京都港区), [口頭発表].
- 川瀬成吾 (2026 年 3 月 21 日・22 日) 企画運営. 第 82 回魚類自然史研究会, 敦賀市北公民館 (福井県敦賀市), [企画運営].
- 中野 光・伊藤 玄・平嶋健太郎・川瀬成吾 (2026 年 3 月 22 日) 福井県教育博物館から発見された五十嵐 清コレクション. 第 82 回魚類自然史研究会, 敦賀市北公民館 (福井県敦賀市), [口頭発表].
- 伊藤 玄・中野 光・川瀬成吾 (2026 年 3 月 22 日) 古標本から見出された福井県産淡水魚類の新たな分布. 第 82 回魚類自然史研究会, 敦賀市北公民館 (福井県敦賀市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「コイ科カマツカ亜科魚類の比較解剖学的研究」(研究代表者: 川瀬成吾), 研究代表者 (2021 年度〜).
- 琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 芳賀裕樹), 分担者 (2019 年度〜2025 年度).
- 科学研究費助成事業基盤研究 C「博物館における分類学の再考と再構—生物多様性保全に向けた保全分類学の挑戦—」(研究代表者: 川瀬成吾), 研究代表者 (2023 年度〜2025 年度).
- 科学研究費助成事業基盤研究 C「絶滅危惧種ウシモツゴの健全な個体群増加のための遺伝的多様性と適応的形質の解析」(研究代表者: 岐阜大学・向井貴彦), 研究分担者 (2024 年度〜2026 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 関西自然保護機構, 編集委員.
- Ichthy, 査読, 1 件.
- Zoosystematics and Evolution, 査読, 1 件.
- 国立科学博物館研究報告, 査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 8 月 5 日，近畿大学農学部水産学科亀甲ゼミ生，「ようこそ！琵琶湖博物館へ 探ろう湖と人の関係史」，実習。

2025 年度博物館実習，標本整理，ディスカバリーボックスを作ろう，琵琶湖博物館（液浸収蔵庫）（2025 年 8 月 19-21 日）。

2025 年 10 月 1 日，大阪 ECO 動物海洋専門学校，「ようこそ！琵琶湖博物館へ 探ろう湖と人の関係史」，実習。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11 件。

クエリーの質問対応，5 件。

メディアへの協力

2025 年 4 月 18 日，NHK 大津「しが生き物図鑑 アブラボテ」，アブラボテについて解説，（4 月 7 日・9 日取材対応）。

2025 年 5 月 7 日，E テレ「ザ・バックヤード」，液浸収蔵庫で魚類標本について解説，（取材対応）。

2025 年 6 月 27 日，NHK 大津「しが生き物図鑑 イチモンジタナゴ」，イチモンジタナゴや保全活動について解説，（6 月 8 日取材対応）。

2025 年 6 月 1 日，YouTube チャンネル「マーシーの獲ったり狩ったり」「希少種のいる川にコイの卵を沈めてみると…【第 5 回春のタナゴ大感謝キャンペーン】」，マーシーと一緒にガサガサ・魚解説，（5 月 6 日撮影）。

2025 年 12 月 12 日，NHK 大津「生き物図鑑 海外出張編 貴重な湖魚の標本」，アメリカのカリフォルニア科学アカデミーに収蔵されている琵琶湖産魚類標本について解説，（11 月 28 日・12 月 2 日取材対応）。

2026 年 1 月 2 日，韓国の YouTube チャンネル「生物図鑑」「최대수심 100m 의 거대 호수에 만들어진 민물아쿠아리움엔 어떤 생물들이 살까?」，琵琶湖の魚や琵琶湖博物館について解説，（10 月 16 日取材対応）。

2026 年 2 月 27 日，NHK 大津「びわ湖の生態系保全へ 江戸時代の湖魚やトキの標本調査」，オランダライデンのナチュラリス生物多様性センターでの調査について，（2 月 10 日取材対応）。

2026 年 3 月 27 日 NHK 大津「しが生き物図鑑 シーボルト標本」，シーボルトコレクションについて解説，（2 月 10 日取材対応）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料保管，担当。

水族保護増殖，担当。

魚類液浸標本，担当。

魚類標本，利用申請対応，6 件。

魚類標本，特別観覧対応，1 件。

魚類標本，寄贈受入対応，1 件。

魚類生体，分譲対応，1 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 32 回水族企画展示 淡水魚から見る世界の湖沼（2025 年 7 月 19 日～9 月 28 日），世界湖沼の日制定を記念した企画展示を実施・主担当。

モーニングレクチャー，講義「シーボルトと琵琶湖の淡水魚」，1 回（4 日）。

【企画調整活動】

クラウドファンディング第 2 弾，副担当。

クラウドファンディング第 2 弾，返礼ツアー対応。

【広報営業活動】

SNS 発信，記事作成，17 件。

資料提供，記事作成，3 件。

【研究部関連事業】

特別研究員受入，担当学芸員，2 件.

館内の人事・館外活動等に関すること**【海外渡航】**

2025 年 6 月 18-22 日，韓国国立中央科学館，韓国魚類学会参加・講演および標本調査，招待.

2025 年 9 月 14-18 日，韓国国立内水面水産試験場，標本調査，県費.

2025 年 11 月 1-16 日，アメリカ サンフランシスコ カリフォルニア科学アカデミー，ニューヨーク アメリカ自然史博物館，標本調査，科研費.

2026 年 1 月 25 日-2 月 1 日，オランダ ライデン ナチュラリス生物多様性センター，表敬訪問・標本借用打合せ・標本調査，県費.

【館外の活動】

京都市，京都市環境審議会生物多様性保全検討部会，委員（2021 年～）.

滋賀県，マザーレイクゴールズ学術フォーラム，委員（2022 年～）

奈良県，奈良県外来生物対策アドバイザー，委員（2023 年～）.

滋賀県の面積の半分を占める森林が健全であることは、川、里、湖の健康にもつながっている。この森林管理の重要性を伝え、効果的な植生情報の把握をはかるべく、事業と研究に取り組んだ。

研究活動では、ドローンを用いて森林の林分状況の把握や、植生の季節変動モニタリング調査を行った。滋賀県の森林の4割を占める人工林で、その多くが伐期を迎えている。今後、この森林資源を「切って、植えて、育てる」といった循環をしつつ、環境に配慮した森林づくりを行っていく必要がある。森林の整備にあたっては、施業が必要な場所を見つけて現地で林分調査を行い、資源量などを把握し、適切な施業方法を選択する必要があるため、調査段階で時間と人件コストがかかる。そこで、既往の航空レーザ測量の成果物や、ドローンによる写真測量データを用いて林分状況を把握することで、従来の調査方法の省力化ができないかを検討した。現地での林分調査として、皆伐・再造林を行う森林に調査プロットを設けて、施業前に樹種、本数、樹高、胸高直径を測定した。それから、現地で伐倒してもらった木をすぐ実測し、施業前調査や航空レーザ測量成果で得られた樹高と比較を行った。各種検討の結果、樹種については航空レーザ成果物が大いに活用できることが示唆された。一方で、航空レーザ測量では樹頂点として抽出されていないエリアがあり、今回の調査地も一部で比較することができなかった。ドローンによる撮影画像から、森林解析ソフトを用いて森林資源情報の把握に努めた。樹冠分離や樹頂点の抽出を行った一方で、樹種分類の精度が低く、解析の最適条件の検討や、検討箇所を増やすことにより実用的な手法を見出していきたい。

また、令和5年度～令和7年度の共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析」において研究代表者を務めた。今年度は、引き続き湖岸の海浜植物や湿原、天然林、河川といった調査対象地において共同研究者とともに調査を行った。湖岸に生息する希少種について、2021年の調査開始以降のドローンオルソ画像を整理して、除草活動を行うことが希少種の面積拡大に寄与していることや、湖岸でのマツ枯れの発生時期と被害程度をモニタリングすることができた。

研究で使用していたドローンだが、博物館事業における利活用を行うべく、ドローンの普及を目的として職員向け研修会を企画・運営した。その結果、展示資料としてドローン画像を使用したり、調査にドローンを使用したりする機会を作ることができた。

交流事業では、はしかけ里山の会と共同で、里山体験教室の企画・運営を行った。参加者の方と里山の四季を感じつつ里山あそびや里山整備活動を行った。その他はしかけ里山の会で実施している独自活動の支援を行った。独自活動では、会員のやってみたいという相談を実現する支援を行った。また、はしかけ緑のくすり箱と共同で、春と秋の年2回植物の水蒸気蒸留による芳香成分抽出を行った。びわ博フェスではフェスともやもじあつめの担当等を行った。交流イベントの他に、情報誌「びわはく」の編集主担当として、びわはく第9号の印刷および第10号の制作に携わった。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

奥田岬 (2026年2月20日) UAVを活用した琵琶湖生態系モニタリングの可能性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「ドローンモニタリングにおける簡易的な森林情報把握手法の検討」(研究代表者: 奥田岬), 研究代表者 (2025年度).

琵琶湖博物館共同研究「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析」(研究代表者: 奥田岬), 研究代表者 (2023年度～2025年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年8月27日, 龍谷大学瀬田キャンパス, びわ湖・滋賀学「琵琶湖の自然と生き立ち～琵琶湖の森のいまと環境政策～」, 講義.

2025年10月24日, 京都芸術大学大学院芸術研究科(通信教育)修士課程学生, 里山やはしかけに関する助言.

2026年3月4日, 京都府立大学環境科学部4年生, 卒業研究に対する助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，6 件。

情報誌「びわはく」の出版に関すること，主担当。

はしかけ運営「里山の会」，主担当。

2025 年 4 月 20 日，里山の春をみつけよう，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2025 年 6 月 22 日，里山の夏を楽しもう，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2025 年 10 月 19 日，里山の秋を探そう，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2026 年 1 月 18 日，里山の冬遊び，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営（はしかけ里山の会共同），主担当。

2025 年 5 月 13 日，季節の植物でアロマウォーターを作ろう，琵琶湖博物館，企画運営（はしかけ緑のくすり箱共同），主担当。

2025 年 11 月 11 日，季節の植物でアロマウォーターを作ろう，琵琶湖博物館，企画運営（はしかけ緑のくすり箱共同），主担当。

2025 年 7 月 29 日，第 48 回自然調査ゼミナール(森林班)，滋賀県中学校研究会理科部会環境教育委員会，琵琶湖博物館，講師。

2025 年 11 月 15 日，16 日，びわ博フェス，フェスとも対応・もじあつめの企画運営。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 7 月 25 日，講義「森を感じてみよう」，滋賀県立視覚障害者センター，滋賀県立視覚障害者センター。

2025 年 8 月 19 日，出席「滋賀県中学校教育研究会理科部会」，琵琶湖博物館。

2025 年 8 月 22 日，講義「里山での活動と水源かん養のつながり」，三重県立四日市農芸高等学校，琵琶湖博物館。

2025 年 12 月 25 日，講義「琵琶湖博物館に関する説明」，滋賀県立大学，琵琶湖博物館。

2026 年 2 月 6 日，講義「琵琶湖博物館における森林展示と滋賀県の森林」，滋賀県立伊香高等学校，琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

森林に関する資料の収集。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「森林の管理と獣害対策について」，1 回（3 日）。

第 32 回水族企画展示 淡水魚から見る世界の湖沼（2025 年 7 月 19 日～9 月 28 日），展示写真の提供。

第 33 回企画展示 川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—（2025 年 7 月 19 日～2025 年 11 月 24 日），展示写真の提供。

【企画調整活動】

新任職員研修，川から森へ・C 展示室（2025 年 4 月 17 日）。

【研究部関連事業】

ドローン操作研修会，企画・講師（2026 年 1 月 27 日，琵琶湖博物館）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025 年度，滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課普及指導係・主任技師を兼務。

淡水二枚貝イシガイ科は、国内 13 属 26 種のうち 13 種が環境省のレッドリストに掲載されており、保全が急務とされているが、長期的な水槽飼育や再生産手法は確立されておらず、保全の課題となっている。そこで、イシガイ科を含めた淡水二枚貝類の餌資源を脂肪酸分析により明らかにする研究を進めるほか、長期的な水槽飼育試験に挑戦した。また、脂肪酸分析に加え、安定同位体比分析を組み合わせ、琵琶湖南湖赤尾井湾の食物網解析にも取り組んでおり、赤野井湾に生息する魚介類の食う食われる関係を明らかにする研究を開始した。また、事業では、資料活用係として収蔵施設等の温湿度管理に関すること（主担当）、収蔵施設などの防虫・防ばいに関すること（主担当）、資料活用係の予算に関すること（主担当）、および燻蒸に関すること（副担当）に従事した。さらに、水族展示の担当として、水族関係予算（管理・立案）に関すること（主担当）に従事した。

＜研究部に関すること＞

研究部として廃液処理および薬品処分の主担当として、廃液および不要薬品 173 点を廃棄処理した。残り廃液および不要薬品は、来年度以降順次廃棄の手続きを進めていく予定である。

大型研究備品としてオートアナライザー QuAAtro39 (BLTEC 社) を新たに導入した。これにより、水中の窒素・リンを分析できるようになり、一般的な水質分析が可能となった。今後、琵琶湖博物館の屋外展示の生態観察池の水質分析や琵琶湖の水質分析等に活用していく予定である。

琵琶湖博物館共同研究として「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」に研究代表者として取り組んだ。毎月、屋外展示の生態観察池の水質測定および底質分析を実施して池干しによる環境改善効果を評価した。本研究の成果について四半期ごとに伊藤忠商事株式会社に報告書を提出した。

琵琶湖博物館専門研究として「滋賀県米原市のため池における希少な淡水二枚貝の保全に関する研究」に研究代表者として取り組んだ。米原市のため池は防災の観点から水を抜いた補強工事が必須となり、希少種のメンカラスガイを近隣のため池と琵琶湖博物館に移動させ、一時的に退避・飼育した。来年度以降、ため池の補強工事終了後にメンカラスガイを元の生息地に戻す予定である。その後もモニタリングを続け、メンカラスガイが再生産するか調査する。

公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団の助成支援の下、「燃焼もみ殻添加による淡水二枚貝イシガイ科の飼育餌環境改善の評価」のテーマについて、研究代表者として取り組んだ。もみ殻の重量の約 20 %はケイ素であることが知られており、燃焼させると重量の約 60 %がケイ素となる。二枚貝の適切な餌料と考えられている珪藻は、外殻がケイ素で構成されており、増殖にケイ素が必須である。そこで、イシガイ科イシガイの飼育水槽に燃焼もみ殻を添加して、飼育環境が改善できないか飼育実験を実施した。その結果、燃焼もみ殻を添加することで飼育水槽中の溶存態ケイ素濃度が増加し、懸濁物質中の珪藻由来脂肪酸であるエイコサペンタエン酸 (EPA) の含有率が増加することが明らかになった。さらに、燃焼もみ殻を添加することでイシガイ科イシガイの成長も促進された。助成期間は終了したが、長期的な飼育事例が少ないため、次年度以降も飼育実験続けていく予定である。

そのほか、脂肪酸分析や安定同位体比分析などの食餌分析の技術を活かして、滋賀県水産試験場や滋賀県東北部工業技術センター、奈良女子大学、琵琶湖博物館米田一紀特別研究員および寺井章人主任主査らとともに二枚貝、魚類および水棲昆虫の食餌分析に関する共同研究を実施した。

＜事業部に関すること＞

資料活用係の業務として 2025 年度は収蔵施設の温湿度管理業務、防虫・防ばい対策業務、および燻蒸業務を中心に従事した。新たな取り組みとして防虫・防ばい業務において、ルミノメーターを用いた清浄度検査を導入した。収蔵庫の清浄度が見える化されたことにより、清掃業務のモチベーション向上につながることが期待された。また、館内の定期的な生物環境調査では、外来の文化財害虫であるニューハクシミが滋賀県内で初めて発見された。被害拡大を防ぐために、東京文化財研究所に相談しながらベイト剤トラップの設置やニューハクシミ発見の公表など対策を進めている。燻蒸業務では、CO₂燻蒸の業務上の安全性をより確実なものにするべく、マニュアルの改訂や機器の更新業務に従事した。

水族担当の業務として世界湖沼の日制定記念 2025 年水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」（2025 年 7 月 19 日～9 月 28 日）において秋田県の研究者に協力していただき、八郎潟に生息する魚類の展示や干拓に関するパネル展示、田沢湖の酸性化に関するパネル展示を実施した。

印刷物

【一般向けの著作】

菅原巧太朗 (2026) 日曜日に知るよみがえれ日本の淡水魚真珠をつくる淡水の二枚貝. 産経新聞滋賀県版, 産経新聞出版, 2026 年 3 月 15 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 菅原巧太朗（2025 年 6 月 20 日）脂肪酸分析を用いた同化餌資源の評価。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 菅原巧太朗（2025 年 8 月 22 日）脂肪酸分析を用いた淡水二枚貝イシガイ科の野外及び飼育下における同化餌資源の比較と最適餌資源の解明。令和 7 年度河川基金研究成果発表会，TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋（東京都中央区），[口頭およびポスター発表]。
- 宮田直幸・吉川七瀬・石川慶恭・岡野邦宏・菅原巧太朗・高田芳博・石田頼子（2025 年 9 月 18 日）環境再生保全のための食害防止ネットを用いた淡水二枚貝の定着化手法の評価。第 28 回日本水環境学会シンポジウム，富山県立大学（富山県射水市），[口頭発表]。
- 菅原巧太朗（2025 年 10 月 1 日）二枚貝の飼育実験について。第 34 回生物多様性委員会魚類作業部会，名古屋港水族館（名古屋市），[口頭発表（オンライン）]。
- 菅原巧太朗・川瀬成吾・長田智生・山本義彦・山口翔吾・藤林恵（2025 年 11 月 8 日）脂肪酸バイオマーカーを用いた希少淡水魚ヨドゼゼラの餌資源解析。公益財団法人中辻創智社 10 周年記念シンポジウム，TKP ガーデンシティ 京都タワーホテル（京都市），[口頭発表]。
- 今北大介・菅原巧太朗（2026 年 3 月 18 日）来館者にとっての、いい水族館とは？～Google ロコミを用いた園館の比較評価の試み～。第 11 回水族館シンポジウム，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[ポスター発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2024 年度～2028 年度）。
- 琵琶湖博物館専門研究「滋賀県米原市のため池における希少な淡水二枚貝の保全に関する研究」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2025 年度）。
- 滋賀県水産試験場・琵琶湖博物館共同研究「脂肪酸分析を用いたセタシジミの肥満度変動要因の解明」（研究代表者：孝橋賢一[滋賀県水産試験場]），研究分担者（2025 年度）。
- 滋賀県東北部工業技術センター・琵琶湖博物館共同研究「水生生物に含まれる脂肪酸組成の解析」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2025 年度）。
- 奈良女子大学・滋賀県東北部工業技術センター・琵琶湖博物館共同研究「濾過食者シマトビケラ科の生態機能とその季節的変動の評価」（研究代表者：片野泉[奈良女子大学]），研究分担者（2025 年度）。
- 公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 萌芽的研究「燃焼もみ殻添加による淡水二枚貝イシガイ科の飼育餌環境改善の評価」（研究代表者：菅原巧太朗），研究代表者（2024 年 10 月～2025 年 9 月）。
- 公益財団法人河川財団 河川基金助成事業 一般研究者「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」（研究代表者：米田一紀[琵琶湖博物館・特別研究員]），研究協力者（2025 年度～2026 年度）。
- 公益財団法人中辻創智社 研究費助成「琵琶湖魚類生態系をささえる動物プランクトンの被食動態の調査」（研究代表者：寺井章人[琵琶湖博物館・主任主査]），研究協力者（2025 年 7 月～2026 年 3 月）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水学雑誌，査読，1 件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2025 年，奈良女子大学大学院理学部博士課程学生，脂肪酸分析の指導。
- 2025 年，奈良女子大学大学院理学部修士課程学生，脂肪酸分析の指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10 件。

- 2025 年 7 月 29 日，第 48 回 自然調査ゼミナール（貝類班），滋賀県中学校研究会理科部会環境教育委員会，琵琶湖博物館，講師。
- 2025 年 7 月 29 日，環境教育に関わる教員研修「二枚貝の生態と環境」，滋賀県中学校研究会理科部会環境教育委員会，琵琶湖博物館，講師。
- 2025 年 8 月 30 日，湖探検，琵琶湖博物館・カワセミ自然の会，長浜市湖北町延勝寺，講師。

2025 年 11 月 16 日，びわ博子ども若者研究発表交流会，琵琶湖博物館，審査員。

他の博物館・機関等の主催行事

2025 年 7 月 27 日，深谷下溜生き物ひっこしイベント，滋賀県湖北農業農村事務所田園振興課，米原市大野木，講師。

2025 年 10 月 4 日，まるっと体感八郎湖 2025，三湖伝説連絡協議会，秋田県八郎湖流域馬踏川水系支流吉田川，講師。

メディアへの協力

2025 年 12 月 22 日，TBS ラジオ「森本毅郎・スタンバイ！」，新たな文化財害虫・ニューハクシミの脅威！，
(2025 年 12 月 19 日取材対応)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵施設の温湿度管理に関すること，主担当。

収蔵施設等の防虫・防ばい対策（清掃を含む）に関すること，主担当。

資料活用係の予算に関すること，主担当。

燻蒸に関すること，副担当。

貝類標本の維持管理，主担当。

水族標本の保管，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「ふれあい体験室の二枚貝について」，1 回（4 日）。

2025 年 4 月 22 日，水族展示室「ふれあい体験室」再開，説明パネル作成。

2025 年 7 月 19 日～2025 年 9 月 28 日，世界湖沼の日制定記念 2025 年水族企画展示「淡水魚から見る世界の湖沼」，八郎潟・田沢湖担当。

【研究部関連事業】

廃液処理および薬品処分，主担当。

薬品の在庫管理，副担当。

廃液および不要薬品の廃棄，173 件。

生態観察池の環境改善（芳賀裕樹氏・鈴木隆仁氏・川瀬成吾氏・根来健氏と共同）。

第 16 回琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（大塚泰介氏・金尾滋文氏・鈴木隆仁氏・今田舜介氏と共同）。

大型研究備品「オートアナライザー QuAAtro39 (BLTEC 社)」の導入，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

NPO 法人草木谷を守る会，理事(2021 年 4 月 1 日～)。

秋田県立大学生物資源科学部，客員研究員(2022 年 4 月 1 日～)。

滋賀県南部土木事務所，木浜地区保全整備地域協議会 委員(2024 年 7 月 1 日～,)。

動物が植物の種子を運搬する「種子散布」について研究を行っており、特に種子散布を介した哺乳類・鳥類と植物の種間ネットワークの解明や、各動物種の種子散布機能の評価に取り組んでいる。また、琵琶湖とその周辺で多数が越冬するカモ科やオオバンなどの水鳥に注目し、越冬期間中の利用場所の変化について研究を行っている。

今年度は主に、科学研究費特別研究員奨励費に関連して、付着種子散布を介した動物と植物の種間関係について研究を行った。主な成果として、交通事故死した哺乳類の体表に付着した種子を採取し、付着種子散布における哺乳類と植物の種間関係を明らかにし、この内容をまとめた論文が国際誌で公開された。また、付着種子散布において散布動物の量的貢献を評価する手法として、動植物の接触頻度と付着する種子量を組み合わせた方法を提案し、第73回日本生態学会にて口頭発表を行った。琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺に飛来する鳥類による種子散布機能に関する研究」では、琵琶湖やその周辺に飛来する水鳥の種子散布機能をテーマとした研究を行った。本年度は、研究を実施する準備過程として、国内外の水鳥による種子散布や、湖沼におけるカモ科鳥類の採餌生態に関して文献収集を行った。また、予備的な調査として琵琶湖南湖東岸を踏査し、越冬期間中の水鳥各種の個体数の変動や利用場所が変化する時期を確認した。

企画・広報営業課の業務では、来館者アンケート、他館連携、年報・業績目録、博物館刊行物の在庫管理、SNS発信を担当した。来館者アンケート担当としては、8月と3月に展示室で来観者アンケートを実施した。前年度からの課題だった経年分析の方法について、滋賀県総合企画部統計課が行う個別相談会での助言や博物館学領域の学芸員の意見を反映し、次年度から運用予定のアンケートの設問票や調査方法の整備を進めた。他館連携の担当として、当館が加盟している各種団体との連絡窓口を担当し、各種会議の参加者の取りまとめや加盟団体経由の情報周知やアンケート調査に対応した。年報・業績目録の担当として、2025年度(第29版)年報と業績目録の編集と製作を行った。また要覧も、入館料の改定などを受けて内容を更新する必要性が生じたことから、要覧第13版の編集・印刷を担当した。10月からはSNS発信の担当として、当館のSNSアカウントを運用し、イベントや展示の情報、研究成果などを広報した。そのほか、日本生態学会と滋賀県が共催する第23回生態学琵琶湖賞授与式・記念講演を当館で開催するにあたり、関係団体との連絡・調整を担当した。

その他の博物館事業では、びわはくGISの副担当として、鳥類データの検索機能の改修や、びわはくGIS操作マニュアルの更新を行った。また、館内でのカイツブリの人口育雛に副担当として携わり、カイツブリやその近縁種の育雛に関する文献を収集して育雛方法の検討に協力し、3羽すべてのカイツブリを巣立ち齢まで無事に成長させることができた。

印刷物

【学術論文】

Kanon Sato, Toshiaki Shiraishi, Shimpei Sakamoto, Kenta Sawada, Yusuke Goto, Christophe Baltzinger, Shinsuke Koike (2026) Community-wide epizoochorous interactions revealed from roadkilled mammals. *Oikos*, <https://doi.org/10.1002/oik.12094>.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

佐藤華音(2025年12月19日), ロードキルを集めてわかること: 哺乳類の毛皮が運ぶ、植物のタネ, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

佐藤華音, 小池伸介(2026年3月11日) 付着量だけでは不十分: 群集レベルでの付着種子散布の量的貢献を評価する. 第73回日本生態学会大会, 京都大学吉田南構内(京都市), [口頭発表].

鳥海帆乃花, 佐藤華音, 稲垣亜希乃, 小池伸介(2026年3月13日) ヌタ場に形成される哺乳類及び鳥類群集構造に影響する環境要因の解明. 第73回日本生態学会大会, 国立京都国際会館(京都市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺に飛来する鳥類による種子散布機能に関する研究」(研究代表者: 佐藤華音), 研究代表者(2025年度).

科学研究費助成事業(特別研究員奨励費)「野生動物による付着種子散布メカニズムの解明: 散布者の有効性の評価」(研究代表者: 佐藤華音), 研究代表者(2024年度~2026年度).

乾太助記念動物科学研究助成基金「ヌタ場が持つ生物多様性の維持機構としての役割の評価」(研究代表者: 佐藤華音), 研究代表者(2024年8月~2025年8月).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 6 月 16 日，近畿大学，卒業研究のための調査助言，1 件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，9 件。

電話・クエリを通じた質問への対応，11 件。

2026 年 2 月 14 日，【わくわく探検隊】水鳥を観察しよう！，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2026 年 3 月 8 日，講座「近江」を通る鳥たち，企画展開連講座（滋賀県立安土城考古博物館），滋賀県立安土城考古博物館（近江八幡市），講師。

2026 年 3 月 14 日，かめおか自然アカデミー特別講座「鳥から知る生きものたちのつながり」，親子で行こう!! 滋賀県立琵琶湖博物館（亀岡市環境プロモーションセンター），琵琶湖博物館，講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル，びわこのちからチャンネル「少し視点を変えるだけで散歩が楽しくなる！学芸員が教える公園の歩き方！」，出演。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物標本の整備および収蔵庫の維持管理，鳥類担当。

鳥類資料の受入，14 件。

GIS データの整備とコンテンツ作成，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C 展示室，いきものコレクション「鳥類分野」の維持管理，主担当。

C 展示室，川から森への維持管理，主担当（2025 年 10 月～）。

おとなのディスカバリー 鳥類コーナー，担当。

モーニングレクチャー，講義「動物が運ぶタネ」，1 回（4 日）。

展示交流員と話そう，「カイツブリについて」内容指導，2 件。

他の博物館・機関の活動

滋賀県立安土城考古博物館，第 71 回企画展「近江一帯が織りなす物語―」（2026 年 2 月 14 日～4 月 5 日），近江物産志に描かれた鳥類に関するコメント。

【企画調整活動】

来館者アンケート調査，担当（社納典子氏と共同）。

来館者アンケート調査，実施および集計（社納典子氏と共同）（2025 年 8 月 22 日～24 日および 2026 年 3 月 27～29 日，琵琶湖博物館）。

令和 7 年度データ分析等に係る個別相談会（滋賀県総合企画部統計課），参加（2025 年 10 月 2 日，滋賀県庁（大津市））。

公益財団法人日本博物館協会 大規模災害にかかる被災博物館等の復興支援募金，募金箱の設置（2025 年 6 月 1 日～2026 年 3 月 1 日，琵琶湖博物館）。

滋賀県博物館協議会総会，出席，2025 年 6 月 26 日，滋賀県立美術館（大津市）。

第 73 回全国博物館大会「文化観光と博物館～文化の魅力を伝えるために博物館ができること～」への参加，2025 年 11 月 19～21 日，大阪中央公会堂（大阪市）。

美の魅力発信 5 館ネットワーク職員交流会，参加，2025 年 11 月 13 日，滋賀県立安土城考古博物館（近江八幡市）。

令和 7 年度第 2 回全国科学博物館協会総会・研究発表大会への参加，2025 年 2 月 17～18 日，オンライン。

琵琶湖博物館年報第 29 号，編集・製作。

琵琶湖博物館業績目録第 29 号，編集・製作。

琵琶湖博物館要覧第 13 版，編集・製作.

出版物の在庫管理，担当（社納典子氏と共同）.

第 23 回生態学琵琶湖賞授賞式・記念講演会，担当者との連絡調整，2025 年 6 月 28 日，琵琶湖博物館.

【広報営業活動】

SNS 等による情報発信，主担当 (2025 年 10 月～).

【研究部関連事業】

研究セミナー，副担当.

国内の研究機関との連携（京都大学野生動物研究センター），副担当.

博物館学研究領域長に2025年度より異動になり、早々に博物館学で総合研究の立ち上げをするよう指示があった。そこで総合研究に発展させることが可能な共同研究を構想して申請を行ったが、採択されなかった。

2025年度は、過去最多となる10本の共著論文を出版することができた。ただしこの中には、実質的に前年度あるいはそれ以前の研究成果が含まれる。また、執筆予定であった主著論文は1本も出版されず、投稿も1本だけに留まっている。珪藻植生研究では、フィリピン・ルソン島のMarikina川から得られた*Pinnularia*（ハネケイソウ）の報告を行い、13種のフィリピン新産種を明らかにした。また、田沢湖のプランクトン珪藻の植生報告にも共著者として関わり、種同定と生態情報の解釈で貢献した。さらに、琵琶湖水を供給されている滋賀県立大学環濠の珪藻植生報告に対しても、珪藻の種同定と生態情報の解釈で貢献した。珪藻の分類学研究では、汽水性珪藻*Coronia echeneis*の瀬田川からの出現報告にあたり、日本からの本種の報告がおそらくサハリンの来知志湖の標本に基づくことを、根来健一郎博士の原図（琵琶湖博物館収蔵）に基づいて明らかにした。また、新種*Epithemia fragarioides*（タイプ産地：福井県敦賀市の中池見湿地）が、これまでも琵琶湖周辺など様々な水域から様々な（誤った）同定の下に報告されてきたことを明らかにした。古環境復元分野では、滋賀県犬上郡多賀町のアケボノゾウ発掘現場（古琵琶湖層群蒲生層；180～190万年前）の化石珪藻群集に基づく古環境復元で、データ解析に関する助言と協力を行った。また東京湾岸から発掘されたナウマンゾウ浜町標本の頭蓋骨に付着していた堆積物に含まれていた珪藻の種組成を明らかにし、「死亡現場」が堆積環境が泥質干潟の上部あるいは塩生湿地であると推定した。小島隆宏氏を中心としたスズキケイソウの進化および層序学の研究にも関与し、記載文の書き方や計量形態学的な分類手法について助言を行った。珪藻以外では、外来種の接合藻類*Micrasterias hardyi*には寄生性ツボカビ類が見つからないことの解明に、琵琶湖南湖で採集したプランクトンサンプルを主著者らに定期的に送ることにより貢献した。

査読を経ない書籍や論評などの業績としては「琵琶湖博物館マイクロアクアリウムからミクロの世界へようこそ」を実質的に編集したことが特筆される。本書は京都新聞滋賀版に連載された「ミクロの世界から びわ博セクション」（2020年4月～2021年3月）と、琵琶湖博物館ウェブサイトに掲載された「ミクロの世界へ」（2021年5月～2022年4月）を加筆修正して再編集したものである。他に、琵琶湖で赤潮が発生した原因や、富栄養化が収まってもアオコが収束しない理由を考察する総説論文を出版した。また、長年にわたる農家との交流の中で、農家から学んだ在来知と農家に伝えた科学知の相互作用が生んだ「コンヴィヴィアルな関係」について論評を書いた。

2025年度末の段階で、論文の投稿中あるいは執筆段階に達している研究（共同研究を含む）に以下ものがある。①水田からのメタン発生を抑制するために行われている中干延長（主に前倒し）が生物多様性に及ぼす悪影響を緩和する方法、あるいは中干延長によらずにメタン発生を抑制する方法について考察したミニレビュー。②古琵琶湖堆積物が分布する地域に点在する湧水湿地の立地条件と水質、植生に関する報告。③外来種と考えられる珪藻*Sellaphora constricta*の出現報告、および球磨川（熊本県）個体群と堅田内湖個体群（滋賀県）の形態比較。他にも論文執筆まであと少しの研究課題がいくつかあるが、多くは大塚の分担部分がネックとなり滞っている。

吉山浩平氏（滋賀県立大学）により日本生態学会の「自然史研究振興賞」に推薦され、選考の結果、受賞した。15分間の受賞講演を行うことになったが、これまでの雑ばくな仕事を15分でまとめることは困難だった。そこで、田んぼ、湿原、干潟、湖底堆積物など泥の世界にはまりこんだ経緯を振り返って「気づけばマッド・サイエンティスト」と題する講演を行った。

担当事業として、デジタル琵琶湖博物館ウェブサイトの構築を進めた。このサイトでは2024年度に滋賀県に生息する魚類、両生類、哺乳類のそれぞれ全種を公開していたが、大塚の担当分として2025年度は新たにプランクトン図鑑を部分公開した。プランクトン図鑑の掲載種は現在88種に過ぎないが、アオコを構成するラン藻（辻彰洋氏と共同執筆；24種）および黄金藻（ほぼ全て伊藤裕之氏執筆；43種）については、これまで琵琶湖淀川水系で知られている種を網羅した。また、土器や骨格標本などの3Dモデルの公開を進めるとともに、著作権フリーの文献（「日本生物学会誌」および滋賀県水産試験場の1967年以前の出版物）、研究遺産（根来健一郎博士のプランクトン等原図、可児藤吉氏のフィールドノート、堀與曾市氏の伊吹山植物標本の写真）などの公開を進めている。さらに2026年3月末日現在、「田んぼの生きもの全種データベース」に分類階層を下りながら検索できる機能をつけるとともに、田中阿歌磨博士のスケッチブックの写真を整備し、ともに近日中に公開予定である。

中西貴子氏（会計年度任用職員）より、VHSやベータカム等の磁気テープに記録された映像が、テープの劣化や再生装置の老朽化によりまもなく再生できなくなることを指摘された。そこで委託による磁気テープ映像のデジタル化に着手した。2025年度はまず、琵琶湖の環境変化と関わる人々を長年映像として記録してきた中島省三氏の作品をデジタル化した。また中島省三氏よりインターネット公開の許諾を得たので、現在、公開準備を進めている。

博物館外の役職としては、2025 年から日本珪藻学会の会長が 2 期目に入り、相変わらず様々な問題への対処で慌ただしい日々を送っている。加えて 2026 年 1 月からは日本分類学会連合の代表に就任し、外部の様々な会議に参加することが増え、ますます慌ただしくなっている。

印刷物

【学術論文】

- Martinez-Goss, M.R., Ohtsuka, T., Arguelles, E.D.L.R., Ikeya, T., Peralta, E.M., Papa, R.D.S & Okuda, N. (2025) Annotated checklist and illustrations of *Pinnularia* species in the Marikina River, Rizal (Luzon), the Philippines. *Philippine Journal of Science*, 154(2): 427-446.
- 富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2025) 古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元. *Diatom*, 41: 1-10.
- Tuji, A., Ichise, S. Ohtsuka, T. & Negoro, T. (2025) On the sudden appearance of *Coronia echeneis* (Surirellaceae, Bacillariophyceae) in freshwater Lake Biwa. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany)*, 51(3): 97-106.
- Kagami, M., Hashizume, T., Phongsa, D., Ohtsuka, T., Seto, K. & Ban, S. (2025) Contrasting effects of chytrids on two large desmids in Lake Biwa. *Fungal Ecology*, 78: 101459.
- 高橋啓一・大塚泰介・林 竜馬・間島信男 (2025) ナウマンゾウ「浜町標本」の付着堆積物試料から得られた珪藻化石および花粉化石について. *化石研究会会誌*, 58(1/2): 11-19.
- 渡邊俊介・米屋結衣・木口 倫・渡辺 剛・大塚泰介 (2025) 田沢湖流域における表層水中の栄養塩類と珪藻組成. *Diatom*, 41: 11-22
- Hatanaka, A., Inoue, M., Izumino, H., Yoshiyama, K., Negoro, T. & Ohtsuka, T. (2025) Diatom flora in a channel fed by Lake Biwa on the campus of the University of Shiga Prefecture, Japan. *Diatom*, 41: 23-46.
- Kamakura, S., Nakaji, C., Ohtsuka, T., Nagumo, T. & Sato S. (2026) *Epithemia fragarioides* sp. nov. (Bacillariophyta): Formal recognition of a diatom widespread across Japan. *Phycological Research*, 74(1): 57-70.
- Kojima, T., Saito-Kato, M. & Ohtsuka, T. (2026) Morphological evolution of four new fossil taxa of the genus *Praestephanos* from the Upper Pliocene Ayama and Koka Formations of the Kobiwako Group in Shiga and Mie prefectures, Japan. *Diatom Research*, 41(1): 1-26.
- Kojima, T., Saito-Kato, M., Hattori, K., Ohtsuka, T. & Satoguchi, Y. (2026) Non-marine diatom biostratigraphy based on evolutionary changes of the genus *Praestephanos* in the Pliocene lacustrine deposits of the Kameyama Formation, Tokai Group, and its correlation with the Kobiwako Group, Central Japan. *Island Arc*, 35(1): e70042

【専門分野の著作】

- 大塚泰介・根来 健 (2025) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. (公財) 令和 6 年度水質保全研究助成報告書 (琵琶湖・淀川水質保全機構), p. 13. (published online)
http://www.byq.or.jp/josei/r06/accomplishment_report/1-1_report_ohtsuka.pdf#view=fitv
- 酒井明久・大塚泰介・今井一郎・児玉真史 (2025) はじめに：琵琶湖の環境と漁業生産の現状 (特集 琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化：瀬戸内海と比較して考える). *月刊海洋*, 57(6): 253-259.
- 大塚泰介・根来 健・一瀬 諭・石川可奈子・辻 彰洋 (2025) 琵琶湖のプランクトンの長期変動—なぜ富栄養化が止まっても有害藻類ブルームが発生し続けるのか？— (特集 琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化：瀬戸内海と比較して考える). *月刊海洋*, 57(6): 267-278.
- 大塚泰介 (2025) フィールドシンポジウム企画趣旨「自然共生サイト『奥びわ湖・山門水源の森』の保全活動と課題」. *地域自然史と保全*, 47(1): 3-5.
- 松岡数充・石井健一郎・大塚泰介 (編) (2025) 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」. *日本プランクトン学会報*, 72(2): 43-60.
- 大塚泰介 (2025) 珪藻の固有種と外来種—外来種の増加は人新世の現象か？ In: 松岡数充・石井健一郎・大塚泰介 (編), 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」. *日本プランクトン学会報*, 72(2): 54-55.
- 大塚泰介 (2026) 対話に基づく在来知と科学知の連携が拓く農業の持続可能性—遅れてきた田んぼ研究者のフィールドノートから—. *季刊 農業と経済*, 92(1): 65-74.

【一般向けの著作】

渡辺圭一郎・根来 健・鈴木隆仁・大塚泰介（2025）琵琶湖博物館マイクロアクアリウムからーミクロの世界によるこそー．琵琶湖の小さな生き物を観察する会（編），京都新聞出版センター，京都，140 pp.
大塚泰介（2025）有機の米づくりは何のため？．子どもの本棚（日本子どもの本研究会），54(9)：33-34.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

鎌倉史帆・中地智里・大塚泰介・佐藤晋也（2025年6月14日）淡水から得た *Epithemia* 属1種の分類学的検討．日本珪藻学会第46回大会，国立科学博物館（茨城県つくば市），[口頭発表].
畑中 顕・井上聖花・泉野央樹・吉山浩平・根来 健・大塚泰介（2025年6月14日）滋賀県立大学の水路に出現した珪藻の微細構造．日本珪藻学会第46回大会，国立科学博物館（茨城県つくば市），[口頭発表].
大塚泰介・根来 健・中村優介・鈴木隆仁（2025年6月15日）琵琶湖辺の池で大発生した *Eunotia formica* の形態学的研究．日本珪藻学会第46回大会，国立科学博物館（茨城県つくば市），[口頭発表].
近藤玲央・長田智生・大塚泰介（2025年6月26日）琵琶湖博物館におけるハッタミズ飼育の到達点と課題．第91回近畿ブロック水族館飼育係研修会．姫路市立水族館（兵庫県姫路市），[口頭発表].
小島隆宏・齋藤めぐみ・大塚泰介（2025年7月1日）三重県古琵琶湖層群および東海層群の下部鮮新統における淡水珪藻化石層序．令和7年度（2025年度）日本応用地質学会北海道支部・北海道応用地質研究会（日本応用地質学会北海道支部・物理探査学会），寒地土木研究所（札幌市豊平区）＋オンライン，[口頭発表].
大塚泰介・根来 健・一瀬 諭・石川可奈子・辻 彰洋（2025年7月18日）琵琶湖のプランクトンの長期変動ーなぜ富栄養化が止まっても有害藻類ブルームが発生し続けるのか？ー．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
小島隆宏・齋藤めぐみ・大塚泰介（2025年9月14日）三重県古琵琶湖層群および東海層群の鮮新統湖成堆積物における *Praestephanos* 属珪藻の形態学的進化と生層序．日本地質学会第132年学術大会（2025熊大本大会），熊本大学黒髪キャンパス（熊本市中央区），[口頭発表].
一瀬 諭・根来 健・大塚泰介・辻 彰洋（2025年11月16日）琵琶湖・瀬田川に出現した *Coronia echeneis* の連続調査について．日本水処理生物学会第61回大会，東洋大学川越キャンパス（埼玉県川越市），[口頭発表].
根来 健・大塚泰介・伊藤裕之（2025年11月16日）水凍結乾燥法を用いたSEM観察による琵琶湖南湖の黄金藻類．日本水処理生物学会第61回大会，東洋大学川越キャンパス（埼玉県川越市），[口頭発表].
金尾滋史・大塚泰介・鈴木隆仁（2025年12月21日）企画運営．第16回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館＋オンライン，[企画運営].
大塚泰介（2025年12月21日）問題の所在と，これまでにわかっていること（ミニシンポジウム 温暖化防止と生物多様性のトレードオフを超えて）．第16回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館＋オンライン，[口頭発表].
大塚泰介・日鷹一雅（2026年3月13日）企画運営．日本生態学会第73回大会シンポジウム「水田生態系における温室効果ガス削減と生物多様性のトレードオフを超えて」．京都大学吉田南キャンパス（京都市左京区），[企画運営].
大塚泰介（2026年3月13日）企画趣旨．日本生態学会第73回大会シンポジウム「水田生態系における温室効果ガス削減と生物多様性のトレードオフを超えて」．京都大学吉田南キャンパス（京都市左京区），[口頭発表].
大塚泰介（2026年3月14日）第3回日本生態学会自然史研究振興賞受賞講演「気づけばマッド・サイエンティスト」．日本生態学会第73回大会，国立京都国際会館（京都市左京区），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖でブルームを起こす珪藻の分類学的検討」（研究代表者：大塚泰介），研究代表者（2025年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会，会長，2023年1月～2026年12月.
日本分類学会連合，副代表，2024年1月～2026年1月.
日本分類学会連合，代表，2026年1月～2028年1月.
関西自然保護機構，運営委員，2014年3月～2026年3月.
淡海生物研究会，淡海生物，編集委員，2019年4月～.
国際環境研究協会，地球環境，特集「水田生態系の生物多様性と保全」責任編集委員，2025年5月～.
Diatom Research (International Society for Diatom Research)，査読，1件（前年度から継続）.

Diatom (日本珪藻学会), 査読, 1 件 (前年度からの継続).
なごやの生物多様性 (なごや生物多様性センター), 査読, 1 件.
地球環境 (国際環境研究協会), 査読, 6 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年度博物館実習, 展示 (ディスカバリーボックス制作助言／振り返り), 講師 (2025 年 8 月 19 日・22 日).
2025 年 9 月 18 日, 京都府立大学, 環境微生物学 (藤田裕子氏・石川可奈子氏と共同).
2022 年 10 月～2026 年 3 月, 滋賀県立大学大学院環境科学研究科院生, 研究指導・助言.

【受賞など】

感謝状 (近江八幡警察署), 2025 年 7 月 1 日, 琵琶湖バラバラ殺人事件の捜査に協力.
International Publication Award (University of the Philippines), 2026 年 1 月 13 日, 国際共同研究で 13 種のフイリピン新産 *Pinnularia* を報告した. (Milagrosa R. Martinez-Goss ほかと共同)
第 3 回日本生態学会自然史研究振興賞, 2026 年 3 月 14 日, 長年にわたり生態学の基礎となる自然史研究に貢献してきた.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 11 件.
インターネットを通じた質問への対応, 2 件.
2025 年 11 月 16 日, びわ博子ども若者研究発表交流会, コメンテーター.
はしかけグループ「たんさいぼうの会」, 担当, 随時.
はしかけグループ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」, 担当, 随時 (鈴木隆仁と共同).
はしかけグループ「琵琶湖梁山泊」, 担当代理, 随時.

他の博物館・機関等の主催行事 (地域連携を含む)

2025 年 5 月 30 日, 講義「田んぼはバイオサイエンスのフロンティア」, 摂南大学農学部応用生物科学科, 摂南大学農学部 (大阪府枚方市), 講師.
2025 年 7 月 12 日, 分科会 2「温暖化対策と生物多様性のトレードオフを超えて」, 第 7 回生物の多様性を育む農業国際会議 (小松島市生物多様性農業推進協議会), JA 東とくしま あいさい広場 (徳島県小松島市), 座長.
2025 年 7 月 12 日, 基調講演「温暖化対策と生物多様性のトレードオフを超えてー討論の元ネター」, 第 7 回生物の多様性を育む農業国際会議 (小松島市生物多様性農業推進協議会), JA 東とくしま あいさい広場 (徳島県小松島市), 講師.
2025 年 7 月 13 日, 分科会 2「温暖化対策と生物多様性のトレードオフを超えて」報告, 第 7 回生物の多様性を育む農業国際会議 (小松島市生物多様性農業推進協議会), 小松島市 サウンドハウスホール (徳島県小松島市), 報告者 (館野廣幸氏, 西田 聖氏, 中島佳子氏と共同).
2025 年 7 月 17 日, 実習「プランクトン実習」, 滋賀県立彦根東高校 GS, 琵琶湖博物館, 講師 (鈴木隆仁と共同).
2025 年 8 月 28 日, ワークショップ「田んぼと琵琶湖の関係性～生物多様性と温暖化の二面性～」, 近畿大学アカデミックシアター学生センター, 琵琶湖博物館, 講師.
2025 年 9 月 14 日, 実習「プランクトンの検鏡観察」, 自然大学 (NPO 法人自然と緑), 琵琶湖博物館, 講師, (鈴木隆仁と共同).
2025 年 9 月 27 日, 講演「ヨシ原の変遷と生物多様性～ヨシ群落とよりよい共存関係を築くために～」, おおつ市民環境塾 2025 講座 6 (おおつ環境フォーラム), 明日都浜大津 (滋賀県大津市), 講師 (土田真由氏と共同).
2025 年 10 月 29 日, 講演「気候変動対策による負の影響を最小化し、正の影響を向上させる ～自然を活用した解決策の適用～」, 田んぼ 2030 プロジェクト ミニフォーラム第 10 回 (ラムサールネットワーク日本), オンライン, 講師.
2026 年 3 月 7 日, 講演「地球温暖化とその防止対策が脅かす琵琶湖盆の生態系」, 環境研究会 第 118 回特別講演会 (公益社団法人日本技術士会 近畿本部登録 環境研究会), アーバネックス備後町ビル (大阪市中央区), 講師.

視察等への対応

- 2025 年 8 月 27 日、琵琶湖の淡水赤潮およびアオコに関する解説・太湖との比較検討、島根大学エスチュアリー研究センター、応接室。
- 2025 年 10 月 7 日、琵琶湖博物館の概要／琵琶湖の環境、石川県議会、会議室。
- 2026 年 1 月 15 日、猿沢池に発生したラン藻 *Raphidiopsis raciborskii* に関する情報提供と対策の協議、奈良県観光局奈良公園室、研究交流室。

メディアへの協力

- 2025 年 6 月 13 日、NHK 大津「しが生き物図鑑 ハッタミミズ」、制作協力（情報提供、現地案内等）。
- 2025 年 7 月 29 日、日本農業新聞「農業の生物多様性 水田は“いのちの風景”」、内容確認（2025 年 7 月 28 日）。
- 2025 年 7 月 29 日、NHK 大津「しが生き物図鑑 ケシカタビロアメンボ」、制作協力（情報提供、動画提供等）。
- 2025 年 8 月 29 日、NHK 大津「しが生き物図鑑 ウチワヤンマ」、制作協力（情報提供、現地案内等）。
- 2025 年 8 月 29 日、NHK 大津「しが生き物図鑑 アオコ（ラン藻）」、制作協力（情報提供、写真提供等）。
- 2025 年 9 月 5 日、「ふゆみずたんぼを巡る旅」（岩渕成紀著、農文協）、助言。
- 2025 年 9 月 12 日、京都新聞「滋賀県高島市の安曇川に定着確認、北米原産の外来種 釣り人を介して拡大懸念 「川に入ったら消毒して」、調査同行（2025 年 5 月 18 日）、情報提供。
- 2025 年 11 月 27 日、「社会実装するオーガニック 世界と日本の地域再生最前線リポート」（吉田太郎著、築地書館）、取材協力。
- 2025 年 12 月 11 日、毎日新聞奈良版「澄まず・濁らずの池が変色 観光名所の異変、原因突き止めた大学院生」、情報提供（発見の経緯の説明、出現した *Raphidiopsis raciborskii* の解説等）。
- 2026 年 1 月 13 日、京都新聞滋賀版「『使う人が主役』滋賀県の琵琶湖博物館が 30 年 市民の自己実現に活用『エデンのような場所』」（2025 年 12 月 13 日取材対応）。
- 2026 年 1 月 16 日、NHK 大津「しが生き物図鑑 ウログレナ（赤潮）」、制作協力（情報提供、動画提供等）。
- 2026 年 2 月 20 日、産経新聞滋賀版「琵琶湖周辺にも生育の単細胞生物『ケイソウ』新種と判明 イチゴに似た凹凸の表面が特徴」、取材対応（2026 年 2 月 8 日）。
- 2026 年 3 月 26 日、福井新聞「中池見（敦賀）ケイ藻は新種 鎌倉さん（奈良女子大研究員）ら突き止める」、情報提供（鎌倉さんに本研究を進めた経緯など）。
- 2026 年 3 月 27 日、NHK 大津「イチゴ似凹凸もつケイソウは新種 滋賀県立琵琶湖博物館など」、情報提供（内容確認・写真提供等）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 田んぼの生きもの全種データベース、管理者、随時増補更新。
- デジタルミュージアム推進事業、ポータルサイト作成（主担当）。
- デジタルミュージアム推進事業、滋賀の生きもの図鑑、両生類（主担当）。
- デジタルミュージアム推進事業、滋賀の生きもの図鑑、哺乳類（主担当；中村久美子と共同）。
- デジタルミュージアム推進事業、滋賀の生きもの図鑑、プランクトン（主担当）。
- デジタルミュージアム推進事業、田んぼの生き物全種リスト（主担当）。
- デジタルミュージアム推進事業、文献デジタル化（主担当）。
- デジタルミュージアム推進事業、研究遺産デジタル化（主担当；川瀬成吾、大槻達郎と共同）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 収蔵庫の危機管理（鍵の管理含む）、主担当。
- 収蔵庫担当者会議、主催。
- 収蔵庫環境維持管理（主担当）。
- 資料データベース、管理者（主担当）。
- 映像資料整備業務（主担当：中西貴子と共同）。
- 映像資料の貸出・特別観覧対応、19 件。
- 微小生物資料の収集、整理・監督・指示。
- ナゴヤダルマガエル、採集・飼育。
- ハッタミミズ、採集・飼育。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「田んぼへ」、維持管理（主担当）.
マイクロアクアリウム、維持管理（副担当）.
研究最前線，更新1回，2025年5月.
モーニングレクチャー，講義「マイクロアクアリウム」，1回（4日）.

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室「田んぼへ」コーナー解説（2025年4月17日）.

【広報営業活動】

研究成果に関わる資料提供，3件.

【研究部関連事業】

研究施設、備品、薬品に関すること，総括.
薬品の在庫管理，主担当.
薬品保管庫・危険物倉庫の管理運営，主担当.
特別研究員，受入担当，2名.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

30周年記念行事（ギャラリー展示），副担当（今田舜介と共同）.

【館外の活動】

島根大学エスチュアリー研究センター，協力研究員（2001年4月～）.
琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会，委員（2016年8月～）.
国立沖縄自然史博物館設立準備委員会，正会員（2026年1月～）

1. 研究に関わる活動

1) 琵琶湖の水生植物に関する研究

研究プロジェクトとしては、専門研究「琵琶湖の水生植物の分布と生態―琵琶湖北岸と南湖―」(2025年度)の中で、琵琶湖南湖のムサシモの分布を把握する作業として、これまで分布が確認されなかった西岸側の調査行い、新しい地点での生育を確認した。

2) 博物館学分野での研究

博物館学の分野では、共同研究「琵琶湖博物館の「交流の場」としての活動振り返りと評価手法の検討」の研究代表者として、琵琶湖博物館の「交流」について、特に「展示交流」と「レファレンス機能」に着目して研究を進め、研究セミナーで「展示交流」の評価方法の検討について報告した。

2. 事業に関わる活動

1) 展示運営に関すること

事業部では、展示係長として展示全般を統括する業務を担当し、展示交流員の予算が削減される中で、多くの来館者を受け入れながら、円滑な展示室運営を心掛けた。また、2025年度の春のギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史〜コケに魅入られた人びとの系譜〜」の主担当として開催に関わり、コケの観察会2回および講演会1回を実施した。

2) 橋本忠太郎のさく葉標本のデジタル化(写真撮影)

西日本自然史系ネットワークが文化庁の助成金で進めている Innovate MUSEUM 事業の一環として、2024年度に引き続き、歴史的な標本として橋本忠太郎のさく葉標本の撮影を行い、2026年の公開に向けて準備を進めた。

3) 人吉城歴史館(人吉市)前原勘次郎標本レスキュー

2020年7月の熊本で浸水被害にあった植物標本について、レスキューのため受け入れ、クリーニングおよび乾燥作業中である。植物標本整備の貴重な経験になることのほか、資料論の重要なトピックである。

4) 『滋賀県植物誌』改訂に向けての準備

1968年に発行された『滋賀県植物誌』は、その後改訂されることがないまま現在にいたる。琵琶湖博物館の植物部門としては、この改訂版を作ることは大きな目標である。コレクションの充実を図り、標本に紐付けされた植物誌をつくること。そのプロセスは博物館学研究のテーマになる。準備として、県内の大型コレクションの受入手続きをそれぞれ進めながら、まずは収蔵資料として利用可能な状態にすることを目指している。

印刷物

【一般向けの著作】

芦谷美奈子(2025)水草研究会第46回全国集会(草津)を振り返って. 水草研究会誌(水草研究会), 117:67-71.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

戸田 孝・芦谷美奈子・金尾滋史(2025年7月6日)博物館評価に必要な活動記録の保持. 全日本博物館学会第51回研究大会(全日本博物館学会), 國學院大學(東京都渋谷区), [口頭発表].

芦谷美奈子(2025年10月17日)琵琶湖博物館の「展示交流」の評価の試み〜展示交流の記録の活用と今後の展望〜. 研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

芦谷美奈子(2026年2月21日)琵琶湖南湖のムサシモ分布. 総会(滋賀県植物研究会), 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖博物館の「交流の場」としての活動振り返りと評価手法の検討」, 研究代表者(2025年度のみ).

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖の水生植物の分布と生態―琵琶湖北岸と南湖―」, 研究代表者(2025年度のみ).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会, 委員, 2024年6月〜2027年5月.

滋賀県植物研究会，幹事，2010 年 4 月～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 6 月 21 日，桃山学院大学見学実習，講義・収蔵庫案内.

2025 年度博物館実習，講義「博物館の展示 意義・制作・評価」，講義，琵琶湖博物館（2025 年 8 月 19 日）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11 件.

インターネットを通じた質問への対応，4 件.

2025 年 4 月 5 日，みんなでタンポポを調べよう（タンポポ調査説明会），琵琶湖博物館，主担当.

2025 年 4 月 12 日，みんなでタンポポを調べよう（タンポポ調査説明会），琵琶湖博物館，主担当.

2025 年 4 月 27 日，コケ植物観察会，琵琶湖博物館，主担当，（滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会・大槻達郎と共同）.

2025 年 5 月 18 日，講演会「水が育てる滋賀県のコケ」，主担当，（滋賀県生きもの総合調査委員会・蘚苔類部会，大槻達郎と共同）.

2025 年 6 月 1 日，コケ植物観察会，琵琶湖博物館，主担当，（滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会・大槻達郎と共同）.

2025 年 8 月 2 日，ヨシ灯りをつくろう，琵琶湖博物館館，副担当，（西の湖ヨシ灯り展実行委員会・中村久美子と共同）.

2025 年 8 月 30 日，湖探検！琵琶湖に入って生き物をさがそう，長浜市湖北町海老江・延勝寺湖岸，主担当，（カワセミ自然の会・湖北野鳥センター・鈴木隆仁・菅原巧太朗と共同）.

2025 年 11 月 2 日，ヨシの子ども松明をつくってみよう，琵琶湖博物館，主担当，（文化遺産としての松明を次世代に贈る会と共同）.

2025 年 4 月 19 日，タンポポ観察会（フィールドレポーター），知内川（高島市マキノ町），講師.

2025 年 9 月 13 日，わくたん「光とかげで写真をとろう～水の中の植物編～」（はしかけ「びわたん」），琵琶湖博物館館，講師.

2025 年 11 月 8 日，森のたからものをさがそう！，ディスカバリールームイベント．琵琶湖博物館，担当.

はしかけグループ「植物観察の会」，担当.

はしかけグループ「内湖を知ろう会」，担当.

フィールドレポーター「タンポポ調査」，担当.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 6 月 7 日，講演「西の湖の今を知る」，令和 7 年度勉強会「西の湖の今を知る」（西の湖プロジェクト），ラ・コリーナ近江八幡（滋賀県近江八幡市），講師.

2025 年 10 月 21 日，講演「西の湖の魅力」，西の湖観察と勉強会（近江八幡市議会、西の湖保全・活用議連）、西の湖すてーしょん（滋賀県近江八幡市），講師.

視察等への対応

2026 年 2 月 7 日，「ヨシなどの地域資源の活用と自然環境保全の取り組みについて」，北海道美唄市，琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2025 年 5 月 20 日，京都新聞「コケ植物から何が分かる？滋賀県の琵琶湖博物館で初の企画展「近江の牧野富太郎」研究ノートも」，ギャラリー展示の説明，（2025 年 4 月 30 日取材対応）.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本コレクション管理，主担当.

植物収蔵庫，副担当.

植物標本，標本受入担当，3 件.

植物標本，特別観覧対応，2 件.

植物標本，人吉城歴史館（人吉市）前原勘次郎標本レスキュー，受入担当.

植物標本，イノベートミュージアム事業橋本忠太郎標本写真撮影，担当．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示事務の総括に関すること，主担当．

展示空間・危機管理，主担当．

展示空間・ユニバーサルデザイン，副担当．

中長期計画・中長期計画の推進，主担当．

その他・予算に関すること，副担当．

ギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人びとの系譜～」(2025年4月26日～6月8日)，主担当．

モーニングレクチャー，講義「展示交流について」，1回(4日)．

他の博物館・機関の活動

福井市自然史博物館，第94回特別展「花のひみつ 美に隠された戦略」(2026年3月20日～5月31日)，水生植物の標本採取および写真撮影同行．

岐阜県教育委員会，世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふの博物館登録にかかる審査，有識者審査員．

【企画調整活動】

新任職員研修，講義「博物館の展示」講師，琵琶湖博物館(2025年4月18日)．

JICA「2024 博物館とコミュニティ開発」コース(国立民族学博物館)，受入担当・講師・オーガナイザー，琵琶湖博物館(2025年11月26日～29日)．

【研究部関連事業】

展示による研究成果発信に関すること，主担当．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県木浜地区保全整備地域協議会，委員(2000年4月～)．

滋賀県 琵琶湖湖南地域ヨシ群落自然再生協議会，アドバイザー(2015年6月～)．

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所，琵琶湖沿岸域環境調査，アドバイザー(2016年1月～)．

大津市科学館運営協議会，委員(2020年4月～)．

国立民族学博物館 国際研修博物館学コース「博物館とコミュニティ開発」運営委員会，専門委員(2021年4月～2026年3月)．

タンポポ調査・西日本実行委員会，「タンポポ調査・西日本2025」滋賀県実行委員会，代表(2023年11月～2026年3月)．

主たる研究テーマである琵琶湖周辺域の水田利用魚類の生態に関しては、特に繁殖期にあたる5月～6月を中心に琵琶湖湖岸域の水田地帯における魚類の産卵状況に関する調査を行った。また、これまで蓄積した調査データを活用し、滋賀県が推進する「魚のゆりかご水田プロジェクト」について、その実施プロセスの意義および価値を評価する報文を出版した。このほか、滋賀県内の中山間地域水田地帯に出現する魚類相に関しては、ホトケドジョウの分布調査や生物相のモニタリングを本格的に開始した。加えて、県内各地の水田地帯において淡水貝類、両生類、水生昆虫類の分布調査を継続に実施しており、特にヌマガエルについては、急激な分布拡大の現状を時系列的に把握することができた。また、水生昆虫においてもこれまで記録の乏しかった種に関する新たな情報を得ることができた。これらの結果の一部については論文および報文で公表したほか、学会や研究会において発表を行った。

日本産希少淡水魚の保全に関する研究では、特にハリヨの県内各生息域において交雑個体的人為的移植や生息地における工事の影響により、個体群存続の大きな危機が迫った。これに対し、現場で関係機関や地域の関係者と連携し、緊急的な保全対策を講じた結果、絶滅そのものは回避することができた。一方で、生息域ごとに減少要因が異なることから、引き続き慎重な対応が求められる状況にある。そのような中で、河川環境における生息地拡大を目指した研究成果については論文が出版され、今後、この研究を活用した実践的な保全施策の展開が期待される。また、地域や企業の皆さんと実施している生息域外保全活動では、アメリカザリガニの定期的な駆除や生息地の改善を実施し、系統保存に取り組んできた。今後も課題解決に向けた検討と実践を継続する予定である。

このほか、県内外の生物相に関する研究として、琵琶湖・淀川水系に流入しない河川の魚類相について報文を出版し、滋賀県の魚類リストにオオヨシノボリを追加する提唱を行った。また、伊吹山山頂部における陸産貝類のモニタリング調査や、南西諸島における淡水貝類に関する研究についても報文や発表を行った。さらに、これまで蓄積したデータと、最新の知見を活用し、滋賀県レッドデータブックの改訂作業に関わり、2025年版において淡水魚類、淡水貝類、陸産貝類の各種の執筆を担当するとともに、陸産貝類では全体の取りまとめを担当した。

博物館学研究領域に関する研究では、科学研究費助成事業（基盤 C）「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」の研究代表者として、国内の自然史系博物館におけるレファレンス事例の収集、関係者へのインタビュー調査および文献調査を実施した。また、当館に寄せられた質問についても引き続き分析を行ったほか、質問を起点とした自然史情報の発見事例として、色彩変異個体のアオダイショウや、県内での分布情報が乏しい生物の新たな生息情報など、重要な成果を得ることができた。これらの研究成果については、学会や研究会で発表を行ったほか、一部については論文として公表した。今後も、博物館の評価軸の一つとして、レファレンス機能の有効性を位置付けることを目指し、調査研究を継続する予定である。

環境学習・交流係においては、「はしかけ制度」の担当として、はしかけ活動に関する事務および運営管理を共同で行った。多様な参加者やグループが存在する中で、グループに属さない参加者も含めた横断的な交流の可能性について検討を行ったが、これについては具現化することができず、今後の課題となった。また、博物館が実施するイベントの担当に加え、7月からは生活実験工房における田んぼ体験の担当として運営に携わった。さらに、地域の博物館、関連施設、団体からの依頼を受け、観察会や講演会に講師として参加するとともに、研究の一環として、継続的な観察会を通じた地域の生物相モニタリングの効果についてもデータ収集を行った。

水族担当としては、各メンバーの業務をサポートしつつ、展示等で活用する写真の整理やパネルの作成を行ったほか、昨年からの水族トピック展示の継続や今年度の新たなトピック展示を企画・実施を担当した。また、開館時間外での設備トラブルへの緊急的な対応を複数回行った。トラブルの要因を推定し、その対応を行う必要があることから、今後の参考になるよう、その際の初動対応について記録を残す作業を行った。

このほか、館内業務に関わるものとして、クラウドファンディングのリターン企画としてのバックヤードツアーの実施、特技を生かした博物館オリジナル御朱印「御博印」の筆耕、特別感謝状への写真提供等を行った。また、ナイトミュージアムでの対応や、プレミアムナイトツアーにおける参加者への船内レクチャー、公式 YouTube チャンネルにおいて館内フォトスポットの紹介と撮影テクニックに関する情報発信を行った。さらに近年増加している生物多様性保全を目的とした企業活動に関する相談対応にも携わり、研究の知見を活かした助言を行うなど、多岐にわたる活動を実施した。

印刷物

【学術論文】

- 泉野珠穂・金尾滋史・瀧健太郎 (2025) 滋賀県犬上川中下流部における熱赤外面像及び二次元不定流解析を用いた湧水性希少魚種のハビタット保全計画の検討. *河川技術論文集*, 31 : 49-54.
- Kubo, S., Kanao, S., Tsuchida, K. and Urabe, M. (2025) New record of the cercariae of liver fluke (*Opisthorchis* sp.) (Digenea: Opisthorchiidae) from *Gabbia kiusiuensis* (S. Hirase, 1927) (Caenogastropoda: Bithyniidae) in Shiga Prefecture, Japan. *Veterinary Research Communications*, 49, article number 311. <https://doi.org/10.1007/s11259-025-10873-y>.
- 金尾滋史 (2026) 森や自然に「夢中になる」誘いとしての博物館の役割. *森林環境* 2026, 104-113.

【専門分野の著作】

- 金尾滋史・宮崎捷世 (2025) 滋賀県高島市マキノ町におけるクチキコオロギの採集記録. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 222 : 19.
- 金尾滋史 (2025) 滋賀県野洲市におけるコガタガムシの採集記録. *滋賀むしの会会報 Came 虫*, 222 : 27.
- 金尾滋史 (2026) 滋賀県内における日本海流入河川北川水系の魚類相. *淡水生物*, 7 : 1-5.
- 金尾滋史 (2026) 滋賀県「魚のゆりかご水田プロジェクト」による地域社会のレジリエンス向上機能の再構築するプロセスがもたらす価値. *農業と経済*, 91(2) : 93-96.
- 金尾滋史 (2026) 沖縄市安慶田雨水調整池内の水路で確認されたオキナワドブシジミ. *沖縄市立郷土博物館紀要あやみや*, 34 : 27-31.
- 今田舜介・金尾滋史 (2026) 南大東島におけるパークホソカタムシの記録. *さやばねニューシリーズ* (日本甲虫学会), 61 : 36-37.
- 金尾滋史 (2026) オオガタスジシマドジョウ, ハリヨなど9種. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, pp. 593-618.
- 金尾滋史 (2026) オグラヌマガイ, カタハガイなど10種. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, pp. 621-643.
- 金尾滋史・澤田直人 (2026) ドブシジミ, ビワコドブシジミ, マメシジミ類, カワムラマメシジミ. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, pp. 625-643.
- 金尾滋史・中井克樹 (2026) イワトコタニシ. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, p. 627.
- 中井克樹・金尾滋史 (2026) オオタニシ, マルタニシ, ナガタニシ. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, pp. 628-633.
- 金尾滋史 (2026) 陸産貝類の概要. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, p. 646.
- 金尾滋史・中井克樹・大谷ジャーマンウィリアム・石田未基・宮井卓人・早瀬善正・岩田明久 (2026) カナマルマイマイ, ヤコビマイマイなど39種. In: 滋賀県生きものの総合調査委員会 編, *滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2025—*, サンライズ出版, 彦根, pp. 647-669.

【一般向けの著作】

- 金尾滋史 (2025) 琵琶湖の魚たち 滋賀が分布の西限 キタスナヤツメ. *産経新聞*, 2025年4月13日.
- 金尾滋史 (2025) 琵琶湖の魚たち 滋賀にもいた オオヨシノボリ. *産経新聞*, 2025年6月15日.
- 金尾滋史 (2026) よみがえれ!!日本の淡水魚 絶滅の危機に瀕するハリヨ. *産経新聞*, 2026年1月18日.
- 金尾滋史 (2026) よみがえれ!!日本の淡水魚 ハリヨの生息域外保全と連携. *産経新聞*, 2026年2月15日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 泉野珠穂・金尾滋史・瀧健太郎（2025 年 6 月 20 日）滋賀県犬上川中下流部における熱赤外面像及び二次元不定流解析を用いた湧水性希少魚種のハビタット保全計画の検討. 2025 年度河川技術シンポジウム（公益社団法人土木学会水工学委員会河川部会），土木会館（東京都新宿区），[口頭発表]．
- 金尾滋史（2025 年 7 月 6 日）博物館のレファレンス機能を評価するために必要な情報とは？. 全日本博物館学会第 52 回研究大会，國學院大學渋谷キャンパス（東京都渋谷区），[ポスター発表]．
- 戸田孝・芦谷美奈子・金尾滋史（2025 年 7 月 6 日）博物館評価に必要な活動記録の保持. 全日本博物館学会第 52 回研究大会，國學院大學渋谷キャンパス（東京都渋谷区），[口頭発表]．
- 瀧健太郎・上田杏樹・泉野珠穂・金尾滋史（2025 年 9 月 11 日）滋賀県犬上川中下流部における湧水性希少魚のハビタット保全計画の検討. 応用生態工学会第 28 回新潟大会，新潟大学（新潟市），[ポスター発表]．
- 金尾滋史（2025 年 10 月 5 日）滋賀県におけるホトケドジョウの分布と生息地の現状. 第 81 回魚類自然史研究会，大阪工業大学大宮キャンパス（大阪市），[口頭発表]．
- 金尾滋史（2025 年 11 月 21 日）滋賀県内の水田地帯におけるカエル類の分布と近年の変化. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 金尾滋史（2025 年 11 月 29 日）琵琶湖博物館はしかけ制度の紹介. 友の会サミット 2025（大阪市立自然史博物館），大阪市立自然史博物館（大阪市），[口頭発表]．
- 金尾滋史（2025 年 12 月 2 日）パネルディスカッション「水を巡る地域教育」. 水都大垣水循環フォーラム 2025，大垣市情報工房(岐阜県)，[パネリスト]．
- 金尾滋史（2025 年 12 月 21 日）滋賀県内の水田地帯におけるヌマガエルの急激な分布拡大. 第 16 回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 金尾滋史・大塚泰介・鈴木隆仁（2025 年 12 月 21 日）第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館，[企画運営]．
- 金尾滋史（2026 年 1 月 24 日）滋賀県におけるタウナギの定着と今後の拡大防止にむけて. 第 21 回外来魚情報交換会，キラリエ草津（滋賀県草津市），[口頭発表]．
- 金尾滋史（2026 年 1 月 29 日）博物館への質問がきっかけとなる利用者の成長プロセス. 第 66 回日本動物園水族館教育研究会いわき大会，アクアマリンふくしま（福島県いわき市），[口頭発表]．
- 金尾滋史・岡部光太（2026 年 1 月 29 日）その気づき、研究にしてみませんか？～日々の取り組みが発表・論文に繋がる時～. 第 66 回日本動物園水族館教育研究会いわき大会自由集会，アクアマリンふくしま（福島県いわき市），[口頭発表・企画者]．
- 金尾滋史（2026 年 1 月 29 日）第 66 回日本動物園水族館教育研究会いわき大会，アクアマリンふくしま（福島県いわき市），[企画運営・座長]．
- 金尾滋史（2026 年 2 月 14 日）伊吹山山頂部の植生変化に伴う陸産貝類の減少. 関西自然保護機構シンポジウム「花の百名山伊吹山草原の多様性回復をめざして—研究者、市民、行政との連携—」，琵琶湖博物館，[口頭発表・パネリスト]．
- 金尾滋史（2026 年 2 月 22 日）滋賀県内における絶滅危惧種ハリヨの現状と生息域内・生息域外保全の取り組み. 第 7 回動物園水族館大学シンポジウム「動物園・水族館が拓く未来の保全—生息域内外をつなぐ新たな挑戦」，琵琶湖博物館，[ポスター発表]．
- 金尾滋史（2026 年 3 月 13 日）中干し時期の変化により想定される水田利用生物への影響. 日本生態学会第 73 回全国大会シンポジウム S18 水田生態系における温室効果ガス削減と生物多様性のトレードオフを超えて. 京都大学吉田キャンパス（京都市），[口頭発表]．
- 金尾滋史（2026 年 3 月 22 日）滋賀県内における琵琶湖・淀川水系非流入河川の魚類相. 第 82 回魚類自然史研究会，敦賀北公民館（福井県敦賀市），[口頭発表]．
- 金尾滋史（2026 年 3 月 22 日）滋賀県内における絶滅危惧種ハリヨの現状と生息域内・生息域外保全の取り組み. 第 82 回魚類自然史研究会，敦賀北公民館（福井県敦賀市），[ポスター発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態」（研究代表者：金尾滋史），研究代表者（2025 年度）．
琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖博物館の「交流の場」としての活動振り返りと評価手法の検討」（研究代表者：芦谷美奈子），研究副代表者（2025 年度）．
科学研究費助成事業（基盤 C）「自然史系博物館におけるレファレンス機能の分析と新たな価値の創出に関する研究」（研究代表者：金尾滋史），研究代表者（2023～2025 年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会，自然保護委員会希少淡水魚問題検討部会，委員，2019 年 1 月～．
日本貝類学会，研究連絡誌「ちりぼたん」，編集委員，2013 年 3 月～．
農業農村工学会，農村生態工学研究部会，代表幹事，2005 年 10 月～．
日本動物園水族館教育研究会，運営委員，2014 年 12 月～．
日本動物園水族館教育研究会，日本動物園水族館教育研究会誌，編集長，2014 年 12 月～．
魚類自然史研究会，幹事，2017 年 11 月～．
淡海生物研究会，淡海生物，編集委員，2019 年 9 月～．
日本陸水学会，陸水学雑誌，査読，1 件．
日本貝類学会，研究連絡誌「ちりぼたん」，校閲，1 件．
淡海生物研究会，淡海生物，校閲，1 件．
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会ハリヨ種別調整者．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 8 月 28 日，龍谷大学社会学部「びわ湖・滋賀学」，龍谷大学瀬田キャンパス．
2025 年 11 月 28 日，龍谷大学農学部「食の循環実習 I」，琵琶湖博物館．
2025 年 12 月 12 日，龍谷大学農学部「食の循環実習 I」，琵琶湖博物館．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12 件．
はしかけ制度事務局，担当
はしかけ登録講座（オンライン・対面），担当，4 回．
はしかけ運営「温故写新」，担当，活動 6 回．
はしかけ運営「サロン de 湖流」，担当，活動 1 回．
生活実験工房田んぼ体験，担当，活動 3 回．
2025 年 7 月 4 日，水辺の生き物観察会，湖北野鳥センター，主担当．
電話・質問コーナー窓口・メールによる質問への対応，301 件．

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 4 月 10 日，新入社員研修（日立建機ティエラ），琵琶湖博物館，講師．
2025 年 5 月 20 日，外来生物など環境について（武庫川女子大学附属中学校），琵琶湖博物館，講師．
2025 年 6 月 22 日，須原魚のゆりかご水田観察会（せせらぎの郷須原），須原蓮池の里公園（滋賀県野洲市），講師．
2025 年 7 月 13 日，第 2 回町民大学 多賀の川の生き物を知る（多賀町教育委員会），多賀町大岡・多賀町立博物館（滋賀県多賀町），講師．
2025 年 7 月 21 日，かつべ水フェスタ 水辺の生き物観察会（勝部自治会），守山市生涯学習・教育支援センター（滋賀県守山市），講師．

2025 年 8 月 5 日，犬上川の生きもの観察会（快適環境づくりをすすめる会），犬上川（滋賀県彦根市），講師。
2025 年 8 月 27 日，農政水産部インターンシップ研修（大津南部農業農村振興事務局），琵琶湖博物館，講師。
2025 年 12 月 6 日，「魚のゆりかご水田」現地視察ツアー（滋賀県農村振興課），琵琶湖博物館，講師。
2025 年 11 月 1 日，下物ビオトープ観察会（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課），下物ビオトープ（滋賀県草津市），講師。
2024 年 11 月 27 日，JICA「博物館とコミュニティ開発」コース（国立民俗博物館），琵琶湖博物館，講師。
2025 年 12 月 10 日，総合的な探求の時間もりきた学（滋賀県立守山北高校），もりやまエコパーク交流拠点施設（滋賀県守山市），講師。

メディアへの協力

2025 年 4 月 7 日，琉球新報「国内外来魚、比謝川定着 専門家「生息域広げないで」」，取材対応・写真提供，（2025 年 4 月 4 日取材）。
2025 年 4 月 8 日，朝日新聞滋賀版「スナヤツメ 新種の仲間も」，取材対応・コメント，（2025 年 4 月 2 日取材）。
2025 年 4 月 17 日，朝日新聞京都版「新種スナヤツメと仲間展示」，取材対応・コメント，（2024 年 4 月 2 日取材）。
2025 年 6 月 8 日，京都新聞滋賀版「安曇川に珍客現る！ヤナに体長 1 メートル超オオサンショウウオ」，取材対応・コメント，（2025 年 6 月 7 日取材）。
2025 年 6 月 10 日，読売新聞滋賀版「迷える？神の使い 聾話学校敷地で保護」，取材対応・コメント，（2025 年 6 月 7 日取材）。
2025 年 6 月 28 日，読売新聞滋賀版「田んぼに魚 見つけた！親子ら 130 人観察会」，取材対応・コメント，（2025 年 6 月 22 日取材）。
2025 年 7 月 15 日，朝日新聞「多事奏論 輸入に頼るウナギ 食べ継いで文化を守るには」，取材対応・コメント，（2025 年 6 月 18 日取材）。
2025 年 7 月 20 日，朝日新聞「人の生活に不可欠な存在 水田という人間がつくった湿地」，取材対応・コメント，（2025 年 6 月 5 日取材）。
2025 年 7 月 29 日，京都新聞「「神の使い」!?白ヘビ 栗東・県立聾話学校で自動が発見」，取材対応・コメント，（2025 年 6 月 12 日取材）。
2025 年 9 月 25 日，京都新聞「「シロマダラ」現る 黒と白の模様のヘビ」，取材対応・コメント，（2025 年 9 月 24 日取材）。
2026 年 2 月 16 日，KBS 京都「勇さんのびわ湖バイタル研究所」，出演・取材対応，（2024 年 1 月 15 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル，びわこのちからチャンネル「学芸員が教える 琵琶湖博物館いちおしフォトスポット」，出演（2026 年 3 月 28 日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類標本維持管理，担当。
両生類標本維持管理，担当。
爬虫類標本維持管理，担当。
水族資料収集，担当。
水族資料維持管理，担当。
魚類資料収集，200 件。
淡水貝類資料収集，300 件。
陸産貝類資料収集，200 件。
昆虫資料収集，200 件。
両生類資料収集，5 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理，担当.

水族展示，川魚屋魚滋，いろいろな湖魚料理，担当.

企画展示，「世界の湖沼」（2025 年 7 月 20 日～11 月 24 日），五大湖の魚類、ティティカカ湖の魚類，担当.

水族トピック展示，新種記載されたスナヤツメの仲間（2025 年 2 月 11 日～4 月 27 日），主担当.

水族トピック展示，とある飼育員の飼育日誌～ビワマスの仔魚が泳ぎ出すまで～（2026 年 1 月 10 日～3 月 8 日），副担当.

モーニングレクチャー，講義「フィールドでの魚つかみ体験とその意義」，1 回（4 日）.

展示交流員と話そう，テーマ：オオサンショウウオ（内容指導など），2 件.

展示交流員と話そう，テーマ：身近なカタツムリ（内容指導など），1 件.

他の博物館・機関の活動

沖縄市立郷土博物館，第 46 回企画展「暮らしをかこむ植物『屋敷林』」（2026 年 1 月 30 日～3 月 22 日），写真提供（レンゲ）.

滋賀県立安土城考古博物館，第 71 回企画展「近江 道が織りなす物語」（2026 年 2 月 14 日～4 月 5 日），『近江物産誌』に掲載された生物の同定.

【広報営業活動】

大阪・関西万博『滋賀魅力体験ウィーク～Discover Shiga, Go Lake Biwa～』（2026 年 8 月 29 日）ブース出展，大阪市此花区夢洲，担当.

ナイトミュージアム（2026 年 3 月 8 日）水族展示室，担当

プレミアムナイトツアー（2026 年 3 月 20 日）船内でのレクチャー、水族展示室の解説，担当.

企業の生物多様性保全活動、環境学習活動などに関する相談対応，11 件.

【研究部関連事業】

免税アルコールに関すること，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会，委員（2006 年 8 月～）.

環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員（2010 年 7 月～）.

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県希少野生動植物調査監視指導員（2010 年 4 月～）.

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク，標本救済ネット，ケースワーカー（2012 年 2 月～）.

農林水産省近畿農政局，二次的自然環境における生物多様性保全検討調査，有識者（2019 年 4 月～）.

守山市環境政策課，守山市環境審議会，委員（2022 年 11 月～）.

学校と博物館との連携、すなわち博学連携の一層の充実に向け、一昨年より事業と研究を行った。

事業では、学校がより当館を利用しやすく、子どもたちの学びの質の向上を目指し、次の3つに取り組んだ。

1つは、「琵琶湖と子どもの出会いを創る びわ博ガイドブック (教員向け)」の作成である。学校教員が校外学習で琵琶湖博物館を利用する際の指導計画立案時に役立てたり、教員自らに当博物館をより楽しみつ、琵琶湖や「湖と人間」の関係について主体的に考え、学んだりすることを目的とした。2つ目に、来館学校の子どもたちが、琵琶湖やその周辺の自然や環境、それらと関わりあう人や社会、生活などへの興味・関心を高めるとともに、実際のフィールドへ行き、「見て」、「感じて」、「気づいた」ことと、博物館やこれまでに獲得した知識を結びつけて自ら学びを深めていききっかけになることを目指した「びわ博ディスカバリーシート」を作成した。3つ目は、学校教員の研修会の再検討である。主催団体である総合教育センターやびわ湖フローティングスクールの担当者と協議を重ね、従来に比べ学校教育の中での博物館を利用する意義や環境教育の観点と博物館活動を関連させた内容を取り入れて実施した。

研究では、ヨシ原の保全をテーマに、学校での地域学習や環境学習、もしくは博物館の体験学習で利用できる視覚教材の開発とその評価を行った。西の湖のヨシ原における生態系への役割、文化財、環境、産業、歴史、景観などの様々な要素を取り入れた教材を作成した。その中でも、ドローンで撮影した動画や静止画の部分を用いた際の効果を、2つの学校を対象に検証した。成果としては、開発した教材は、「空間的な広がり」や「時間的な変化」を疑似体験する中でヨシ原の魅力を感じられるツールとして、一定の有効性が示唆された。

印刷物

【専門分野の著作】

桑原康一 (編) (2026) 琵琶湖と子どもの出会いを創る びわ博ガイドブック (教員向け), 琵琶湖博物館, 96 pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

桑原康一・林竜馬・妹尾 裕介 (2025 年 8 月 23 日) ヨシ原の空間的、時間的把握の支援となる視覚教材の開発。
日本理科教育学会第 75 回富山大会, 富山大学五福キャンパス (富山市), [口頭発表]。

桑原康一・林竜馬 (2026 年 3 月 20 日) ドローンを活用した西の湖周辺のヨシ原の視覚教材開発と評価。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究, 「ドローンを活用した西の湖周辺のヨシ原の視覚教材開発と評価」(研究代表者: 桑原康一), 研究代表者 (2025 年度)。

琵琶湖博物館共同研究, 「ドローンを活用した琵琶湖生態系モニタリングー植生・河川・土地利用の時空間変動解析ー」(研究代表者: 奥田岬), 共同研究者 (2023 年度~2025 年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本理科教育学会, 評議員 (近畿支部), 2025 年 7 月 1 日~2027 年 6 月 30 日。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 5 件。

はしかけ運営「びわたん」, 担当。

2025 年 5 月・6 月・7 月・12 月・2026 年 1 月・2 月・3 月, 「春の草花でしおりをつくろう!」「プランクトンを見よう!」「骨にふてみよう!」「日光で写真を撮ろう!ー水草アートー」「葉っぱのランタンを作ろう!」「綿に触れてみよう!」「水鳥を観察しよう!」「岩石標本をつくろう!」7 講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検

隊」事業，企画運営，5 件，（はしかけグループ「びわたん」「森人」「ほねほねクラブ」「近江はたおり探検隊」「大津の岩石調査隊」と共催・渡邊俊洋と共同）。

他の博物館・機関等の主催行事

2025 年 4 月～2026 年 3 月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，（渡邊俊洋と共同）。

2025 年 10 月 14 日，学習会への協力，「大人と子どもで学ぶ地域課題 第 1 弾 ～みんなで学ぼう『ツキノワグマ』について～」(栗東市立金勝小学校)，栗東市立金勝小学校（滋賀県），コーディネート。

2025 年 8 月 1 日，令和 7 年度森林環境学習「やまのこ」事業第 2 回専任指導員・地域サポーター研修会（滋賀県琵琶湖環境部びわ湖材流通推進課），琵琶湖博物館，講師。

2025 年 8 月 1 日，びわ湖学習講義 プランクトン観察実習，フローティングスクール参加教員，琵琶湖博物館，講師，（渡邊俊洋と共同）。

2025 年 9 月 16・18 日，琵琶湖博物館を活用した学習の在り方（実習），初任者研修〔特別支援学校〕（滋賀県総合教育センター），琵琶湖博物館，講師，2 件，（渡邊俊洋と共同）。

2025 年 11 月 4, 6, 11, 13 日，琵琶湖博物館を活用した学習の在り方（実習），初任者研修〔小学校〕（滋賀県総合教育センター），琵琶湖博物館，講師，4 件，（渡邊俊洋と共同）。

視察等への対応

2025 年 7 月 4 日，視察対応，茨城県 県民生活環境部，琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2025 年 4 月～2026 年 3 月，学校等標本貸出事業，担当，10 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「博物館での充実した学びを目指した取り組み」，1 回（4 日）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025 年 12 月，子どもエコクラブ絵日記・壁新聞コンクール審査，審査員。

水生動物学の学芸員であり獣医師として、2025 年度はカヤネズミやカイツブリ、ヤマトサンショウウオなどの展示生物の維持管理と保全や繁殖に力を入れる一年となった。

主な研究として、これまで継続的に行ってきたカヤネズミの歯の齢査定法の検討についてまとめ、ポスター発表を行った。また、今年度は当館で初めてカイツブリの人工孵化育雛を行い、大いなる技術向上を行うことができた。こちらに関して、研究会で成果をまとめ発表を行った。バイカルアザランの血液正常値に関する研究も継続的に行っている。さらに、今年度は、企業と連携してヤマトサンショウウオの生息域外保全と生息域内保全をつなぐ事業も開始することができ、当館では初めてとなるヤマトサンショウウオの繁殖にも成功した。今後の展開につなげていきたい。一方で、飼育しているナガレヒキガエルが高齢化してきており、治療頻度が上がり、治療方法の検討も必要となってきた。他施設の獣医師と連携しながら、効果的な治療方法についても研究を行っていく方針である。

水族を担当する学芸員の一人として、水族展示室内の水槽工事対応、ふれあい体験室の再開作業、タッチング事業の試行、平和堂財団支援によるふれあい体験ワークショップの企画・運営も行った。

また、兼務する業務では、展示係の常設展示維持管理担当として日々展示室の故障や安全管理などの確認と調整に努めた。展示室内におけるウェブ発信については、各展示室の担当者の意向を受け、来館者がより利用しやすいweb 情報、展示室利用ができるよう閲覧資料を作成し展示室に設置した。昨年度実施したクラウドファンディング第2 弾の返礼業務が一年を通して行われ、連絡調整業務に加え、返礼対応や返礼品製作なども行った。

めまぐるしい一年であったが、地域の方々、来館者の方々、支援者の方々からの温かい応援のお言葉をいただく機会も多く、大変充実した一年であった。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

松岡由子（2025 年 6 月 26 日）口頭発表演題 1-4 の進行．近畿ブロック第 50 回水族館飼育係研修会（公益社団法人日本動物園水族館協会），姫路市立水族館（兵庫県），[座長]．

松岡由子・中村久美子・馬場理香・米山明男・三島弘幸・高橋啓一(2025 年 11 月 13 日)放射光を用いたカヤネズミの歯の構造解析．第 20 回バイオミネラルイノベーションワークショップ，東京大学柏キャンパス大気海洋研究所(千葉県柏市)，[ポスター発表]．

松岡由子（2025 年 11 月 21 日）カイツブリの人工育雛に見られた成長過程．第 50 回海獣技術者研究会（公益社団法人 日本動物園水族館協会），日本の宿 のと楽・のとじま臨海公園水族館（石川県七尾市），[口頭発表]．

松岡由子（2026 年 2 月 20 日）カイツブリの人工育雛における成長解析．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

中村久美子・松岡由子(2026 年 3 月 15 日)滋賀県南部の開発予定地におけるカヤネズミ保全の可能性．第 73 回日本生態学会大会，国立京都国際会館（京都市），[ポスター発表]．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野生動物医学会，学術・教育委員会委員，2022～2025 年度．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年度博物館実習，展示係ディスカバリーボックスを作ろう，講評・琵琶湖博物館（2025 年 8 月 19 日）．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「飼育生物治療における治療効果の検証」（研究代表者：松岡由子），研究代表者（2025 年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11 件．

クエリの質問対応, 8 件.
はしかけグループ「ほねほねくらぶ」, 副担当.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 5 月 20 日, 講義「琵琶湖・河川の環境保全学習」, 校外学習（大津市葛川中学校）, 琵琶湖博物館, 講師.
2025 年 8 月 9 日, 世界湖沼の日とバイカルアザラシについて, NEXT BIWAKO CREATORS フィールドワーク（滋賀県環境政策課）, 講師.
2025 年 10 月 2 日, 職業講話「水生動物の獣医師」, キャリア教育事業（おうみ未来塾「仕事人と語ろう」グループ）, 東近江市立湖東中学校（滋賀県）, 講師.

メディアへの協力

2025 年 5 月 2 日, 中日新聞（滋賀版）, 水族トピック展示「里山のヨウセイ ヤマトサンショウウオの幼生」コメント・情報提供.
2025 年 5 月 2 日, びわ湖放送, 水族トピック展示「里山のヨウセイ ヤマトサンショウウオの幼生」コメント・情報提供.
2025 年 8 月 27 日, しがトコ「琵琶湖にアザラシ?!『琵琶湖博物館』で学ぶ“古代湖”の魅力とは」, コメント・情報提供（2025 年 8 月 9 日取材対応）.
2025 年 10 月 29 日, 読売新聞社, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 10 月 30 日, 京都新聞社, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 10 月 30 日, 朝日新聞社, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 11 月 4 日, 中日新聞社, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 11 月 4 日, びわ湖放送, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 11 月 6 日, 毎日新聞社, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 11 月 19 日, NHK 大津放送局, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2025 年 11 月 27 日, ZTV 滋賀放送局, カイツブリ幼鳥について, コメント・情報提供.
2026 年 3 月 6 日, 朝日新聞（滋賀版）, 水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」コメント・情報提供.
2026 年 3 月 10 日, 産経新聞（滋賀版）, 水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」コメント・情報提供.
2026 年 3 月 13 日, ZTV 滋賀放送局, 水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」コメント・情報提供.
2026 年 3 月 19 日, 中日新聞（滋賀版）, 水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」コメント・情報提供.
2026 年 3 月 24 日, びわ湖大津経済新聞, 水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」コメント・情報提供.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル「クラウドファンディング第 2 弾返礼品特別感謝状（水鳥とカヤネズミの足跡）」, 限定配信動画制作.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物標本の整備および収蔵庫の維持管理に関すること, 副担当.
陸域の生体資料の収集, 飼育および飼育環境の維持管理等に関すること, 副担当.
水族展示事業, 展示の維持管理に関すること, 主担当.
水族展示事業, 水族展示再構築に関すること, 副担当.
水族飼育業務, 哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類に関すること, 主担当.
水族飼育業務, 魚類等の病気や水質維持に関すること, 副担当.
水族他館との連携, (公社) 日本動物園水族館協会および他園館との連携・事務に関すること, 副担当.
水族広報・CF, 水族展示再構築に向けての広報・CF, 副担当.
水族展示担当学芸員の勤務調整業務, 12 回.
C 展示室, 陸域生体（カヤネズミ・イシガメ・クサガメ・ミナミイシガメ・スッポン・コイ）の管理（飼育、繁殖）.
生物の健康管理, バイカルアザラシの健康診断, カイツブリ育雛, ナガレヒキガエル治療等, 30 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示（屋外展示を含む）の維持管理（契約、修理）に関すること，主担当．

ウェブ等を用いた情報発信に関すること，主担当．

ユニバーサルデザイン（音声ガイドを含む）に関すること，副担当．

展示交流員に関すること，副担当．

ディスカバリールームに関すること，副担当．

C展示室，カヤネズミ・カメ類，展示更新，随時．

水族展示室，展示維持管理，随時．

水族展示室，水辺の鳥水槽，カイツブリ幼鳥3羽収容，2025年10月．

C展示室 研究スタジアム 学芸員紹介，展示更新，2026年1月．

水族トピック展示「びわ博生まれ ヤマトサンショウウオの幼体」（2026年3月10日～6月28日予定），企画担当．

モーニングレクチャー，ふれあい体験室での体験ワークショップについて，1回（4日）．

展示交流員と話そう，ヤマトサンショウウオについて・内容指導．

【企画調整活動】

新任職員研修，生き物コレクション・C展示室，水鳥水槽・古代湖の世界・水族展示室（2025年4月17日）．

生き物ふれあい体験ワークショップオープニングセレモニー，会場設営・テープカット補助（2026年1月10日，水族展示ふれあい体験室）．

【広報営業活動】

クラウドファンディングに関すること，副担当．

クラウドファンディング第1弾，水族関連ツアー調整・対応，2件．

クラウドファンディング第2弾，水族関連ツアー等体験調整・対応，30件．

クラウドファンディング第2弾，返礼品対応，23件．

SNS 発信，記事作成，4件．

資料提供，記事作成，3件．

【研究部関連事業】

国内の研究機関との連携に関すること，京都大学野生動物研究センター主担当．

2025年度 第7回動物園水族館大学「動物園・水族館が拓く未来の保全 生息域内外をつなぐ新たな挑戦」（京都大学野生動物研究センター主催），共催運営担当，2026年2月22日-23日，滋賀県立琵琶湖博物館．

科学研究費助成事業若手研究「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」（平成31年度～令和8年度）において、幼児対象の野外活動（通称ちこあそ）を毎月第3水曜日に実施し、幼児の博物館体験における学びの効果を検証している。令和5年度、博物館体験を自宅で振り返ることで学びを深めるためのツールとして、ちこあそ活動絵本「おいでよ！ちこあそ はくぶつかんのもりで」を発行した。幼児の学びを深めるための絵本製作に対して平和堂財団からご賛同をいただき、令和7年度に寄附をいただいた。その結果、第2弾のちこあそ活動絵本「おいでよ！ちこあそ はくぶつかんのたんぼのいちねん」を製作した。絵本はちこあその参加者および県内の図書館等に配布する予定である。からすま半島におけるカヤネズミ保全においては、ドローン撮影による草地面積の変遷を追い、あわせて営巣調査も実施した。その成果については日本生態学会および琵琶湖博物館研究セミナーにて発表した。

博物館事業では、博物館実習および視察研修受け入れ、移動博物館、SNS 及び YouTube の業務等を行った。移動博物館では、新規展示キットとして、「琵琶湖固有種の魚」をテーマにビワコオオナマズのプラスティネーションとビワマスの実物大重量布模型を製作した。YouTube では、外部委託で新規8本を含む、合計19本の動画を公開した。

交流事業およびはしかけ活動では、ちこあそで計11回観察会を実施した。資料活用では、哺乳類資料および陸域生体（カヤネズミ）の飼育業務を担当し、繁殖計画を組みながら管理した。

印刷物

【一般向けの著作】

中村久美子(2026)人知れず人の近くで生きるカヤネズミ. 湖国と文化, 194: 60-61.

中村久美子(編) (2026) おいでよ！ちこあそ はくぶつかんのたんぼのいちねん. 琵琶湖博物館, pp. 27.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

中村久美子(編) (2023) おいでよ！ちこあそ はくぶつかんのもりで. 琵琶湖博物館, pp. 18.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

池田勝・中村久美子 (2025年11月3日) 博物館の森は親子が学び育つ場 琵琶湖博物館ちこあその紹介. 森のようちえん全国交流フォーラム, 青森大学(青森市), [口頭発表].

松岡由子・中村久美子・馬場理香・米山明男・三島弘幸・高橋啓一(2025年11月13日)放射光を用いたカヤネズミの歯の構造解析. 第20回バイオミネラリゼーションワークショップ, 東京大学柏キャンパス大気海洋研究所(千葉県柏市), [ポスター発表].

中村久美子・松岡由子(2026年3月15日)滋賀県南部の開発予定地におけるカヤネズミ保全の可能性. 第73回日本生態学会大会, 京都国際会館(京都市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業若手研究「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する指標」(研究代表者: 中村久美子), 研究代表者(平成31年度～令和8年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年度博物館実習, 主担当として運営, 琵琶湖博物館(2025年8月18日～22日).

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2025年4月16日, 5月21日, 6月18日, 7月16日, 9月17日, 10月15日, 11月19日, 12月17日, 2026年1月21日, 2月18日, 3月18日, ちっちゃな子どもの自然あそび, 琵琶湖博物館, 運営, 11件.

2025 年 8 月 2 日, ヨシ灯りをつくろう, 琵琶湖博物館, 運営.
2025 年 11 月 15 日, ちこあそ びわフェス特別版, 琵琶湖博物館, 運営.
2026 年 2 月 7 日, ナイトミュージアム特別企画! ヨシ灯りをつくろう①, 琵琶湖博物館, 運営.
2026 年 2 月 21 日, ナイトミュージアム特別企画! ヨシ灯りをつくろう②, 琵琶湖博物館, 運営.
質問コーナー・フロアトーク, 10 件.
はしかけ「ちこあそ」, 運営補助, 12 件.

他の博物館・機関等の主催行事

2025 年 10 月 25 日, 「カヤネズミになって天神川を歩こう!」(TANAKAMI こども環境クラブ), 田上市民公園(滋賀県大津市), 講師.
2026 年 1 月 17 日, 「琵琶湖と共生する暮らし〜環境保全とヨシの役割〜」(コクヨマーケティング株式会社), 琵琶湖博物館, 講師.
2026 年 1 月 24 日, 「カヤネズミの巣を探そう」(守山エコパーク), 守山地球市民の森 森づくりセンター(滋賀県守山市), 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル, びわこのちからチャンネル「地図から土地の歴史を知る! 江戸・明治期の古地図で、川と森の景観の変化を調査!」, 撮影.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

哺乳類(乾燥標本、骨格標本、その他)標本の管理(収集、受け入れ、貸出等).
陸域生体(カヤネズミ)の飼育管理(飼育、繁殖、譲渡等).
哺乳類標本データベースの管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義「カヤネズミ」, 1 回(4 日).
C 展示室 カヤネズミ, 展示更新, 随時.
C 展示室 生き物コレクション 哺乳類コーナーおよび外来種コーナー, 展示更新, 2026 年 3 月.
C 展示室 研究スタジアム 学芸員紹介, 展示更新, 2026 年 1 月.
C 展示室 生き物コレクションコーナー担当. ヨシ原へ入ってみようコーナー副担当.
おとなのディスカバリー 哺乳類コーナー担当.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

視察対応, 講義, 5 件.
視察対応, 調整, 7 件.
博物館見学実習, 調整, 2 件.
YouTube 動画制作委託 8 本および動画編集・公開, 4 件.
SNS 発信, 94 回.
移動博物館, 出展, イナズマロックフェス 2025(滋賀県草津市), 2025 年 9 月 20 日.
移動博物館, 出展, こほくキッズミュージアム(滋賀県米原市), 2025 年 10 月 11 日.
移動博物館新規キット製作(琵琶湖固有種の魚)1 セット.
未就学児向け「ちこあそ」活動絵本の製作, 1 件.
広報委託業務定例会議, 出席, オンライン, 5 回.

【研究部関連事業】

J-stage 公開作業, 2 件.

博物館体験学習「外来魚解剖体験」から見てきたこと

滋賀県立琵琶湖博物館では来館される学校に向けて希望があれば、外来魚解剖体験を行っている。博物館で外来魚解剖体験を行っているところは数少なく、効果を実証した例もほとんどない。近年、外来魚に対する関心がニュースや動画サイトなどで高まっている。2025 年度に外来魚解剖体験を行った生徒へのアンケート結果から滋賀県外の外来魚問題を抱える地域の博物館で外来魚解剖体験を活用できるかの可能性を探ることを目的に研究を行った。

アンケートを実施したのは、滋賀県では中学校 1 年生（1 校）・中学校 2 年生（1 校）・高校 1 年生（2～3 校）・高校 2 年生（1 校）、岐阜県では中学校 1 年生（1 校）、京都府では中学校 2 年生（1 校）、奈良県では中学校 2 年生（1 校）、兵庫県では中学校 1 年生～3 年生（1 校）、福井県では高校 1 年生（1 校）である。

【地域別】（岐阜県、京都府、滋賀県、奈良県、福井県、兵庫県）

外来魚解剖体験をする前に外来魚問題について知っているかの問いに対して、地域によって似た傾向、違った傾向が見られたが、詳しく知っているとの答えはとても低かった。外来魚解剖体験を学べたかについての問いでは、地域に関わらず、とても学べた・学べたと答えた割合が多かった。

【学年別】（中学 1 年生、中学 2 年生、高校 1 年生）

外来魚解剖体験で学べたかの問いでは高校 1 年生が中学 1 年生、中学 2 年生に比べて、とても学べたと答えた割合が多く、また外来魚解剖体験前後で外来魚問題のイメージが変わったかの問いでも高校 1 年生がとても変わったと答えた割合が中学 1 年生、中学 2 年生に比べて多かった。

【同一学年地域別】（中学 1 年生 岐阜県・滋賀県 中学 2 年生 京都府・滋賀県・奈良県
高校 1 年生 滋賀県・福井県）

外来魚解剖体験で学べたかの問いでは、中学 1 年生での岐阜県・滋賀県と高校 1 年生での滋賀県・福井県をみると、とても学べたと答えた割合が多く、同じような傾向を示した。

【同一地域学年別】（滋賀県 中学 1 年生・中学 2 年生・高校 1 年生）

外来魚解剖体験前に外来魚解剖についてどれだけ知っていましたかの問いに対して、詳しく知っていたと答えた割合は少なかった。外来魚解剖体験で学べたかについての問いはどの学年もとても学べた・学べたと答えた割合が多かった。とても学べたと答えた割合は高校 1 年生が一番多くなっていた。

これらの結果から外来魚解剖体験は滋賀県外の外来魚問題を抱える地域の博物館で行っても効果があることが示唆された。学年による違いから中学生よりも高校生の段階で外来魚解剖体験したほうが、より効果があることが分かった。また、外来魚の講義と解剖の結びつきが弱く、事前に学校で煮干しなどの解剖をしたうえで外来魚解剖体験をうける必要や外来魚解剖体験の中で外来魚の講義と解剖を結び付ける工夫の必要である。滋賀県での学年別で見た結果、琵琶湖学習において外来魚学習の必要性が見られる結果になった。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

渡邊俊洋（2026 年 1 月 25 日）博物館体験学習「外来魚解剖体験」から見てきたこと、第 21 回「外来魚情報交換会」、琵琶湖を戻す会、キラリエ草津（草津市立市民総合交流センター）、[口頭発表]。

渡邊俊洋（2026 年 3 月 20 日）博物館体験学習「外来魚解剖体験」から見てきたこと、琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館体験学習「外来魚解剖体験」から見てきたこと」、(2025 年度)。

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク、4件。

はしかけ運営「びわたん」、担当。

2025年5月、6月、7月、9月、12月、2026年1月、2月、3月、「春の草花でしおりをつくろう！」「プランクトンを見よう！」「骨にふてみよう！」「日光で写真を撮ろう～水草アート～」「葉っぱのランタンをつくろう！」「綿に触れてみよう！」「水鳥を観察しよう！」「岩石標本箱をつくろう！」8講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、琵琶湖博物館、企画運営、5件、（はしかけグループ「びわたん」「森人」「ほねほねクラブ」「近江はたおり探検隊」「大津の岩石調査隊」と共催・桑原康一と共同）。

自然調査ゼミナール、担当。

2025年7月29日、「植物・昆虫班」「プランクトン班」「貝類班」「森林班」「湖岸と環境班」「魚類」に分かれて、学芸員・滋賀県中学校教諭・滋賀県内中学生と琵琶湖博物館周辺の自然を調査して結果をまとめて発表した。（学芸員 大槻達郎氏、鈴木隆仁氏、菅原巧太郎氏、環境学習・交流係 奥田岬氏、桑原康一氏と滋賀県内中学校教諭と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2025年4月～2026年3月、学校団体向け体験学習、県内県外小中高等特別支援学校、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師（桑原康一氏と共同）。

2025年6月12日、琵琶湖の概要と展示室・プランクトン観察実習、滋賀県中学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2025年6月23日、琵琶湖の概要と展示室説明、高島市立湖西中学校2年生、高島市立湖西中学校(滋賀県)、講師。

2025年7月4日、琵琶湖の概要と展示室紹介・水との関わり、奈良市立一条高等学校附属中学校2年生、奈良市立一条高等学校附属中学校、講師。

2025年7月31日、環境教育に関わる琵琶湖博物館の利用方法やMLGsに関する展示内容などの紹介、しが環境教育研究会協議会、琵琶湖博物館、講師。

2025年8月1日、プランクトン観察実習、フローティングスクール参加教員、琵琶湖博物館、講師（桑原康一氏と共同）。

2025年8月1日、シジミストラップづくり実習、学童育成クラブフレンズ、琵琶湖博物館、講師。

2025年8月2日、シジミストラップづくり実習、北大萱町子ども会、琵琶湖博物館、講師。

2025年8月5日、ヨシ笛づくり実習、久御山町事業環境部産業・環境政策課環境企画係、琵琶湖博物館、講師

2025年8月6日、琵琶湖の概要・水との関わり、大阪よどがわ市民生活協同組合、琵琶湖博物館、講師。

2025年8月19日、滋賀県内中学校環境教育に役立つ琵琶湖博物館の体験学習について、滋賀県中学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2025年9月6日、シジミストラップづくり実習、わくわく子どもクラブ自然観察会、琵琶湖博物館、講師。

2025年9月16日～9月18日、琵琶湖博物館を活用した学習の在り方（実習）、滋賀県総合教育センター、初任者研修（特別支援学校）、琵琶湖博物館、講師、2件、（桑原康一氏と共同）。

2025年11月4日～13日、琵琶湖博物館を活用した学習の在り方（実習）、滋賀県総合教育センター、初任者研修（小学校）、琵琶湖博物館、講師、4件、（桑原康一氏と共同）。

2025年11月29日、ヨシ笛づくり実習、自治労滋賀県職員労働組合、琵琶湖博物館、講師。

2026年1月7日、ヨシ笛づくり実習、大津市保育協議会保育士・保育教諭部会、琵琶湖博物館、講師。

2026年3月11日、立命館守山中学校1年発展型琵琶湖学習発表会「SHIGA2050 活性化プロジェクト校長ピッチ」、立命館守山中学校1年生、立命館守山中学校(滋賀県守山市)、審査員。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2025 年 4 月～2026 年 3 月，学校等標本貸出事業，担当，10 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，1 回(4 日).

ゾウムシを中心とした植食性昆虫の多様性と進化、ゾウムシの寄主利用の解明、滋賀県の昆虫相の解明とその成り立ちの3つに興味を持って研究を進めている。昨年度は研究を進められない状況に陥ったが、今年度は研究と事業を上手く両立させることができた。研究に関しては申請専門研究「滋賀県立膳所高等学校由来の昆虫乾燥標本の価値付け」およびサブテーマ「ゾウムシを中心とした陸上昆虫の分類、分布、生態に関する研究」を進めた。

申請専門研究に関して、学校標本分野のテーマとして、過去に当館に移管された滋賀県立膳所高等学校由来の昆虫乾燥標本の価値付けのため、標本となった昆虫と標本を作製した人々の双方について調査を行った。昆虫乾燥標本約1,700点は、1939年から1987年までの間に滋賀県大津市を中心とした日本国内各地で収集されたものであると判明し、現在の絶滅危惧種も含まれていた。1946～1949年、1955～1957年のものが約半数を占めた。これらは部活動（膳所高校（＝大津高校、大津東高校）生物班）によって収集されたものであると推測された。雑誌「新昆蟲」（北隆館）や「観察」（志賀むしの会）において発表された報文の証拠標本が含まれることが判明した。また、「新昆蟲」において、滋賀県の昆虫同好会として大津高校（＝膳所高校）生物班が志賀むしの会と並んで紹介され、当時は大津地方の甲虫相のリスト作成を目的に活動し、部誌「生物界」を発行していたことも判明した。これまで滋賀県では、現在の彦根東高校出身者をルーツとする志賀むしの会（1948～1963）による蝶類の研究が話題の中心となってきたが、同時代に大津において甲虫を研究した人々の存在が再発見された。2025年の日本昆虫学会第85回大会（神奈川県）で予報的な発表を行ったほか、2026年の日本昆虫学会第86回大会（滋賀県）でも関連した発表を行う予定である。

サブテーマに関して、分類学的変更に関する学術論文3編を出版することができ、日本産ヒゲナガゾウムシ科において4種の新参シノニムを認め、学名を整理した。また、寄主利用に関する学術論文も3編出版することができた。日本最小級のゾウムシであるツブヒゲナガゾウムシの学名を変更し、ビロウが寄主植物だと突き止めたのが一番の成果である。その他、目録3編を執筆し、年度内に出版または受理の状態にすることができた。

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会が中心となって、2018年の公開以来となる滋賀県昆虫目録の改訂作業を行い、2025年4月30日に、独自のインターネットホームページに公開することができた。滋賀県の昆虫相を理解する上で礎となる資料であり、琵琶湖集水域たる滋賀県の自然環境への理解の一助となると考えている。2026年3月には執筆に携わった『滋賀県で大切にすべき生き物ー滋賀県レッドデータブック 2025年版ー』が出版された。

事業部の業務として、今年度から環境学習・交流係に配属された。質問コーナー、フロアトークの運営、queryに関することを担当し、学芸員への質問・お問い合わせのホームページを更新するなどした。当館への質問がきっかけとなり、アメリカアカヘリタマムシが69年ぶりに滋賀県で発見された（小野えりか（2025）滋賀県彦根市でアメリカアカヘリタマムシを採集. 月刊むし, (655): 44.）。2025年7月に滋賀県で特定外来生物クビアカツヤカミキリが初めて発見されたことを受けて、トピック展示「特定外来生物クビアカツヤカミキリ 滋賀県で初確認」を緊急開催し、来館者への周知に努めた。生物多様性びわ湖ネットワークが主催のトピック展示「琵琶湖博物館30周年記念 生物多様性びわ湖ネットワーク トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！～」を担当した。生物多様性びわ湖ネットワークが執筆した『琵琶湖博物館ブックレット⑩ トンボと企業と生物多様性』が出版されたことを受け、展示期間中の2026年2月7日に記念セレモニーを行った。また、タイプ標本を含む奈良一氏のカミキリムシ標本や、妹尾俊男氏のヒゲナガゾウムシ標本の寄贈を受け入れ、琵琶湖博物館の甲虫コレクションの増強に努めた。

研究部の業務として、研究最前線、外部研究者の受入を担当した。

印刷物

【学術論文】

- Imada, S. (2025) *Araeocerus ogasawarae*, a forgotten available name of the Japanese Anthribidae (Coleoptera). *Elytra, New Series*, 15: 135-138.
- Imada, S. & R. Nakamura (2025) New host plant record of *Mauia subnotata* (Boheman) (Coleoptera: Anthribidae). *Elytra, New Series*, 15: 139-142.
- Imada, S. (2025) The type specimens of the genera *Choragus* Kirby and *Melanopsacus* Jordan (Coleoptera: Anthribidae) described by the Japanese authors: towards a revision of the tribe Choragini from Japan, Part 1. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 31: 140-147 [オープンアクセス].
- Imada, S. (2025) New locality, new host plant record, and new synonym of *Cisanthribus* Zimmerman (Coleoptera: Anthribidae) from East Asia. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 31: 148-151 [オープンアクセス].

今田舜介・細川浩司 (2025) ミツギリゾウムシ属 2 種の食樹記録. *さやばねニューシリーズ*, (60): 61-62.
外村俊輔・今田舜介 (2026) 徳島県立博物館所蔵石田正明コレクションのヒゲナガゾウムシ科に関する報告. *徳島県立博物館研究報告*, (36): 83-87 [オープンアクセス].

【専門分野の著作】

瑠寺 裕・今田舜介 (2025) 伊豆諸島八丈島におけるクロケシタマムシの新分布記録. *さやばねニューシリーズ*, (58): 11-12.
今田舜介・完山雄大 (2025) 四国初記録となる徳島県産チビクボソヒゲナガゾウムシの採集例. *さやばねニューシリーズ*, (58): 35.
今田舜介・嶋本習介 (2025) 式根島におけるキノコヒゲナガゾウムシ基亜種の採集例. *さやばねニューシリーズ*, (58): 49.
今田舜介 (2025) 滋賀県におけるクロホシタマクモゾウムシの採集例. *月刊むし*, (654): 60-61.
今田舜介 (2025) ヤマトヒメメダカカッコウムシ. *Came 虫*, (221): 8.
今田舜介 (2025) 滋賀県ゾウムシ類の若干の記録. *Came 虫*, (221): 10-11.
今田舜介 (2025) ベニカミキリ. *Came 虫*, (221): 13.
今田舜介 (2025) 江本健一コレクションのハナモグリゾウムシ属の記録. *さやばねニューシリーズ*, (59): 50.
今田舜介 (2025) 滋賀県草津市におけるクロケシタマムシの記録. *Came 虫*, (222): 15.
善野秀樹・今田舜介 (2025) アカマダラハナムグリ. *Came 虫*, (222): 15.
今田舜介 (2025) 奄美大島におけるナラマメヒゲナガゾウムシの採集例. *さやばねニューシリーズ*, (60): 42.
今田舜介・上原友太郎 (2025) 津堅島におけるイトヒゲナガゾウムシの採集例. *さやばねニューシリーズ*, (60): 62.
今田舜介 (2026) かつての珍品ナガフトヒゲナガゾウムシの分布拡大の現状. *KORASANA*, (106): 17-27.
今田舜介 (2026) 伊吹山におけるゾウムシ上科の文献記録. *KORASANA*, (106): 28-32.
渡部晃平・福富宏和・今田舜介 (2026) 石川県のヒゲナガゾウムシ科. *ホシザキグリーン財団研究報告*, (29): 227-243.
今田舜介・屋宜禎央 (2026) 対馬におけるシリジロヒゲナガゾウムシの記録. *さやばねニューシリーズ*, (61): 19.
今田舜介・金尾滋史 (2026) 南大東島におけるパークホソカタムシの記録. *さやばねニューシリーズ*, (61): 36-37.
今田舜介 (2026) 伊豆諸島八丈島におけるセスジクビボソハムシの採集例. *さやばねニューシリーズ*, (61): 47.
今田舜介 (2026) トカラ列島におけるヒゲナガゾウムシ科 2 種の新産地. *さやばねニューシリーズ*, (61): 48.
今田舜介 (2026) ビロードアシナガオトシブミ; カギアシゾウムシ属; ヤマトクチブトサルゾウムシ; ギンスジゾウムシ; イチハシシギゾウムシ. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編) *滋賀県で大切にすべき生き物ー滋賀県レッドデータブック 2025 年版ー*. 滋賀県自然環境保全課, 696 pp.

【一般向けの著作】

今田舜介 (2025) 琵琶湖センス・オブ・ワンダー (17) 世界に 7 万種超、多様性の王様ゾウムシ. *湖国と文化*, (191): 60-61.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

今田舜介・中西康介・牛島稔広・八尋克郎 (2025 年 6 月 20 日) 滋賀県昆虫目録の更新と滋賀県の昆虫相解明における展望. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
今田舜介 (2025 年 9 月 13 日) 日本国内最古のミツモンヒゲナガゾウムシの標本とその由来. 日本昆虫学会第 85 回大会, 東京農業大学厚木キャンパス (神奈川県厚木市), [口頭発表].
今田舜介 (2025 年 12 月 21 日) 口頭発表の座長. 第 15 回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [座長].

【インターネットページでの公表】

滋賀県昆虫目録作成グループ (事務局: 今田舜介・中西康介・牛島稔広) (2025 年 4 月 30 日) 滋賀県昆虫目録 2025. URL: <https://sites.google.com/view/shigainsect/>.
Imada, S. (2026 年 3 月 30 日) Taxonomical and nomenclatural changes in the family Anthribidae (2004-2025). URL: <https://sites.google.com/view/anthribidae2025>.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「滋賀県立膳所高等学校由来の昆虫乾燥標本の価値付け」（研究代表者：今田舜介），研究代表者（2025年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ゾウムシ情報ネットワーク，幹事（編集担当），2024年6月～。

日本昆虫学会第86回大会，大会運営委員会，2025年9月～。

Elytra, New Series, 査読, 2件。

Japanese Journal of Systematic Entomology, 査読, 1件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10件。

電話・インターネットを通じた質問への対応，72件。

はしかけ運営「虫架け」，担当。

交流イベントの計画，進行管理，副担当。

地域連携の運営，講師の依頼と調整，副担当。

質問コーナー，フロアトークの運営，query に関すること，主担当。

フィールドレポーター制度の運営および活性化に関すること，副担当。

環境学習に関する講師の登録の手続き・名簿管理に関すること，主担当。

2025年6月22日，里山の夏を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，講師。

2025年7月26日，びわ博 夜の生き物観察，琵琶湖博物館，講師（鈴木隆仁氏らと共同）。

2025年8月22日，query および質問コーナーの概要説明，博物館実習。

2025年11月15～16日，びわ博フェス2025，運営。

2025年12月7日，淡海こどもエコクラブ「活動交流会」，運営。

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025年6月21、23日，田んぼの生きもの調査，ラ・コリーナ（滋賀県近江八幡市），講師（鈴木隆仁氏と共同）。

2026年2月21日，滋賀県植物研究会講演会「ゾウムシの寄主植物の解明に向けて」，琵琶湖博物館，講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本データベース，維持管理。

WEB図鑑「里山のゴミムシ図鑑」，維持管理。

学芸員個人ページ，更新。

学芸員への質問・お問い合わせページ，更新。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物収蔵庫維持管理，主担当。

昆虫乾燥標本の収集・整理。

昆虫乾燥標本寄贈受入れ，4件。

昆虫乾燥標本特別観覧，3件。

他の博物館・機関等の活動

滋賀県立安土城考古博物館，第71回企画展「近江一道が織りなす物語―」（2026年2月14日～4月5日），近江物産誌に描かれた昆虫類の同定，1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室，生きものコレクション，主担当（2023年10月～2025年12月）。

C展示室，昆虫乾燥標本，展示更新，随時。

研究最前線，展示更新，随時.

C展示室，研究スタジアム，展示（2025年1月～2025年12月）.

アトリウム展示「特定外来生物クビアカツヤカミキリ 滋賀県で初確認」（2025年8月8日～10月3日），担当.

アトリウム展示「琵琶湖博物館 30 周年記念 生物多様性びわ湖ネットワーク トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを
救え！～」，（2026年2月3日～3月1日），展示担当.

モーニングレクチャー，滋賀県昆虫目録（2025年版）に見る滋賀県の昆虫，1件（4回）.

展示交流員と話そう，赤とんぼに関する内容指導，1件.

展示交流員と話そう，アサギマダラに関する内容指導，1件.

展示交流員と話そう，メガネサナエに関する内容指導，1件.

展示交流員と話そう，チョウ類に関する内容指導，1件.

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室生きものコレクション，2025年4月17日.

大阪・関西万博，移動博物館，2025年8月30日.

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025，移動博物館，2025年10月27日.

【広報営業活動】

資料提供「トピック展示「琵琶湖博物館 30 周年記念 生物多様性びわ湖ネットワーク トンボ 100 大作戦～滋賀の
トンボを救え！～」を開催します」，2026年1月27日.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（八尋克郎氏），受入担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，委員（2023年4月～）.

滋賀県昆虫目録作成グループ，事務局（2024年3月～）.

河川水辺の国勢調査「河川版・ダム湖版」陸上昆虫類等スクリーニング・グループ，サポート委員（2025年9月
～）.

NPO 法人西日本自然史博物館ネットワーク，「標本救済ネット」ケースワーカー（2024年2月～）.

九州大学総合研究博物館，協力研究員（2023年4月～）.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2025 年 9 月 6 日, 収蔵庫見学対応, 博物館学について(東北学院大学).

民俗資料(製茶道具・焙炉)の調査対応, 永井唐九郎・静岡県茶手もみ保存会, 2026 年 2 月 19 日, 琵琶湖博物館 民俗収蔵庫 1.

考古資料整備, 整理・燻蒸.

資料データベース(松原内湖遺跡・土器)の作成, 調査・準備・登録, 1,595 件.

歴史資料整備, 整理・写真撮影・燻蒸.

歴史資料管理台帳, 整備, 入力, 1,219 件.

資料データベース(絵図・絵画・典籍・文書)の作成, 調査・準備・登録, 954 件.

企画展示用展示品(蛇籠・くずし字カルタ)作製.

定期収蔵庫清掃(考古収蔵庫・特別収蔵庫・一時保管庫), 17 回.

定期清掃(収蔵庫廊下), 7 回.

定期清掃・点検(B展示室), 44 回.

特別清掃(トラックヤード), 2 回.

大掃除(B展示室・おとなのディスカバリールーム・歴史資料整理室), 1 回.

防虫防黴調査, トラップ設置回収, 3 回.

ニューハクシミ対策, バイトトラップ設置回収, 2 回.

収蔵庫空間清浄度検査, ルミノメーター検査, 2 回.

生物発生履歴の整備, 入力, 21 件.

虫発見報告ポスター製作, 掲示.

乳剤散布, 4 回.

ph 測定(7ヶ所), 2 回.

収蔵庫の温湿度記録計用紙交換(4ヶ所), 12 回.

B展示室のおんどとりデータ吸い上げ(2ヶ所), 1 回.

企画展示室の温湿度記録計用紙交換(3ヶ所), 4 回.

企画展示室のおんどとりデータ吸い上げ(3ヶ所), 2 回.

トラックヤード大雨対策作業.

産業廃棄物処理作業.

図書室蔵書点検作業.

博物館企画展示ポスター・チラシ一斉発送作業.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」(2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日), 展示補助.

滋賀県立琵琶湖博物館 30 周年記念ギャラリー展示「民俗学者 橋本鉄男がみた近江—滋賀民俗研究のいしづえ—」(2026 年 3 月 17 日～5 月 24 日), 展示補助.

第 29 回収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示「川を描く、川をつくる」キックオフ企画 近江国絵図のナゾ」(2025 年 6 月 17 日～7 月 27 日), 展示補助.

第 30 回収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 やよいのつぼ」(2025 年 7 月 29 日～11 月 16 日), 展示補助.

第 31 回収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示 琵琶湖真景図でさがそう—栗太郡編—」(2025 年 11 月 18 日～2026 年 1 月 18 日), 展示補助.

研究活動に関する業績

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 8 月 21 日，2025 年度博物館実習，資料活用係，準備・実習補助，琵琶湖博物館。

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2025 年 5 月 13 日，プリンスホテルへ丸子船模型の貸出。

2025 年 6 月 14 日，収蔵庫見学対応，博物館学について(京都文教大学)。

2025 年 9 月 6 日，収蔵庫見学対応，博物館学について(東北学院大学)。

2025 年 11 月 8 日，特別観覧対応，橋本鉄男について(久保田家御家族様)。

2026 年 3 月 21 日，「奥会津の木地師」上映会，運営補助。

研究会「滋賀民俗」準備，3 回。

橋本鉄男旧蔵資料整理(写真データの入力)。

民俗資料整備，整理・クリーニング・燻蒸。

民俗データベース(南小松の石工用具・流星・消防車・鮎地図・ハナバイの花等)，作成・準備。

民俗データベースの登録内容の修正。

琵琶湖博物館資料目録第 20 号の作成補助。

ギャラリー展示用調査・資料の借用(東近江 2 回・高島 5 回・尼崎 1 回)。

無形民俗文化財調査(ずいき祭り)。

野焼きの補助，1 回。

LED 化工事立ち合い(一時保管庫前室・B 展示室・展示ケース)，1 回。

舟の包み込み燻蒸後の移動，2 回。

定期収蔵庫清掃(民俗収蔵庫 1・民俗収蔵庫 2)，12 回。

定期清掃・点検(B 展示室)，49 回。

定期清掃(収蔵庫廊下)，6 回。

大掃除(B 展示室・大人のディスカバリー・歴史資料整理室)，1 回。

特別清掃(トラックヤード・屋上)，2 回。

産業廃棄物処理作業，1 回。

生物環境調査，トラップ設置回収(民俗収蔵庫 1・民俗収蔵庫 2)，3 回。

収蔵庫おんどとりデータ吸い上げ(2 ヶ所)。

B 展示室おんどとりデータ吸い上げ(1 ヶ所)。

防災センターDVD データ吸い上げ(週 1 回)。

収蔵庫担当者会議，報告，3 回。

博物館パンフレット、ポスター等一斉発送作業，3 回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示(B 展示室収蔵品紹介コーナー)第 28 回学芸員のこだわり展示「民具を作る民具―初公開！八日市の柄屋用具―」(2025 年 3 月 18 日～5 月 18 日)，展示補助。

トピック展示(B 展示室収蔵品紹介コーナー)第 32 回学芸員のこだわり展示「柳田國男から滋賀への便り」(2026 年 1 月 24 日～3 月 15 日)，展示補助。

第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる―古地図で昔の堤をさぐる―」(2025 年 7 月 19 日～11 月 24 日)，ジャカゴ製作補助、展示補助。

滋賀県立琵琶湖博物館 30 周年記念ギャラリー展示「民俗学者 橋本鉄男がみた近江」(2026 年 3 月 17 日～5 月 24 日)，展示補助。

印刷物

【学術論文】

高橋啓一・大塚泰介・林 竜馬・間島信男（2025）ナウマンゾウ「浜町標本」の付着堆積物試料から得られた珪藻化石および花粉化石．化石研究会会誌，第58巻，1・2号：11-19.

【一般向けの著作】

高橋啓一（2025）日本のゾウ化石①ナウマンゾウ忠類標本の謎をとく．日本長鼻類化石協議会，56 p.

高橋啓一（2025）古代湖としての琵琶湖“その思いもよらない世界”．大津医学生会誌(大津医学生会)，No. 24：19-20.

高橋啓一（2026）日本のゾウ化石②東京のナウマンゾウ．日本長鼻類化石協議会，50 p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

松岡由子・中村久美子・馬場理香・米山明男・三島弘幸・高橋啓一（2025年11月13日・14日）放射光を用いたカヤネズミの歯の構造解析．第20回バイオミネラリゼーションワークショップ，東京大学柏キャンパス大気海洋研究所(千葉県柏市)，[ポスター発表].

高橋啓一・里口保文・高田雅彦・Sanjeeta Sharma Pokharel（2026年2月15日）淡路島産ステゴドン化石（高田標本）の意義について．地学研究発表会，草津市立市民総合交流センター（滋賀県），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

株式会社日立製作所研究開発グループ「非破壊 X 線検査技術の研究」，共同研究者（2024年10月9日～2026年3月31日）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本長鼻類化石協議会，会長.

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2025年7月8日，「地球環境を教えてくれる伊賀の化石たち」，令和7年度悠々セミナー第2回(伊賀市教育委員会主催)，ハイトピア伊賀（三重県伊賀市），講師.

2026年1月10日，多賀小学校・大滝小学校6年生地域学習発表会（シガタガゾウのサト祭り実行委員会），多賀小学校（滋賀県多賀町），講師.

2026年1月17日，「海辺で化石となった「ナウマンゾウ浜町標本」」，中央区民カレッジまなびのコース（連続講座）第1回，中央区浜町区民館（東京都中央区），講師.

2026年3月3日～4月12日，第2回 シガタガゾウのアート展（シガタガゾウのサト祭り実行委員会），多賀町立博物館・多賀町中央公民館（滋賀県），審査委員.

2026年2月23日，天然記念物指定シンポジウム「マチカネワニ化石 一過去から未来へ，地域から世界へ」（大阪大学総合学術博物館・豊中市立郷土博物館主催），豊中市立中央公民館（大阪府），講師.

2026 年 3 月 29 日，多賀町立博物館講演会「形態と DNA から探るナウマンゾウの進化史」（多賀町立博物館），多賀町立博物館（滋賀県），講師。

メディアへの協力

2025 年 10 月 19 日，読売新聞（読売新聞社）「第 77 回正倉院展の資料調査について」，正倉院宝物調査のコメント，（2025 年 9 月 4 日取材対応ほか）。

2025 年 11 月 2 日，NHKE テレ，日曜美術館「彩なる至宝 天平の美 ～第 77 回正倉院展～」，正倉院宝物調査のコメント（2025 年 9 月 18 日取材対応ほか）。

2026 年 1 月 6 日，読売新聞（読売新聞社），「ナウマンゾウ DNA 解析結果について」．発表論文へのコメント，（2025 年 12 月 12 日取材対応ほか）。

2026 年 3 月 21 日，多賀町有線放送「自然いっぱい多賀のまち」．出演，（2026 年 3 月 17 日収録）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学資料のクリーニングおよび記載作業，24 回。

他の博物館・機関等の活動

多賀町立博物館特別専門員，アケボノゾウ化石の記載（2025 年 4 月～2026 年 3 月）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

アケボノゾウ化石多賀標本保存活用計画策定委員会委員，委員長（2024 年 6 月 11～）。

高島市指定管理者候補者選定委員会委員長（2022 年 10 月 1 日～2027 年 9 月 30 日）。

9th International Conference of Mammoths and their Relatives, scientific committee（2025 年 3 月 10 日～2026 年 1 月 26 日）。

全国ナウマンゾウサミットの開催（北海道中川郡幕別町），世話人（2025 年 10 月 18 日）。

シガタガゾウのアート展，審査委員（2026 年 1 月 24 日）。

印刷物

【専門分野の著作】

中島経夫・北林栄一（2025）大分県由布市の碩南層群判田層から産出したコイ科魚類咽頭歯化石．天草市立御所浦恐竜の島博物館報（1）：17-25

佐藤巧庸・山田凜太郎・中島経夫（2025）日本動物考古学会第12回大会プログラム・抄録集，p.15.

研究活動に関する業績

【学会発表】

佐藤巧庸・山田凜太郎・中島経夫（2025年7月12日）鳥浜貝塚における内水面漁撈活動—縄文時代前期の動態．日本動物考古学会12回大会，沖縄国際大学（沖縄県宜野湾市）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

地球科学（地学団体研究会）の投稿論文の査読，1件．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

2025年11月23日，「咽頭歯化石を同定するための咽頭歯講座」はしかけグループ古琵琶湖調査隊咽頭歯勉強会3．

2026年2月22日，「咽頭歯化石同定会」はしかけグループ古琵琶湖調査隊

他の博物館・機関等の主催行事

2026年1月24日，「下之郷のフナ」，下之郷キッズクラブ Go Kids 守山市教育委員会，守山市下之郷史跡公園館号保存施設．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025年度，琵琶湖博物館名誉学芸員．

2025年度，琵琶湖博物館特別研究員．

名誉学芸員

特別研究員(研究テーマ：水田魚類の研究)

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025 年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2025 年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

（独）水資源機構，近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会，委員（2025 年 9 月～2026 年 8 月）.

（独）水資源機構（関西・吉野川支社）河川水辺の国勢調査（ダム湖編），アドバイザー（2025 年 5 月～2026 年 5 月）.

国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所，瀬田川整備検討委員会，委員，（2024 年 3 月～2026 年 2 月）.

環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員（2024 年 7 月～2027 年 6 月）.

名誉学芸員

特別研究員（研究テーマ：水環境の歴史的機能に関する考古学的研究と博物館学的評価）

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2025）．近江の山岳寺院類型からみた播磨太山寺の史的評価．*淡海文化財論叢*（淡海文化財論叢刊行会），17：117-122．

【専門分野の著作】

用田政晴（2025）専任教員研究活動報告 用田政晴教授．*人間文化*（神戸学院大学人文学会），58．100-102．

用田政晴（2025）考古・民俗資料からみた琵琶湖の船．*令和7年度米原市埋蔵文化財シンポジウム 東アジアから見た琵琶湖の船・米原の船*（米原市教育委員会），米原市文化財シンポジウム・講演会記録集，3．39-54．

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2025年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表．

日本民具学会，評議員．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

神戸学院大学人文学部学生，卒業研究指導．

神戸学院大学博物館学芸員課程学生，現地調査指導．

神戸学院大学人間文化学研究科人間行動論講座，大学院生博士論文指導．

2025年7月9日，講演「現場の博物館学を楽しむー人文知の発見と成長ー」，同志社大学政策学部「文化政策論」，京都市，講師．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の活動

2025年7月21日，講演「考古・民俗資料からみた琵琶湖の船」，令和7年度米原市埋蔵文化財シンポジウム 東アジアから見た琵琶湖の船・米原の船，米原市文化財シンポジウム，滋賀県米原市，講師．

2025年10月11日，講演「五色塚古墳は倭王権の関所かー旧播磨国東端と西端の前方後円墳ー」，神戸学院大学地域研究センター大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ地域講座3，兵庫県明石市，講師．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025年度，琵琶湖博物館名誉学芸員．

2025年度，琵琶湖博物館特別研究員．

印刷物

【専門分野の著作】

Grygier, M. J. & Olesen, J. (2025) 正体不明に節足動物-y 幼生-. In: 仲村康秀, 山崎博史, 田中隼人 (編), カラー図解 水の中の小さな美しい生き物たち ―小型ベントス・プランクトン百科―, 朝倉書店, 東京, pp. 300-301, 346, 350.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Olesen, J. and Grygier, M. J. (2025 年 7 月 7 日) Enigmatic marine planktonic “y-larvae” (Facetotecta): Incomplete life cycle but extraordinary taxonomic diversity, illustrated with videos of many forms from Okinawa (Japan). The Crustacean Society Summer Meeting 2025, ソルボンヌ大学のピエールおよびマリー・キュリーキャンパス (フランス, パリ), [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

海生館研究主題網 NMMA Research 研究人員 葛馬克 Mark J GRYGIER. (2025 年 12 月)
https://www.nmmba.gov.tw/research/RMember_Content2.aspx?n=291A05EEDDA1D4C4&sms=CF7FFA69EB91FF61&s=83376F561B7165E6 [中国文],
https://www.nmmba.gov.tw/researchEN/RMember_Content2.aspx?n=635352E3900FFF8E&sms=CF7FFA69EB91FF61&s=83376F561B7165E6 [英文].

【研究プロジェクト等への参加】

(デンマーク) Carlsberg Foundation, 『Global diversity of “y-larvae” — a 100+ year old enigma in marine biology』 (研究代表者 Jørgen Olesen), 共同研究者 (2023 年 1 月～2026 年 12 月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Springer, *Systematic Parasitology*, Editorial Board Member.
Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, *Zoosystematica Rossica*, Editorial Board.
国立科学博物館, *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 編集委員.
The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 6 件.
Magnolia Press, *Zootaxa*, 査読, 1 件.
(台湾) 中央研究院生物多様性研究中心, *Zoological Studies*, 査読, 1 件.
Springer・Science Press, *Journal of Oceanology and Limnology*, 査読, 1 件.

【受賞など】

(甲殻類) 貝形虫綱ポドコピダ目の *Pseudocandona grygieri* Alekseeva & Krivorotkin in Alekseeva, Krivorotkin & Timoshkin, 2025 [*Zootaxa*, 5734 (1) : 1-91], 新種の記載で献名される.

博物館事業に関する事業

【資料整備活動】

他の博物館・機関等の活動

（台湾）国立海洋生物博物館，動物学・海洋生物学的な本 40 冊および学会誌等の学術雑誌 15 タイトル，196 巻，1 巻あたり 1-12 号，図書提供.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」，パネル更新 1 件.

館内人事、館外活動等に関すること

【館内の人事】

2025 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2025 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

2025 年 5 月 1 日更新（台湾）国立海洋生物博物館，特聘講座（Distinguished Researcher）.

（米国）ロサンゼルス郡立自然史博物館 研究・資料部（甲殻類研究科及び棘皮動物研究科），協力研究員.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

天野一葉（2025 年 9 月 13 日）サンジャクの捕獲事例と外来種管理. 日本鳥学会 2025 年度大会, 北海学園大学(札幌市), [口頭発表].

天野一葉（2026 年 3 月 15 日）サンジャクの分布拡大と捕獲事例. 日本生態学会 73 回大会, 国立京都国際会館(京都市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

公益財団法人 自然保護助成基金, 第 36 期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成「外来鳥類サンジャクの管理計画のための基礎調査」(研究代表者：天野一葉), 研究代表者 (2025 年 10 月～2026 年 9 月).

公益財団法人 自然保護助成基金, 第 36 期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成「津屋崎干潟に生息する絶滅が危惧されるヒガタアシナガバエの保全に向けた分類と生態に関する基礎研究」(研究代表者：榊永一宏), 共同研究者 (2025 年 10 月～2026 年 9 月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Bird Research, 査読, 1 件.

日本鳥学会誌, 査読, 1 件.

Strix, 査読, 1 件.

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 琵琶湖博物館, 鳥類の同定 1 件.

他の博物館・機関等主催行事

2025 年 5 月 30 日, ホタルの生態について, 環境講座「ホタル観察学習会」, 栗東市教育委員会生涯学習課, コミュニティーセンター葉山(滋賀県栗東市), 講師補佐.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県, 生きもの総合調査委員会鳥類部会, 専門委員 (2021 年 4 月～).

日本生態学会, 外来種対策作業部会, 部会員 (2023 年 3 月～).

印刷物

【学術論文】

井内美郎・芦田貴史・里口保文・芳賀裕樹・大塚佳祐（2025）モダンアナログ法を応用した琵琶湖愛知川河口沖の過去数万年間の湖水位変動と沈降速度推定法の諸問題. *地球科学（地学団体研究会）*, 79(3):119-127.

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝（2025～2026）ちこあそ（ちっちゃなこどもの自然あそび）. はしかけニューズレター, 琵琶湖博物館, 182 : 9, 183 : 9-10, 184 : 9-10, 185 : 11-12, 186 : 10-11, 187 : 9-10.

池田 勝（2025）地元も流域も学びの場に. *Mother Lake Goals Evaluation Report シン・びわ湖なう 2025* (マザーレイクゴールズ学術フォーラム), 29-30.

池田 勝（2025）「自然の中での遊びを通じた、自発的で協同的な学び」を地域に広げる. In: 西垣順子・武井哲郎・伊田勝憲（編）*地域がつくる子どもの居場所*, 晃洋書房, 京都, pp. 69-77.

池田 勝（2025）はじめに, 「スキニシー」はじまりの日, 穴掘り, 壁のぼり, なんでヤギ飼ってるん?, 先生といっしょに, 浅柄野には問いがあふれている. スキニシー学校（編）, *フリースクール スキニシー学校の日々*, 能美舎, 滋賀, pp. 10-11, 18-21, 32-33, 34-35, 54-55, 94-97, 118-121.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2025年4月16日～2026年3月18日, はしかけ活動 ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」, 琵琶湖博物館, 企画広報運営, 12件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2025年4月1日～2026年3月31日, 滋賀県フリースクール等連絡協議会, 会長.

2025年4月2日～2025年3月30日, 実習「自然体験型環境教育」, スキニシー学校, 子どもと大人のフリースクール, 運営, 141件.

2025年4月13日～2026年3月15日, にちようの森, せた♪森のようちえん, 小学生の自然体験活動, 運営, 21件.

2025年5月10日, 実習「志津いきもの自然学校」, 志津里山自然学校, 志津まちづくり協議会・草津市, 馬場町奥村但馬守館跡周辺の山林（草津市）, 講師.

2025年5月16日～2026年2月13日, 草津市立玉川中学校, 学校運営協議会, 委員.

2025年5月22日, 実習「琵琶湖の水質」, 奈良女子大学附属小学校5年生6年生, megumi号（琵琶湖上）, 講師.

2025年5月30日, 実習「十禅寺川の生き物探し」, ESDつながり学習（草津市立玉川中学校2年生）, 十禅師川（草津市）, 講師.

2025年6月3日, 講義「琵琶湖概論」, 総合学習（大津市立下阪本小学校5年生）, 大津市立下阪本小学校（大津市）, 講師.

2025年6月6日, 講義「おおかみ川の生き物」, 総合学習ゆめやま（草津市立南笠東小学校3年生）, 草津市立南笠東小学校（草津市）, 講師.

2025年6月13日, 実習「おおかみ川探検隊」, 総合学習（草津市立南笠東小学校3年生）, 狼川（草津市）, 講師.

2025年6月20日, 実習「川の生物観察」, ESDつながり学習（草津市立玉川中学校2年生）, 草津市立玉川中学校（草津市）, 講師.

2025年6月21日, 実習「森の中で楽しい自然あそび」, 県営都市公園びわこ地球市民の森（守山市）, 講師.

2025 年 6 月 28 日, 実習「狼川探検」, 南笠東地域協働合校, 狼川 (草津市), 講師.

2025 年 7 月 1 日, 実習「夏の自然探しネイチャーゲーム」, 生活科 (草津市立志津南小学校 1 年生), 若草中央児童公園 (草津市), 講師.

2025 年 7 月 3 日, 実習「川の生き物探し」, 総合学習 (草津市立渋川小学校 3 年生), 葉山川 (草津市), 講師.

2025 年 7 月 8 日, 実習「琵琶湖の水質」, 奈良市立一条高等学校附属中学校 2 年生, ディオグランデ号 (琵琶湖上), 講師.

2025 年 7 月 19 日～7 月 31 日, 実習「西表島エコツアー」, NPO 法人かごしま子どもと自然研究所, 八重山郡西表島 (沖縄県), 運営.

2025 年 10 月 6 日, 講義「琵琶湖の外来種」, ESD つながり学習 (草津市立玉川中学校 2 年生), 草津市立玉川中学校 (草津市), 講師.

2025 年 10 月 10 日, 実習「外来魚の解剖」, ESD つながり学習 (草津市立玉川中学校 2 年生), 草津市立玉川中学校 (草津市), 講師.

2025 年 10 月 22 日, 実習「湖魚食」, ESD つながり学習 (草津市立玉川中学校 2 年生), 草津市立玉川中学校 (草津市), 講師.

2025 年 10 月 28 日, 実習「秋の自然探しネイチャーゲーム」, 生活科 (草津市立志津南小学校 1 年生), 若草中央児童公園 (草津市), 講師.

2025 年 11 月 3 日, 講演「博物館の森は親子が学び育つ場 琵琶湖博物館ちこあその紹介」, 森のようちえん全国交流フォーラムフリー分科会, 青森大学 (青森県), 発表.

2025 年 11 月 7 日, 実習「琵琶湖の水質」, 六甲学院中学校 3 年生, megumi 号 (琵琶湖上), 講師.

2025 年 11 月 14 日, 実習「琵琶湖の水質」, 龍谷大学平安中学校 1 年生, megumi 号 (琵琶湖上), 講師.

2025 年 11 月 20 日, 実習「ネイチャーゲーム」, 生活科 (大津市立富士見小学校 1 年生), 大津市立富士見小学校 (大津市), 講師.

2025 年 11 月 22 日, 実習「森の中で楽しい自然あそび」, 県営都市公園びわこ地球市民の森 (守山市), 講師.

2025 年 12 月 15 日～12 月 30 日, 実習「西表島エコツアー」, NPO 法人かごしま子どもと自然研究所, 八重山郡西表島 (沖縄県), 運営.

2026 年 1 月 17 日, 実習「森遊びの楽しさ講座」, 森づくり指導者講座 (応用編), 県営都市公園びわこ地球市民の森 (守山市), 講師.

2026 年 2 月 6 日, 出展「琵琶湖博物館ちこあその紹介」, 琵琶湖とともに生きる未来を考えるフォーラム展示ブース, 栗東芸術文化会館 SAKIRA (栗東市), 発表.

2026 年 2 月 28 日, 出展「琵琶湖博物館ちこあその紹介」, 日本自然保育学会第 10 回大会 自然保育情報交換会, 鶴見大学短期大学部 (神奈川県横浜市), 発表.

2026 年 3 月 7 日, 講演「せた森のようちえんからスキニシー学校へ 子どもの育ち、自由」, kototeto ひろば, 長浜まちなか地域づくり連合会, 長浜まちづくりセンター (長浜市), 発表.

特別研究員(研究テーマ：材化石群集からみる植生復元と植物利用の変遷)

縄文時代の材遺体による植生復元と木材利用について検討と整理を行い、論文を作成した。
琵琶湖地域における新生代の材化石群種による植物相や古植生の解明に関して主に樹種解明に協力した。
また、古琵琶湖層群と同時代とされる上総層群について、多摩川の昭島田中化石林の樹種解明に関わる。

印刷物**【専門分野の著作】**

山川千代美・植田弥生・長澤 一雄 (2026) 山形市谷柏の須川河床から産出した最終氷期最盛期の埋没林樹種. *山形県立博物館研究報告*, 43: (印刷中) .

研究活動に関する業績**【学会・研究会での発表等】**

矢部 淳・植村和彦・植田弥生・五井昭一・百原 新 (2025 年 11 月 30 日) 秋田県田沢湖岸で見つかった MIS3 期の化石群集とその意義. 第 40 回植生史学会大会, 岡山理科大学(岡山市), [口頭発表].

山川千代美・福嶋徹・植田弥生・鈴木毅彦 (2025 年 11 月 30 日) 東京都昭島市田中の多摩川河床の化石林. 第 40 回植生史学会大会, 岡山理科大学(岡山市), [ポスター発表].

博物館事業に関する業績**【展示活動】****他の博物館・機関等の活動**

2026 年 1 月, 愛知県立陶器美術館, 瀬戸層産木材化石の樹種と材組織写真の展示に関して協力.

【資料整備活動】**琵琶湖博物館の活動**

材プレパート標本の同定作業.

印刷物

【専門分野の著作】

稲田晃・西村祥子・金子陽子・上中央子・島村健二・志水里美・松江実千代・林竜馬（2025）滋賀県彦根市芹川の段丘堆積物の花粉化石群 - 植生変遷および始良 Tn 火山灰の降灰季節とその植生への影響 - . *第四紀研究* 64 - 4:79 - 97.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業基盤（C）植物遺体群からみた古代都城における草本植物相に関する基礎的研究(研究代表者：上中央子)，研究代表者（2022 年度～2024 年度、延長 2025 年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 7 月 23 日・8 月 20 日，守山市在住小学生対象，植物採集とさく葉標本の作製（弥生の草花標本づくり），守山市下之郷史跡公園。

博物館事業に関する業績

【展示活動】

他の博物館・機関の活動

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館，令和 7 年度平城宮跡資料館秋季特別展「ナラから平城へ - 旧石器からはじまる 3 万年の歴史 -」（2025 年 10 月 18 日～11 月 30 日），法華寺南遺跡復原画（絵：田中さとこ氏）植生の監修。

印刷物

【学術論文】

- 柏尾珠紀（2025）滋賀県におけるフナズシの継承と普及に向けた取り組みー郷土食を通じた地域社会・文化の維持と振興. *農業と経済*, 91(3): 63-71.
- 柏尾珠紀（2025）滋賀県東近江市で生まれた新たな「ご当地そば」ー個人的活動から地域に定着した現代的郷土食. *農業と経済*, 91(3): 141-143.
- 近藤紀章・松本邦彦・竹岡寛文・柏尾珠紀（2025）滋賀県における製菓業からみた菓子の地域的特徴と継承過程. *環境総合研究センター年報*, 22(1): 65-68.
<https://www.shiga-u.ac.jp/rcse/wp/wp-content/uploads/4648e5e2869ad45e657102a636994a85-2.pdf>

【専門分野の著作】

- 柏尾珠紀（2025）「近江ナレズシ県民大調査」の結果と考察. *滋賀の食事文化研究会年報*, 34: 8-14.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 柏尾珠紀（2025年4月6日）コメント，フードスタディーズのクロスロード. 村落研究社会学会関西支部研究会，TKP ガーデンシティ京都タワーホテル会議室（京都市下京区），[コメンテーター].
- 柏尾珠紀（2026年1月30日）市場の川魚店に関する調査報告. 川魚研究会，京都華頂大学日本食学科橋本研究室，京都華頂大学（京都市東山区），[講演].
- 柏尾珠紀（2026年2月7日）コメント. 認定NPO法人びわこ豊穰の郷川づくりフォーラム，守山市民ホール（滋賀県守山市），[コメンテーター].

【研究プロジェクト等への参加】

- 第51回華頂大学学術研究振興資金「京都における日本産淡水魚介類消費の実態解明 川魚文化継承のための基礎的研究」（研究代表者：京都華頂大学・橋本道範），研究分担者（2025年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本村落研究学会，村落社会研究ジャーナル編集委員，2024年4月～.
- 季刊学術誌農業と経済，責任編集者，2024年10月～2025年11月.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2025年11月15日，びわ博フェス，滋賀の食事文化研究会として「湖魚と湖魚食を紹介」で参加.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 京都府農村振興課日本型直接支払制度，支援委員（2015年4月～）.
- 滋賀県流域治水推進審議会，委員（2023年10月～）.
- 滋賀県農村振興交付金制度審議会，委員（2023年10月～）.
- 認定NPO法人びわこ豊穰の郷，理事（2016年6月～）.
- 近畿農政局女性農業委員座談会，オブザーバー（2023年10月～）.

印刷物

【学術論文】

Novak, JB, Prokopenko, AA, Tarasov, PE, Russell, JM, Lindemuth, ER, Shichi, K, Kashiwaya, K, Peck, J, Vachula, RS, Swann, GEA, Pratigya J. Polissar, PJ (2026) Geologic Evidence of Abrupt South Siberian Cooling 2.7 Million Years Ago. *Nature Geoscience*. <https://doi.org/10.1038/s41561-025-01914-x>.

【一般向けの著作】

柏谷健二（2025）日本地形学連合、日本地理学会編「日本の地理学の百年」、古今書院、P. 535-538

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Kashiwaya, K. (2025) Natural and artificial events preserved in lacustrine sediments. 19th EEIW, June, Kinmen, Taiwan.

柏谷健二（2025）自然変動（豪雨・地震）と人間活動を用いた堆積速度の推定．日本地形学連合 2025 年度学術大会, 東京理科大学葛飾キャンパス（東京都葛飾区）．

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（B）「堆積物の極低レベル PB-210 測定・磁性・物性による観測時代以前の土砂災害史復元」（研究代表者：金沢大学・落合伸也），研究分担者（2025 年度～2028 年度）．

印刷物

【学術論文】

Yasuhiro Fujioka・Masayuki Kuwahara・Ryoichi Tabata・Yusuke Fuke・Tetsuji Nakabo (2025) The Biwa salmon, a new species of *Oncorhynchus* (Salmonidae) endemic to Lake Biwa, Japan. *Ichthyological Research (The Ichthyological Society of Japan)*, <https://doi.org/10.1007/s10228-025-01032-z>.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

桑原雅之（2025 年 5 月 16 日）水中ドローンを使ったビワオオウズムシ定量調査の試み．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【大学・学校の講義・実習・学生・生徒の指導など】

2025 年度，大阪 ECO 動物海洋専門学校（ドルフィントレーナー専攻，1 年），アニマルベーシック．

2025 年度，大阪 ECO 動物海洋専門学校（ドルフィントレーナー専攻，水族館・アクアリスト専攻，1 年），水族館研究．

2025 年度，大阪経済法科大学，地球と環境．

博物館事業に関する事業

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，2024 年度ジュニアドクター育成塾船上講座および座学，講師，10 件．

2025 年 9 月 25 日，講演「淡水魚の採集と同定」，淡水魚（シニア自然大学），大戸川（滋賀県大津市），講師．

2025 年 11 月 15 日，第 8 回環境シンポジウム—日本流域の要・琵琶湖流域風土～三井寺環境から読み解く—「歴史・文化・自然」の脈の断絶と再生，船上講座「琵琶湖水域に生息するビワマスとアマゴ」（一般財団法人 杜の財団），講師．

2025 年 3 月 29 日，ジュニアドクター育成塾研究成果発表会，審査委員．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，理事．

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，はっけん号補修委員会委員．

認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト，ブルーパール賞選定委員会委員．

大阪 ECO 動物海洋専門学校，非常勤講師．

大阪経済法科大学，非専任講師．

印刷物

【学術論文】

- Kiuchi, T., Kobayashi, R., Ogawa, S., Elverston, L.L.H., Vavylonis, D. & Watanabe, N. (2025) Laminar organization of molecular complexes in a clathrin coat revealed by nanoscale protein colocalization. *Structure*, 33: 997-1006.
- Nakamura, A., Ogawa, T., Shimakawa, G., Kobayashi, R., Shikanai, T. & Munekage, Y.N. (2026) The cyclic electron flow around photosystem I provides energy production and photoprotection to C₄ plants. *Plant physiology*. doi.org/10.1093/plphys/kiag146.

【専門分野の著作】

- 小林亮平 (2025) マゴメゴケの定点観察. *オカモスニュース*, 60: 12.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 小林亮平・鹿内利治 (2025 年 6 月 7 日) シロイヌナズナ PETC の 2 種類の 1 アミノ酸変異体が示す光合成活性に見られる共通点と相違点. 第 15 回日本光合成学会年会, 埼玉大学 (埼玉県さいたま市), [ポスター発表].
- 鹿内利治・小林亮平 (2025 年 6 月 9 日) Photosynthetic control が増強した新規 Rieske サブユニット変異株の解析. 光合成ユビキティ第 4 回領域会議 (学術変革領域・光合成ユビキティ), ホテル美やま (埼玉県秩父市), [口頭発表].
- Kobayashi, R. & Shikanai, T. (Jul. 29-31, 2025) The E143K mutation in the Rieske ISP subunit of the cytochrome *b₆f* complex alters the extent of photosynthetic control. Photosynthesis Gordon Research Conference (Gordon Research Conferences, GRC), Grand Summit Hotel (Newry, Maine, US), [Poster presentation].
- 小林亮平 (2025 年 8 月 17 日) イブキタチヒダゴケ *Orthotrichum cupulatum* Hoffm. ex Brid. の国内分布および形態・生態的特徴. 日本蘚苔類学会第 54 回滋賀大会, 滋賀県立文化産業交流会館 (米原市), [口頭発表].
- 小林亮平 (2025 年 9 月 19 日) 滋賀県のコケ植物目録改訂にむけて一種の増減と分類学上の問題整理ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 小林亮平・鹿内利治 (2025 年 10 月 4 日) 重層的で絶妙な制御によって守られている光化学系 I. 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻・秋の研究交流会, 京都大学 (京都市), [ポスター発表].
- 小泉明生・山下三平・深町加津枝・小林亮平・宮崎優 (2026 年 1 月 28~30 日) 相国寺裏方丈庭園の物理的環境とコケ植物の分布. グリーンインフラジャパン GIJ2026 (グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン), 東京ビッグサイト (東京都江東区), [ポスター発表].

【受賞など】

- 口頭発表賞 (日本蘚苔類学会), 2025 年 8 月 17 日, イブキタチヒダゴケ *Orthotrichum cupulatum* Hoffm. ex Brid. の国内分布および形態・生態的特徴.
- 京大理学バイオ賞優秀賞 (京都大学大学院理学研究科生物科学専攻), 2025 年 10 月 4 日, 重層的で絶妙な制御によって守られている光化学系 I.
- GIJ2026 ポスター賞 研究者・学生部門 優秀賞 (グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン), 2026 年 1 月 29 日, 相国寺裏方丈庭園の物理的環境とコケ植物の分布.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2025 年 4 月 27 日・6 月 1 日, コケ植物観察会, 琵琶湖博物館, 講師, 2 件, (滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会の山下悟氏と共同).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～」(2025 年 4 月 26 日～6 月 8 日,
担当学芸員：芦谷美奈子・大槻達郎), パネル執筆・展示物の準備および製作.

他の博物館・機関の活動

日本蘚苔類学会第 54 回滋賀大会実行委員会企画, 特別展示「滋賀のコケを調べた先人たち」(2025 年 8 月 16 日～8
月 17 日), NPO 法人大阪自然史センター副理事長の道盛正樹氏と共同で編成.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会蘚苔類部会, 調査担当者 (2023 年～現在).

印刷物

【学術論文】

小松原琢（2025）京都盆地—奈良盆地断層帯周辺の第四系と断層活動性. *地質学雑誌*（日本地質学会），131：423–443.

【専門分野の著作】

宇都宮正志・小松原琢・徳橋秀一・中嶋輝允（2026）大多喜地域の地質（地域地質研究報告 5 万分の 1 地質図幅）. *産業技術総合研究所地質調査総合センター*，印刷中.

中江 訓・細井 淳・佐藤大介・高木哲一・宮川歩夢・小松原琢（2026）1/200,000 地質図「京都及び大阪」. *産業技術総合研究所地質調査総合センター*，印刷中.

小松原琢（2025）非文献史料を用いて「活断層が動かなかったこと・動いていない年代」を把握する試み. *月刊地球，歴史地震学×地震地質学-史料地震学と地形地質学の接点からさぐる古地震学のフロンティアIV-*（海洋出版株式会社），47：227–234.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

小松原琢（2025 年 8 月 30 日）日本海東縁新生プレート境界説ふたたび. 日本第四紀学会 2025 年大会，島根大学（島根県松江市），[口頭発表].

小松原琢・大邑潤三（2025 年 9 月 5 日）1930 年北伊豆地震における人的被害状況と変位量の関係（予察）. 第 42 回歴史地震研究会（豊岡大会），芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市），[ポスター発表].

小松原琢（2025 年 10 月 20 日）南北性・東西性の逆断層が共存する伊勢湾周辺の活構造 PHS スラブ-陸側プレート間の結合度と P 軸方位の可変性に関する作業仮説. 日本地震学会 2025 年度秋季大会，福岡国際会議場（福岡市），[口頭発表].

小松原琢（2026 年 3 月 26 日）近畿三角地帯周辺における沈降運動場と断層運動場の移動. 日本地理学会 2026 年春季学術大会，法政大学市ヶ谷キャンパス（東京都千代田区），[口頭発表]および同上大会座長（地形セッション）.

小松原琢（2026 年 3 月 26 日）大会座長（地形セッション）. 日本地理学会 2026 年春季学術大会，法政大学市ヶ谷キャンパス（東京都千代田区），[座長].

【学会等の役職・運営，論文の査読など】

地学雑誌（東京地学協会），査読，1 件.

地球科学（地学団体研究会），査読，1 件.

学術雑誌（商業誌）3 名共同でコンビーナー担当，月刊地球（歴史地震学×地震地質学 I～V）（海洋出版株式会社）.

【大学・学校の講義・実習，学生・生徒の指導など】

流通経済大学経済学部非常勤講師，地球科学 II（半期）担当.

【受賞など】

日本第四紀学会論文賞，2025 年 8 月 30 日，北上山地北部・外山川上流部（大石川）の最終氷期前期堆積段丘.（本郷美佐緒氏・古澤明氏と共同で受賞）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

2025 年 11 月 8 日，「令和 7 年度美浜歴史講座 第 3 回震災転じて福となした江戸時代の若狭の人々～1662 年寛文地震における先人たちの地震対応～」(福井県美浜町歴史文化館主催)，美浜町歴史文化館(福井県)，講師.

印刷物

【学術論文】

- Shinkai, T., Nakai, M., Takeshita, U., Morita, K., and Shimada, Y. (2025) Refinement of the novel tank diving test: toward standardized and robust analysis of anxiety-like behavior in zebrafish. *Frontiers in Behavioral Neuroscience*, 19, 1624277.
- Aydın, B., Eroldoğan, O. T., Yilmaz, E., Hasan, M. T., Citarasu, T., Akhan, S., Ergün, S., Wei, L. S., Kari, Z. A., Shimada, S., Shinkai, T., Abdel-Latif, H. M. R., and Yilmaz, S. (2026) Evaluation of Non - Conventional Plant - Based Feed Ingredients (NPFIs) for a Sustainable Aquafeed Industry. *Reviews in Aquaculture*, 18(2), e70127.
- 新海拓郎 (2026) 大和平野における金魚のため池養殖の展開と再編成—ため池を管理する地域社会との関係性からの考察— (下). *近畿民俗*, 192: 19-32.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 島田康人, 新海拓郎, 中井美早, 奥西遥香, 臧黎清, 深田一剛, 勝崎裕隆, 西村訓弘 (2025 年 8 月 24 日) ゼブラフィッシュ新規水槽試験を用いた冬虫夏草の抗不安作用の評価. 第 42 回和漢医薬学会学術大会, 広島大学 (広島市), [ポスター発表].
- 新海拓郎 (2025 年 9 月 14 日) 民俗学と水産育種の接点—金魚養殖の現場における民俗知と科学知—. 日本民俗学会 第 939 回談話会 民俗学若手研究セミナー, 國學院大學 (東京都渋谷区).
- 島田康人, 中井美早, 新海拓郎, 奥西遥香, 臧黎清, 深田一剛, 勝崎裕隆, 西村訓弘 (2025 年 9 月 14 日) 冬虫夏草によるゼブラフィッシュ学習機能向上と PC12 細胞神経突起促進作用. 日本生薬学会第 71 回年会, 崇城大学 (熊本市), [ポスター発表].

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

辻川智代（2025 年 8 月 22 日）蛇籠の復元と模型製作—企画展示に関連して—、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤研究（C））「広葉樹利用に関する広域民俗誌の研究—籠を中心に—」（研究代表者：辻川智代），研究代表者（2024 年度～2027 年度）．

琵琶湖博物館共同研究「滋賀県における民俗学の展開と有形・無形民俗文化財の現状に関する研究」（研究代表者：加藤秀雄），参加（2024 年度～2027 年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」，運営．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館資料目録第 20 号 橋本鉄男旧蔵資料，編集．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

高島市文化遺産活用実行委員会，朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト，講師．

特別研究員（研究テーマ：鱗翅目昆虫相とその食性および伝統的蚕糸業・環境保全型農業に関する研究）**印刷物****【専門分野の著作】**

寺本憲之（2025）ヤママユ（天蚕）幼虫の1～5 齢幼外部形態の比較. *野蚕 ー新素材シルクと野蚕機能の研究開発ー*, 97 : 4-7.

寺本憲之（2025）ヤママユの蛹化直後の姿は原始的なチョウ目の蛹と同じ裸蛹だった！. *野蚕 ー新素材シルクと野蚕機能の研究開発ー*, 99 : 3-4.

研究活動に関する業績**【学会・研究会での発表等】**

寺本憲之（2025 年 5 月 10 日）鈴鹿山脈（滋賀県東近江市）に生息する歯をもつ蛾、ニッポンヒロコバネ（コバネガ科）の生態と幼生期. 日本鱗翅学会第 170 回近畿支部例会, 大阪公立大学(大阪市), [口頭発表].

寺本憲之（2025 年 7 月 27 日）【鈴鹿の夏】自然を楽しもう！！「夜の昆虫編」. 令和 7 年鈴鹿の森魅力発見シリーズ 東近江市企画課観察会（東近江市企画部森の文化推進課）, 木地師やまの子の家（滋賀県東近江市）, [口頭発表].

寺本憲之（2025 年 8 月 22 日）鈴鹿山脈に生息する生きた化石、歯をもつ蛾の生態調査結果. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

寺本憲之（2025 年 9 月 28 日）鈴鹿の森の昆虫について. 森の文化資源調査成果報告会（東近江市企画部森の文化推進課）, 愛東コミュニティセンター(滋賀県東近江市), [口頭発表].

寺本憲之（2025 年 10 月 15 日）滋賀県の養蚕. 滋賀の養蚕研修会(湖北農業農村振興事務所農産普及課), 場所：湖北農業農村振興事務所会議室(滋賀県長浜市), [口頭発表].

寺本憲之（2025 年 10 月 25 日）秋の自然探訪ウォーキングー秋の虫を探そうー. 西大路 自然探訪ウォーキング(日野町立西大路公民館), 日野川ダム周辺, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野蚕学会, 委員, 2003 年～現在.

日本鱗翅学会, 近畿支部幹事, 役員会 1 回（2024 年度）, 2004 年～現在（本部評議員期間を除く）.

（農林水産省）生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業, 評議員, 審査 2 件（2025 年度）, 2018 年～現在.

（公財）衣笠繊維研究所, 審査委員, 研究課題審査「助成研究課題審査」, 審査 1 件, 2025 年度.

滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画検討会, 委員, 検討会議（甲賀・湖東・高島ユニット、彦根 D 群）検討 4 件（2025 年度）, 2003 年～現在.

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員, チョウ目（ガ類）滋賀県レッドデータブック 2025 年版執筆, 2003 年～現在.

東近江市, 鈴鹿の森の自然及び歴史文化専門調査員, 東近江市森の文化資源（自然分野）連絡調整（東近江市森の文化博物館構想推進）会議 2 回（5・3 月）, 森の文化資源調査員（鈴鹿山脈の昆虫類の調査 5～1 月）（2025 年度）, 2022 年～現在.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2025 年 5 月～3 月，養蚕（桑栽培，邦楽器糸・真綿原料生産），大音 養蚕の里づくり協議会・いをぎ まゆっこ倶楽部，大音集落・岩脇集落（長浜市・米原市），指導.

2025 年 4 月～3 月，天蚕飼育（クヌギ栽培，繭生産，天蚕卵提供），守山市，指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県立大学 環境科学部，客員研究員.

日本昆虫学会，会員.

日本応用動物昆虫学会，会員.

日本鱗翅学会，会員（近畿支部幹事）.

日本蛾類学会，会員.

日本野蚕学会，会員（委員）.

日本蚕糸学会，会員.

誘蛾会，会員.

民俗文化生物学研究会，会員.

環境省，鳥獣保護管理プランナー.

農林水産省，農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー.

農林水産省，生物系特定産業技術研究支援センター オープンイノベーション研究・実用化推進事業，評議委員.

（公財）衣笠繊維研究所，委員.

滋賀県，第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）検討会，委員.

滋賀県，総合生きもの調査専門委員会，専門委員（昆虫：チョウ目ガ類）.

東近江市，鈴鹿の森の自然及び歴史文化専門調査員.

印刷物

【学術論文】

戸田 孝(2025) 理工系と自然史系に跨る館の実例調査と展望. *博物館学雑誌* (全日本博物館学会), 51 (1) : 1-12.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

戸田 孝・芦谷 美奈子・金尾 滋史(2025年7月6日) 博物館評価に必要な活動記録の保持. 全日本博物館学会第51回研究大会(全日本博物館学会), 國學院大學(東京都渋谷区), [口頭発表].

戸田 孝(2025年9月5日) 科学館的手法を要する地域の自然現象に関する論点整理. 日本科学教育学会第49回年会(日本科学教育学会), 広島大学教育学部(広島県東広島市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖博物館の「交流の場」としての活動振り返りと評価手法の検討」(研究代表者：芦谷美奈子), 研究分担者(2025年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理学会, 運営委員, 期間の定めなし.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025年4月7日～8月4日, 滋賀県立大学環境科学部, 環境物理学 II (電磁気学)・講義.

2025年4月10日～7月17日, 滋賀県立大学環境科学部, 環境物理学実験・実験指導.

2025年4月15日～2026年1月20日, びわこ成蹊スポーツ大学, 琵琶湖の環境と科学・講義.

2025年10月2日～10月30日, 滋賀県立大学環境科学部、人間文化学部, 博物館資料保存論・講義(序論部分).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2025年11月16日, びわ博フェス, 琵琶湖博物館, ワークショップ「湖流に関わる科学実験」運営.

印刷物

【学術論文】

- Tuji, A., Ichise, S., Ohtsuka, T. & Negoro, T. (2025) On the Sudden Appearance of *Coronia echeneis* (Surirellaceae, Bacillariophyceae) in Freshwater Lake Biwa. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series B (Botany)*, 51(3): 97-106.
- Hatanaka, A., Inoue, M., Izumino, H., Yoshiyama, K., Negoro, T. & Ohtsuka, T. (2025) Diatom Flora in a Channel fed by Lake Biwa on the campus of the University of Shiga Prefecture, Japan. *Diatom*, 41: 23-46.

【専門分野の著作】

- 大塚泰介・根来 健 (2025) 琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究. (公財) 令和6年度水質保全研究助成報告書, 琵琶湖・淀川水質保全機構, 13 pp. (published online)
http://www.byq.or.jp/josei/r06/accomplishment_report/1-1_report_ohtsuka.pdf#view=fitv.

【一般向けの著作】

- 渡辺圭一郎・根来 健・鈴木隆仁・大塚泰介 (2025) 琵琶湖博物館マイクロアクアリウムからーミクロの世界によろこそー. 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (編), 京都新聞出版センター, 京都, 140 pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 畑中 顕・井上聖花・泉野央樹・吉山浩平・根来 健・大塚泰介 (2025年6月14日) 滋賀県立大学の水路に出現した付着珪藻の微細構造観察. 日本珪藻学会第46回大会, 国立科学博物館 (茨城県つくば市), [口頭発表].
- 大塚泰介・根来 健・中村優介・鈴木隆仁 (2025年6月15日) 琵琶湖辺の池で大発生した *Eunotia formica* の形態学的研究. 日本珪藻学会第46回大会, 国立科学博物館 (茨城県つくば市), [口頭発表].
- 松岡数充・加山 基・谷村 文・井村綾子・石井健一郎・根来 健 (2025年10月25日) 淡水性緑藻類 *Monactinus biwaensis* は琵琶湖-淀川水系の固有種か?. 汽水域研究会 2025年 (第17回) 舞鶴大会, 舞鶴市商工観光センター (京都府舞鶴市), [ポスター発表].
- 一瀬 諭・根来 健・大塚泰介・辻 彰洋 (2025年11月16日) 琵琶湖・瀬田川に出現した *Coronia echeneis* の連続調査について. 日本水処理生物学会第61回大会, 東洋大学川越キャンパス (埼玉県川越市), [口頭発表].
- 根来 健・大塚泰介・伊藤裕之 (2025年11月16日) 水凍結乾燥法を用いた SEM 観察による琵琶湖南湖の黄金藻類. 日本水処理生物学会第61回大会, 東洋大学川越キャンパス (埼玉県川越市), [口頭発表].
- 河上新大・池田将平・那須文彰・松井一葉・一瀬諭・根来 健・辻 彰洋 (2026年3月11日) 琵琶湖で新規に確認された大型緑藻の形態的特徴と傾向について. 日本水環境学会年会, 中央大学多摩キャンパス (東京都八王子市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変化」(研究代表者: 芳賀裕樹), 共同研究者 (2019年度~2025年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「池干し前後の水質・底質・食物網解析による適切なため池管理に関する研究」(研究代表者: 菅原巧太郎), 共同研究者 (2023年度~2026年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境技術学会，理事，2015 年～.

日本水処理生物学会，評議員，2017 年～2025 年.

日本水処理生物学会，企画委員会委員長（2020～2022 年），幹事長（2023 年～2025 年）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2024 年 5 月 14 日～2026 年 3 月 1 日，滋賀県立大学大学院環境科学研究科 修士課程 2 年生の SEM 観察等実技指導，琵琶湖博物館電子顕微鏡室（随時）.

2025 年 9 月 9 日，滋賀県立大学大学院環境科学研究科 生態系保全特別講義（修士課程 1 年） 1 時限～5 時限.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「たんさいぼうの会」，副会長.

はしかけ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」，会員.

2026 年 3 月 29 日（日），クラウドファンディング第 2 弾リターン「学芸員の研究体験ープランクトン」，電子顕微鏡室でカブトミジンコの被殻表面の構造観察を実践・解説，鈴木隆仁学芸員の補助.

他の博物館・機関の主催行事

2025 年 5 月 8 日，講演「人口減少および気温上昇に伴う給水水質管理の重要性の高まり」，令和 7 年度日本水道協会滋賀県支部総会，近江八幡市 総合福祉センター（ひまわり館），講師.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

プランクトン・琵琶湖の水質等について，展示交流員への解説・質疑応答・資料作成，多数.

マイクロバー訪問者（一般見学者）に対する，琵琶湖のプランクトンに関する解説・質問回答，多数.

プランクトンの顕微鏡写真，作成，マイクロバーへの設置.

はしかけ会員が行う電子顕微鏡を用いた自主研究に係る指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県近江八幡市水道事業運営委員会，委員（副委員長）（2019 年～）.

滋賀県草津市上下水道事業運営委員会，委員（2025 年～）.

NPO 法人 水道事業活性化懇話会，委員（2015 年～）.

（一社）全国水道管内カメラ調査協会，専門委員（2017 年～）.

印刷物

【学術論文】

Fujioka Y. Kuwahara M. Tabata R. Fuke Y. Nakabo T. (2025) The Biwa salmon, a new species of *Oncorhynchus* (Salmonidae) endemic to Lake Biwa, Japan. *Ichthyological Research*, <https://doi.org/10.1007/s10228-025-01032-z>.

藤岡康弘・大植伸之(2025) さまざまな基質および水域におけるホンモロコ自然産着卵のふ化率. *ICHTHY*, 54: 80-89.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：芳賀裕樹），研究分担者（2019～2025 年度）.

川魚研究会（研究代表者：京都華頂大学・橋本通範），研究分担者（2025 年度～）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Fisheries Science, 査読, 1 件.

ICHTHY, 査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 6 月 9 日, 滋賀県立大学環境社会学大学院生, 講義「ビワマスの生活史について」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2025 年 11 月 15 日, びわ博フェスへの参加, うおの会主催のプラバン作り, 琵琶湖博物館.

他の博物館・機関等の主催行事（地域連携を含む）

2025 年 4 月 23 日, ビワマスの産卵条件に関する指導, 近江舞子内湖自然再生協議会, 大津市志賀町.

2025 年 5 月 17 日, 「琵琶湖水系の多様性と魚・漁・食」の講演, SEA TO SUMMIT 2025, HIGASHI OUMI, 開会式における環境講演会（東近江シーツーサミット実行委員会）, 能登川コミュニティセンター（東近江市）.

2025 年 5 月 19 日, 「琵琶湖の生き物と漁業」の講演, 近江八幡市島小学校 3 年生, 近江八幡漁業協同組合事務所（滋賀県近江八幡市）.

2025 年 5 月 26 日, 東近江市森の文化推進課連絡調整会議出席, 東近江市役所会議室（滋賀県）.

2025 年 6 月 6 日, 「琵琶湖淀川水系の形成と多様な生き物」の講演. 人と自然の講座, シニア大阪自然大学校, （大阪市 NS21 ビル 9 階ホール）

2025 年 6 月 9 日, 米川のビワマスについての協議, 長浜市まちづくり協議会、長浜さざなみセンター（滋賀県長浜市）.

2025 年 6 月 14 日, 鳴門コウノトリ保護協議会への「ゆりかご水田」の案内, 滋賀県野洲市.

2025 年 7 月 10 日, 日野町立西大路小学校 5 年生, 日野川の探検指導, 日野川（滋賀県日野町）.

2025 年 7 月 20 日, 淡水魚の解説, 西大路公民館自然探訪会, 日野川（滋賀県日野町）

2025 年 7 月 30 日, 東近江市環境審議会へ出席, 東近江市役所（滋賀県東近江市）.

2025 年 8 月 19 日, 日野町環境審議会へ出席, 日野町役場（滋賀県日野町）.

2025 年 9 月 6 日, 東近江市環境課「お魚観察会」の講師, 佐久良川（滋賀県東近江市）.

2025 年 9 月 22 日, 野洲市家棟川のビワマス産卵場の造成指導, 家棟川・童子川・中の池川にビワマスを戻すプロジェクト主催（滋賀県野洲市）.

2025 年 10 月 14 日, 米川のビワマスについての協議, 長浜市まちづくり協議会（長浜市）.

2025 年 10 月 18 日, 愛知川渋川のビワマス魚道設置協力, 愛知川漁業協同組合主催, 愛知川（滋賀県東近江市）.

2025 年 10 月 21 日, 東近江市環境審議会へ出席, 東近江市役所（滋賀県東近江市）.

2025 年 11 月 9 日, 東近江市森の文化推進課主催観察会の講師（ビワマス観察）, 愛知川渋川（滋賀県東近江市）.

2025 年 11 月 10 日, 愛知川上流茶屋川の魚類相調査, 東近江市森の文化推進課, 愛知川茶屋川（滋賀県東近江市）

2025 年 11 月 20 日、「ビワマスの生態について」の講演，野洲市コミュニティ協会講演会、野洲市田園空間センター会議室（滋賀県野洲市）。

2025 年 11 月 23 日、「琵琶湖水域における魚類の分布と保全」の講演と指導， 仙台市水辺環境保全グループ主催，仙台市。

2025 年 12 月 1 日，ビワマスの産卵についての協議，長浜市まちづくり協議会、長浜さざなみセンター（滋賀県長浜市）。

2025 年 12 月 3 日，イワナ卵の埋設放流の指導，愛知川漁業協同組合，愛知川和南川（滋賀県東近江市）。

2026 年 1 月 30 日，川魚の研究会における「琵琶湖水系の多様性と魚・漁・食」の講演，京都華頂大学（京都市）

2026 年 2 月 5 日，永源寺ダムの排砂バイパス設置に関する審議会への出席，愛知川沿岸土地改良区事務所（滋賀県東近江市）。

2026 年 2 月 11 日，東近江市森の文化推進課主催観察会の講師（ビワマスの鱗観察），愛知川漁業協同組合事務所（滋賀県東近江市）。

2026 年 2 月 15 日，「ビワマスには何で学名がなかったん」の講演，ビワマスフォーラム in 野洲，家棟川・童子川・中の池川にビワマスを戻すプロジェクト主催，コミュニティセンターなかさと大ホール（滋賀県野洲市）。

2026 年 2 月 19 日，日野町環境審議会へ出席，日野町役場（滋賀県日野町）。

2026 年 2 月 22 日，琵琶湖の沖曳網漁獲魚の同定の指導，長浜 MLG Café，近江淡水魚研究所主催，長浜市まちづくりセンター調理室（滋賀県長浜市）。

2026 年 3 月 2 日，野洲市家棟川のビワマス稚魚調査の指導，家棟川・童子川・中の池川にビワマスを戻すプロジェクト主催（滋賀県野洲市）。

2026 年 3 月 15 日，愛知川渋川のビワマス魚道撤去の協力，愛知川漁業協同組合主催，愛知川（滋賀県東近江市）。

2026 年 3 月 16 日，東近江市森の文化推進課連絡調整会議出席，東近江市役所会議室（滋賀県東近江市）。

2026 年 3 月 21 日，「ビワマスは生まれた川に戻ってくる」の講演，ビワマスの稚魚放流会，長浜市まちづくり協議会主催、長浜さざなみセンター（滋賀県長浜市）。

2026 年 3 月 29 日，「ビワマスになぜ 100 年間も学名がなかったのか」の講演，琵琶湖博物館うおの会勉強会、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

日野町立西大路公民館，館長，2025 年～。

東近江市環境審議会，委員（2017 年～）。

国営土地改良事業「近江東部地区」推進協議会環境配慮検討委員会，委員（2020 年～）。

東近江市（仮）森の文化博物館専門委員（2022 年～）。

日野町環境審議会，委員（2024 年 12 月～）。

日野町子ども子育て会議，委員（2025 年 4 月～）。

日野町文化財保存活用会議，委員（2025 年 4 月～）。

印刷物

【専門分野の著作】

増田敬祐（2025）「風土的環境倫理の現代性—亀山風土論という磁場」．*環境思想・教育研究*（環境思想教育研究会），（17）： 47-54.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

増田敬祐（2025 年 12 月 13 日）荒神山の里山利用の歴史．日夏里ファンクラブ談話会（日夏里館）（滋賀県彦根市），[口頭発表]．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

共生社会システム学会，理事，2023 年 4 月～．

「共生社会システム研究」（共生社会システム学会），編集委員，投稿論文，編集，2 件．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 4 月～2025 年 9 月，東京農業大学，講義「環境倫理」，非常勤講師．

2025 年 4 月～2025 年 9 月，大阪公立大学，講義「環境・生命・倫理」，非常勤講師．

印刷物

【専門分野の著作】

八尋克郎（2025）滋賀県におけるエグリゴミムシの記録. *Came 虫*, 221: 9.

八尋克郎（2026）昆虫類の概要. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会（編），*滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック 2025 年版—*，サンライズ出版，彦根，p. 420.

八尋克郎（2026）オオクワガタ；セアカオサムシ；クロカタビロオサムシ；オオヨツボシゴミムシ；オサムシオドキ；クロケブカゴミムシ；コキベリアオゴミムシ；ヒメボタル；ムナグロチャイロテントウ；アキオサムシ；シガラキオサムシ；サメメクラチビゴミムシ；イシダメクラチビゴミムシ；オオヒョウタンゴミムシ；キベリマルクビゴミムシ. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会（編），*滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック 2025 年版—*，サンライズ出版，彦根，p. 434; 449; 483; 484; 485; 489; 533; 534; 555.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

今田舜介・中西康介・牛島稔広・八尋克郎（2025 年 6 月 20 日）滋賀県昆虫目録の更新と滋賀県の昆虫相解明における展望. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

八尋克郎（2025 年 6 月 29 日）第 33 回環境アセスメント動物調査手法講演会の司会・進行. 日本環境動物昆虫学会，大阪公立大学 I-site なんば（大阪市），[座長].

八尋克郎・武田滋・大槻達郎（2025 年 11 月 21 日）佐波江浜における地表徘徊性甲虫の種類組成と季節消長. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境動物昆虫学会第 13 期環境アセスメント動物調査手法研究部会，運営委員，2010 年 2 月～.

滋賀オサムシ研究会，事務局，1997 年度～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2025 年 4 月～9 月，龍谷大学「環境の科学」，講義.

2025 年 6 月～7 月，龍谷大学「地域環境概論 A」，講義.

2025 年 10 月～2026 年 3 月，龍谷大学「博物館情報・メディア論」，講義.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2025 年度，はしかけ「虫架け」，はしかけ活動，会員.

他の博物館・機関等の主催事業

2025 年 9 月 27 日，生きもの調査，イオンタウン湖南，湖南市，講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2025 年 5 月 1 日・5 月 29 日・6 月 3 日，昆虫乾燥標本（オサムシ科甲虫）の整理，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長（2011 年 4 月 1 日～）.

野生動植物との共生に関する検討会，委員（2012 年 4 月 1 日～）．
守山野洲少年補導委員，委員（2025 年 4 月 1 日～）．

特別研究員（研究テーマ：森林環境学習における児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発）

研究活動に関する業績**【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】**

- 2025 年 4 月 30 日, 森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修, 葛川少年自然の家 (滋賀県大津市), 講師.
- 2025 年 5 月 10 日, (一社)日野里山フリースクール指導員研修会, 日野里山フリースクール (滋賀県日野町), 講師.
- 2025 年 6 月 18 日, 滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」, 甲南高校実習農園 (滋賀県甲賀市), 講師.
- 2025 年 6 月 19 日, 森林体験学習「やまのこ」事業視察, 高取山ふれあい公園 (滋賀県犬上郡多賀町), 指導.
- 2025 年 6 月 25 日, 森林体験学習「やまのこ」事業視察, 近江富士花緑公園 (滋賀県野洲市), 指導.
- 2025 年 6 月 26 日, 森林体験学習「やまのこ」事業視察, 荒神山自然の家 (滋賀県彦根市), 指導業務.
- 2025 年 7 月 5 日, (一社)日野里山フリースクール指導員研修会, 日野里山フリースクール (滋賀県日野町), 講師.
- 2025 年 7 月 9 日, 森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修, みなくち子どもの森 (滋賀県甲賀市), 講師.
- 2025 年 6 月 16 日, 滋賀もりづくりアカデミー, 前期「森林学講義および実習指導」, 滋賀もりづくりアカデミー (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 6 月～2025 年 9 月, 滋賀県森林組合連合会緑の雇用事業, 「林業技術に関する講義」, 林業普及センター (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 6 月～2025 年 9 月, 滋賀県森林組合連合会緑の雇用事業, 「林業機械実習指導」, 林業普及センター (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 8 月 25 日～29 日, 9 月 3 日～4 日, 滋賀もりづくりアカデミー, 前期「林業機械実習」, 滋賀もりづくりアカデミー (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 9 月 6 日, (一社)日野里山フリースクール指導員研修会, 日野里山フリースクール (滋賀県日野町), 講師.
- 2025 年 9 月 18 日, 森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修, 高山キャンプ場 (滋賀県長浜市), 講師.
- 2025 年 9 月 24 日, 森林体験学習「やまのこ」事業指導員研修, 森林公園くつきの森 (滋賀県高島市), 講師.
- 2025 年 10 月 1 日, 滋賀県立伊香高校森の探求科授業, 「人工林調査実習」伊香高校学校林 (滋賀県長浜市), 講師.
- 2025 年 10 月 7 日, 滋賀もりづくりアカデミー, 後期「森林学講義および実習指導」, 滋賀もりづくりアカデミー (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 10 月 15 日, 滋賀もりづくりアカデミー, 後期「林業機械講義および実習指導」, 滋賀もりづくりアカデミー (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 10 月 31 日, 森林体験学習「やまのこ」事業視察, 栗東森の未来館 (滋賀県栗東市), 指導.
- 2025 年 11 月 12 日, 滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」, 甲南高校実習農園 (滋賀県甲賀市), 講師.
- 2025 年 11 月 13 日, 滋賀県森林政策課, 県民講座「大人のやまのこ体験」, 林業普及センター (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 11 月 19 日, 滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」, 甲南高校実習農園 (滋賀県甲賀市), 講師.
- 2025 年 11 月 20 日, 森林体験学習「やまのこ」事業視察, 河辺生き物の森 (滋賀県東近江市), 指導.
- 2025 年 12 月 8 日～12 日, 滋賀もりづくりアカデミー, 後期「林業機械実習」滋賀もりづくりアカデミー (滋賀県野洲市), 講師.
- 2025 年 1 月 21 日, 滋賀県立甲南高等学校「森林科学コース実習」, 甲南高校実習農園 (滋賀県甲賀市), 講師.
- 2025 年 3 月 13 日, 森林体験学習「やまのこ」事業令和 7 年度第 4 回専任指導員研修, 感想文を用いたプログラム効果測定各施設結果の報告および研究経過報告会, 滋賀県庁 (大津市), 滋賀県森林政策課, 講師.

博物館事業に関する業績**【交流・サービス事業】****他の博物館・機関等の主催行事**

- 2025 年 10 月 19 日, 「滋賀県甲賀市育樹活動」(イオンの森「あぶらひ」協働事業), 森林政策課やまの健康推進係・びわ湖材流通推進課普及指導係 (滋賀県甲賀市), 企画制作運営及び講師.

2025 年 12 月 16 日，令和 7 年度滋賀県立伊香高等学校第 2 回「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」運営指導委員会，滋賀県立伊香高等学校（長浜市），運営指導委員.

2025 年 12 月 6 日，大原自治振興会地域環境部会企画「里山で楽しむ一日」，大原自治振興会(滋賀県甲賀市)，講師.

2025 年 10 月 4 日・12 月 13 日・3 月 28 日，たかしまの森へいこうプロジェクト&綾羽工業（株）コラボ企画安曇川の河辺林竹林整備，たかしま市民協働交流センター（滋賀県高島市），講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

甲賀愛林クラブ役員，女性部部長．（2008 年 4 月～）．

甲賀木の駅運営委員会，役員・事務局（2014 年 4 月～）．

くでじゅう甲賀，役員（2014 年 4 月～）．

くぬぎの森自然遊び広場&山の学校，代表（2012 年 4 月～）．

巨木と水源の郷をまもる会，会員(2021 年 4 月～）．

滋賀県植物研究会，会員（2019 年 4 月～）．

滋賀もりづくりアカデミー，講師（2021 年 6 月～）．

林野庁補助事業「緑の雇用」事業，講師(2021 年 6 月～).

日野里山フリースクール，自然体験授業担当（2022 年 4 月～）．

滋賀県立伊香高等学校新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」運営指導委員会，運営委員（2023 年 4 月～）．

里山実験室 HareMori，主催（2021 年 4 月～）．

滋賀県森林組合連合会，理事（2025 年 8 月～）．

印刷物

【学術論文】

- Sugahara, K., Kinami, R., Kim, R., Takeuchi, D., Yamamoto, M., Yanagida, T., Yokoyama, H., Mekata, T. & Shirakashi, S. (2025) Host range of microsporidian *Inodosporus fujiokai* in experimentally infected fishes: a risk analysis for freshwater aquaculture. *Fish Pathology*, 60 (2): 69-75.
- Kinami, R., Kim, R., Shirakashi, S., Sugahara, K., Yamamoto, M., Yanagida, T. & Yokoyama, H. (2025) Transmission routes and experimental infection model of *Inodosporus fujiokai* (Microsporida) in fish. *Fish Pathology*, 60 (2): 61-68.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 加藤秀雄・山本充孝（2025年4月18日）湖産アユをめぐる科学知と民俗知—生活世界における「数えること」と「経験」の関係性。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 山本充孝・加藤秀雄・金辻宏明（2025年9月11日）滋賀県における河川放流前の琵琶湖産アユに対する冷水病および *Edwardsiella ictaluri* の保菌検査実施状況と長期的傾向。令和7年度日本魚病学会秋季大会，岡山理科大学今治キャンパス（愛媛県今治市），[口頭発表]。
- 石崎大介・山本充孝・大植伸之・近藤昭宏・松田涼・山中裕樹（2025年11月23日）環境DNAを用いた琵琶湖南湖におけるチャネルキャットフィッシュの拡散状況の把握。2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区），[口頭発表]。
- 山本充孝（2026年1月24日）琵琶湖北湖において電気ショッカーボートでオオクチバスを効果的に捕獲できる条件。第21回「外来魚情報交換会」，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 菅原和宏・山本充孝・石橋海智・木南竜平・白樫 正・柳田哲矢・米加田 徹・横山 博（2026年3月8日）微胞子虫 *Inodosporus fujiokai* に人為感染させたニジマスに対するフェバンテルおよびアルベンダゾールの経口投与の効果。令和8年度日本魚病学会春季大会，東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区），[口頭発表]。
- 山本充孝（2026年3月26日）内水面における加害生物対策に関する事例 琵琶湖における外来魚駆除の取組とその効果。令和8年度日本水産学会理事会・全国水産試験場長会 合同シンポジウム「地域の課題に立ち向かう水産学のこれから」，東京海洋大学 品川キャンパス（東京都港区），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「ダム上流域の放流アユと人の関係をめぐる環境民俗学的研究」（研究代表者：加藤秀雄），共同研究者（2025年度～2029年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の活動

- 2025年5月25日，第24回「琵琶湖外来魚駆除の日」（外来魚解剖教室），琵琶湖を戻す会，烏丸半島多目的広場（滋賀県草津市），講師。
- 2025年7月21日，赤野井湾探検会（ブラックバスの解剖），びわこ豊穰の郷，玉津小津漁業協同組合（滋賀県守山市），講師。
- 2025年8月23日，野洲川アユ産卵床造成，令和7年度・野洲川ミズベリング “川底の石を動かしてアユの産卵場をつくろう”（国土交通省），野洲川（滋賀県守山市），講師。

メディアへの協力

2026 年 1 月 27 日，びわこ放送 ニュース滋賀いろ「琵琶湖の外来魚対策」，取材対応（1 月 13 日取材）．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

魚類防疫士連絡協議会，近畿中国ブロック理事（副会長）（2021 年～）．

研究活動に関する業績**【学会・研究会での発表等】**

米田一紀・川瀬成吾（2025年11月23日）天然域に産み付けられたホンモロコ卵および孵化仔魚の干出耐性. 2025年度日本魚類学会年会，東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区），[ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

宝ホールディングス株式会社・タカラハーモニストファンド助成事業「琵琶湖の人為的水位低下がホンモロコ卵の生残に与える影響の解明」（研究代表者：米田一紀），研究代表者（2024年度～2025年度）.

公益財団法人河川財団・河川基金助成事業「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の環境変化が仔魚加入に与える影響の解明」（研究代表者：米田一紀），研究代表者（2025年度～2026年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会，2026年魚類学会年会実行委員，2025年12月～.

総合研究・共同研究による印刷物

<総合研究>

- 石川可奈子・井上栄壮・蔡吉・芳賀裕樹 (2005) 琵琶湖沿岸の自然再生・修復と生態系の現状評価. 用水と排水. 67:722-729.
- 伊藤玄・川瀬成吾・和田英敏・藍澤正宏. 2025. 田中茂穂コレクションから発見された絶滅地域・長崎県産のオヤニラミ標本, *Ichthy*, 54, 22-26.
- 亀田佳代子 (2025) 各論 17. カワウ. In: 「野生生物と社会」学会 (編) *野生動物の保全と管理の事典*, 朝倉書店, 東京都, pp. 443-453.
- 川瀬成吾 (2025) 琵琶湖センス・オブ・ワンダー 湖と人が織りなす歴史と今 19 魚類標本. 湖国と文化. 49: 60-61.
- Mochizuki, K., Wada, H., Matsumoto, T., Kawase, S., Aizawa, M., Sakamoto, K., Ueshima, R. (2025) Specimens of the genus *Gnathopogon* (Cypriniformes: Cyprinidae) deposited in the Department of Zoology, The University Museum The University of Tokyo. 東京大学総合研究博物館標本 資料報告 第139号, 139号: 9-24.
- Ogura, T., Shimamoto, K., Mizuno, T., Katayama, D., Yamauchi, H., Hattanji, T. (2025) Identification of traditional flood control facilities concealed in the riparian forest: a case study of the Echi River, central Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* (Japan Geoscience Union), 12(41), 1-13.
- 大塚泰介・根来 健・一瀬 諭・石川可奈子・辻 彰洋 (2025) 琵琶湖のプランクトンの長期変動—なぜ富栄養化が止まっても有害藻類ブルームが発生し続けるのか?— (特集 琵琶湖における環境変動と漁業生産の変化: 瀬戸内海と比較して考える). 月刊海洋. 57: 267-278.
- Hayashi, R., Sasaki, N., Takahara, H., Sugita, S. (2025) Testing the REVEALS-based vegetation reconstruction around Lake Biwa, western Japan, using absolute pollen productivity estimates derived from the flower counting method. *The Holocene* 35, 1272-1282.

<共同研究>

- 井内美郎・芦田貴史・里口保文・芳賀裕樹・大塚佳祐 (2025) モダンアナログ法を応用した琵琶湖愛知川河口沖の過去数万年間の湖水位変動と沈降速度推定法の諸問題. 地球科学, 79: 119-127.
- 松岡数充・石井健一郎・大塚泰介 (編) (2025) 2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム「珪藻研究の最前線」. 日本プランクトン学会報, 72(2): 43-60.
- 大槻達郎 (2025) 淡水環境に生育する海浜植物における葉の形態変異について. 滋賀県植物研究会会報, 18: 22-23.
- 里口保文 (2025) 鮮新—更新世における琵琶湖の止水域の変化と水棲生物相に与える影響. In: 琵琶湖博物館研究調査報告書, 38, 4-16.
- Tuji, A., Ichise, S., Ohtsuka, T., Negoro, T. (2025) On the Sudden Appearance of *Coronia echeneis* (surirellaceae, acillariophyceae) in freshwater Lake Biwa. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany*, 51(3): 97-106.
- 山川千代美 (2025) 大型植物化石群集からみた山門湿原における約 5,000 年前の古植生復元と環境の変化. 特集: 自然共生サイト『奥びわ湖・山門水源の森』の保全活動と課題, *地域自然史と保全*, 47 (1): 21-31.
- 楊平 (2025) 環境問題の社会学解析—生活環境主義の立場. 『環境社会学』社会科学文献出版社, 第2期: 60-74.
- 米田実・加藤秀雄編 (2026) 琵琶湖博物館資料目録 20号 橋本鉄男旧蔵資料—滋賀民俗研究の先覚者とその足跡—. 滋賀県立琵琶湖博物館, 1-146.

*編集者注: 学芸職員および特別研究員による印刷物については、各員のページを参照。

このリストでは、研究課題ごとに分けて、著者名のアルファベット順に並べた。

2025 年度の研究活動を振り返って

第三次中長期計画に基づき「世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進」「研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」「研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」を進め、博物館の研究事業である総合研究 1 件、共同研究 6 件、申請専門研究 3 件に加え、外部助成金を受けた研究として科研費 25 件（代表 10 件、分担者 15 件）、その他 5 件を実施した。これらの研究の成果は学術論文 35 件、専門向けの著述 46 件のほか、企画展示の開催、常設展示の更新、各種交流事業を通じて社会に還元した。このほか、伊藤忠商事と実施している「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」では淀川水系のアユモドキの繁殖を行っている。

里口保文上席総括学芸員が日本第四紀学会学術賞、林竜馬専門学芸員が日本第四紀学会論文賞、大塚泰介総括学芸員が International Publication Award (University of the Philippines) と第 3 回日本生態学会自然史研究振興賞をそれぞれ受賞した。また、2025 年 6 月にはビワマスを学術的に固有種として確定する論文が発表され大きなニュースになったが、この論文は当館の特別学芸員である藤岡康弘氏、桑原雅之氏、当館学芸員の田畑諒一ほか 2 名により発表されたものである。

研究成果の発信力の強化としては、過去に刊行した研究報告書のウェブ公開（J-Stage）を継続し、閲覧ページ数、ダウンロード数ともに順調に増加している。

外部機関との連携では、韓国洛東江生物資源館との実務者会議を実施した。

研究環境の整備においては水質分析装置の導入を行うなど、必要な装置類の充実に努めている。ほかの機器類についても更新計画を策定し、順次更新していく予定である。

研究部長 芳賀裕樹

琵琶湖博物館 業績目録 第 30 号
2025 年度

令和 8 年（2026 年）7 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館
〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
電話 077-568-4811(代)

印刷：株式会社モリワキ印刷